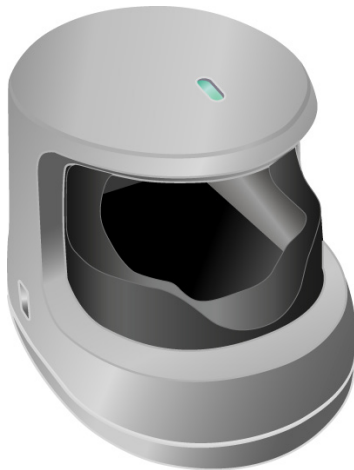


取扱説明書 ソフトウェア編

日立指静脈認証装置 PC-KCA100



取扱説明書はよく読み、保管してください。

- ・ 製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
- ・ このマニュアルはいつでも参照できる状態にしておいてください。

重要なお知らせ

- ・ 本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用することを禁止します。
- ・ 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- ・ 本製品を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

製品の信頼性について

- ・ ご購入いただきました製品は、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。一般事務用製品が不適当な、高信頼性を必要とする用途例
- ・ 化学プラント制御、医療機器制御、緊急連絡制御など
- ・ 他の認証装置との併用については動作保証していません。

規制、対策などについて

電波障害自主規制について

この装置は、一般財団法人 VCCI 協会の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。その場合は、テレビやラジオなどからできるだけ離したり、テレビやラジオなどのアンテナの向きを変えたりしてみてください。

輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。なお、ご不明な場合は、弊社営業担当にお問い合わせください。

著作権

© Hitachi , Ltd. 2006,2011 All rights reserved.

All Rights Reserved, Copyright © 2006,2011 Hitachi Solutions, Ltd.

本書は株式会社日立製作所及び株式会社日立ソリューションズが全ての版權を所有しています。本書の著作権は、国内法および国際条約により保護されています。

株式会社日立製作所の同意なしでは、本取扱説明書は一部たりとも、

複製・複写・転送・検索機能を持つ記憶装置へ記録すること。

他の言語やコンピュータ言語へ翻訳すること。

を禁止しています。また、これらの手段として、電子的、機械的、磁氣的、光学的などのいかなる方法を用いても同じです。

Microsoft Limited Permissive License (Ms-LPL)

This license governs use of the accompanying software. If you use the software, you accept this license. If you do not accept the license, do not use the software.

1. Definitions

The terms “reproduce,” “reproduction,” “derivative works,” and “distribution” have the same meaning here as under U.S. copyright law.

A “contribution” is the original software, or any additions or changes to the software.

A “contributor” is any person that distributes its contribution under this license.

“ Licensed patents” are a contributor’s patent claims that read directly on its contribution.

2. Grant of Rights

(A) Copyright Grant- Subject to the terms of this license, including the license conditions and limitations in section 3, each contributor grants you a non-exclusive, worldwide, royalty-free copyright license to reproduce its contribution, prepare derivative works of its contribution, and distribute its contribution or any derivative works that you create.

(B) Patent Grant- Subject to the terms of this license, including the license conditions and limitations in section 3, each contributor grants you a non-exclusive, worldwide, royalty-free license under its licensed patents to make, have made, use, sell, offer for sale, import, and/or otherwise dispose of its contribution in the software or derivative works of the contribution in the software.

3. Conditions and Limitations

(A) No Trademark License- This license does not grant you rights to use any contributors’ name, logo, or trademarks.

(B) If you bring a patent claim against any contributor over patents that you claim are infringed by the software, your patent license from such contributor to the software ends automatically.

(C) If you distribute any portion of the software, you must retain all copyright, patent, trademark, and attribution notices that are present in the software.

(D) If you distribute any portion of the software in source code form, you may do so only under this license by including a complete copy of this license with your distribution. If you distribute any portion of the software in compiled or object code form, you may only do so under a license that complies with this license.

(E) The software is licensed “as-is.” You bear the risk of using it. The contributors give no express warranties, guarantees or conditions. You may have additional consumer rights under your local laws which this license cannot change. To the extent permitted under your local laws, the contributors exclude the implied warranties of merchantability, fitness for a particular purpose and non-infringement.

(F) Platform Limitation- The licenses granted in sections 2(A) & 2(B) extend only to the software or derivative works that you create that run on a Microsoft Windows operating system product.

目次

1 はじめに.....	7
1.1 お問い合わせ先.....	7
1.2 前提条件.....	8
2 ソフトウェアのインストール.....	10
2.1 インストールの前に.....	10
2.2 指静脈認証ソフトウェアのインストール.....	11
2.3 以前のバージョンからのアップデートについて.....	23
2.4 ドライバインストールの確認.....	26
3 初回時管理者登録.....	29
4 ソフトウェアのアンインストール.....	37
4.1 指静脈認証ソフトウェアのアンインストール.....	37
5 認証機能.....	43
5.1 Windowsログオン (指静脈認証の場合).....	44
5.2 Windowsログオン (IDと指静脈認証の場合).....	48
5.3 スクリーンセーバーロック解除 (指静脈認証の場合).....	52
5.4 スクリーンセーバーロック解除 (IDと指静脈認証の場合).....	55
6 ユーザー管理機能.....	59
6.1 新規ユーザーの登録.....	63
6.2 指情報の追加.....	70
6.3 指情報の変更.....	75
6.4 指情報の削除.....	77
6.5 緊急用パスワードの設定.....	78
6.6 認証方法の変更.....	79
6.7 ログ出力設定.....	81
6.8 ビープ音のON/OFF.....	82
6.9 アンインストール用パスワードの設定.....	83
6.10 認証の練習.....	84
6.11 ログの参照.....	85
6.12 フィルタオプションの設定.....	86
6.13 ユーザー管理画面の終了.....	87
7 ログの参照.....	88
7.1 ログオン関係のログ.....	89
7.2 管理ログ.....	89
7.3 ログオン関係のログと管理ログ.....	90

7.4パスワード代替入力のログ.....	90
7.5リモート接続のログ.....	90
7.6テキスト形式での出力.....	91
7.7その他の機能.....	92
8 緊急用パスワードの利用.....	93
8.1 Windows Vista /Server 2008 /7 /Server 2008 R2 のログオン・ロック解除の場合.....	93
8.2 ユーザー管理機能、またはWindows XP / Server 2003 のログオン・ロック解除の場合.....	94
8.3 パスワード代替入力機能の場合.....	94
9 Windowsパスワードの変更.....	95
9.1 Windows Vista /Server 2008 /7 /Server 2008 R2 をお使いの場合.....	95
9.2 Windows XP / Server 2003 をお使いの場合.....	97
10 パスワード代替入力機能.....	98
10.1 アプリケーションの登録.....	100
10.2 登録アプリケーション情報の修正.....	107
10.3 登録アプリケーションの削除.....	110
10.4 登録情報変更時の指静脈認証.....	111
10.5 パスワード代替入力機能の一時停止.....	112
10.6 登録アプリケーションの認証.....	113
10.7 緊急用パスワードの利用.....	114
10.8 詳細設定.....	115
11 リモートデスクトップ環境で使用するための設定.....	123
11.1 リモート接続元パソコンに本製品をインストール.....	125
11.2 リモート接続元パソコンで必要な設定.....	126
11.3 リモート接続先パソコンに本製品をインストール.....	128
11.4 リモート接続先パソコンで初回時管理者登録を実行.....	129
11.5 リモート接続先パソコンで必要な設定.....	129
11.6 リモート接続先パソコンで行うリモートログオン設定.....	130
11.7 リモートログオンの実行.....	131
12 ソフトウェア仕様.....	133
13 トラブルを解決するには.....	135
14 付録.....	153
14.1 スクリーンセーバーの設定方法.....	153
14.2 指置き指示の画面について.....	156

1 はじめに

このたびは、日立指静脈認証装置（以下、本製品と呼びます）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、「取扱説明書ソフトウェア編」です。本製品を初めてお使いになる方のために、本製品のソフトウェアの使用方法を説明しています。

マニュアルの説明している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、一部省略している場合があります。

URL、お問い合わせ先、画面などは、マニュアル制作時点のものです。

1.1 お問い合わせ先

本製品についての技術的なお問い合わせは日立コールセンタで回答いたしますので、次のフリーダイヤルでお問い合わせください。

また、お問い合わせの前に本書巻末の「13 トラブルシューティング」をお読みになり現象をご確認ください。

日立コールセンタ

TEL：0120-921-789（フリーコール）

受付時間：9:00～18:00（平日）

*土、日、祝日、年末年始は休ませていただきます。

*電話での対応は国内に限らせていただきます。

以下のWeb サイトにて最新の製品情報を掲載しております。併せてご参照ください。

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/vims/solutions/fvu/index.html>

1.2 前提条件

本製品をお使いになるためには、お使いのパソコンが以下の機種や OS である必要があります。対応していることをご確認ください。

対応機種・OS

対応機種	対応 OS
PC/AT 互換機	[32 ビット OS] Windows XP Home Edition / Professional (SP3) Windows Server 2003 Standard Edition / Enterprise Edition (SP2) Windows Server 2003 R2, Standard Edition / Enterprise Edition (SP2) Windows Vista Ultimate / Enterprise / Business / Home Premium / Home Basic (SP2) Windows Server 2008 Standard / Enterprise (SP2) Windows 7 Ultimate / Enterprise / Professional / Home Premium / Starter (SP1) [64 ビット OS] Windows 7 Ultimate / Enterprise / Professional / Home Premium / Starter (SP1) Windows Server 2008 R2 Standard / Enterprise (SP1) いずれも日本語 OS Windows 2000 への対応は終了しました
搭載 CPU	600MHz 以上 (1)
メモリ	128MB 以上 (1)

(1) OS の要件がこれを上回る場合はそちらが優先されます

対応ドメイン

Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2

対応ブラウザ

Internet Explorer 6 / Internet Explorer 7 / Internet Explorer 8

ハードディスク

空き容量 50MB 以上

対応リモートデスクトップ接続プログラム

シェルバージョン 6.0 以降

コントロールバージョン 6.0 以降

リモートデスクトッププロトコル 6.0 以降

重要

- ・ Windows のログオン画面を置き換えるアプリケーションとの併用はできません。
- ・ 32 ビット OS をお使いの場合と、64 ビット OS をお使いの場合とでは、使用するインストーラが異なります。また、1 つの OS に対して両方をインストールすることはできません。
- ・ 本製品をご利用になるためには、あらかじめ Windows のユーザーにパスワードを設定しておく必要があります。

2 ソフトウェアのインストール

インストールおよびアンインストールはお使いのパソコンの Administrators グループに属するユーザーで行ってください。

重要

Windows サービスパックのアンインストールを行うと、USB のドライバが自動的に削除され、認証装置が認識できなくなる場合があります。そのため、サービスパックのアンインストールを行う場合は Windows の標準認証に戻してください。Windows の標準認証への戻し方は取扱説明書の [6.6 認証方法の変更] を参照してください。

2.1 インストールの前に

日立指静脈認証装置がインストールされていないパソコンにインストールする場合は、「2.2 指静脈認証ソフトウェアのインストール」を参照してください。

以前のバージョンからアップデートを行う場合は、「2.3 以前のバージョンからのアップデートについて」を参照してください。

重要

- ・本章の作業を行う場合には、日立指静脈認証装置をパソコンの USB ポートに接続してください。

お使いの Windows を Windows Vista または Windows Server 2008 へアップグレードした場合は、[13 トラブルシューティング] の [■ Windows をアップグレードインストールした場合]を参照してください。

2.2 指静脈認証ソフトウェアのインストール

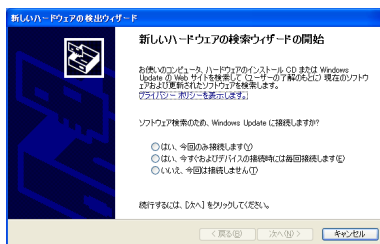
お使いのパソコンが32ビットOSである場合と、64ビットOSである場合とで、インストールの手順が異なります。32ビットOSをお使いの場合は[2.2.1 32ビットOSへのインストール]を、64ビットOSをお使いの場合は[2.2.2 64ビットOSへのインストール]を参照してください。

重要

- 指静脈認証ソフトウェアをインストールするパソコンでは、以下のような設定をしないでください。
 - 「フォントサイズ」を「標準」以外に設定する。
 - 「DPI」の設定を「96DPI」(Windows 7 / Server 2008 R2 では「小 - 100%」) 以外に設定する

これらの設定を行うと、アプリケーションのメッセージが正常に表示されない、パスワード代替入力機能において、登録アプリケーションの再登録が必要になるなどの問題が生じる場合があります。

- 指静脈認証ソフトウェアをインストールする前に本製品を接続した場合に以下の画面が表示されることがあります。この画面が表示された場合は、「キャンセル」ボタンをクリックし、終了させてください。



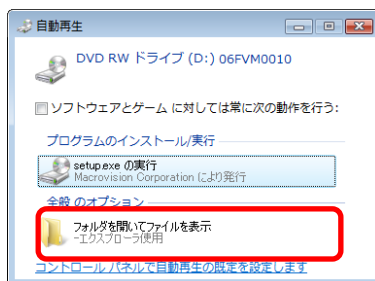
- インストールが終了(エラーやキャンセルによる中断も含む)した時に、以下のような画面が表示されることがありますが、問題ありませんので、[キャンセル]をクリックして画面を終了させてください。



2.2.1 32ビットOSへのインストール

本製品に同梱されている「アプリケーション CD-ROM」をお使いのパソコンのCD-ROMドライブに挿入します。

Windows Vista / Server 2008 / 7 をお使いの場合は右の画面が表示される場合があります。その場合は[フォルダを開いてファイルを表示]をクリックします。



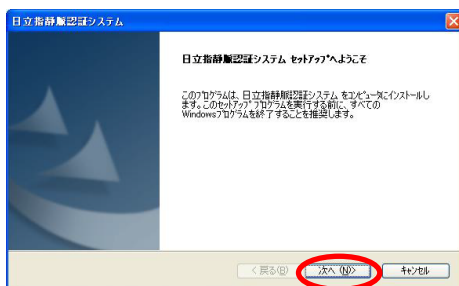
CD-ROMドライブの「x86」フォルダに収録されている「Setup.exe」を起動します。

Windows Vista / Server 2008 / 7 をお使いの場合は右のいずれかの画面が表示される場合があります。その場合は[続行(C)]または[はい(Y)]ボタンをクリックします。

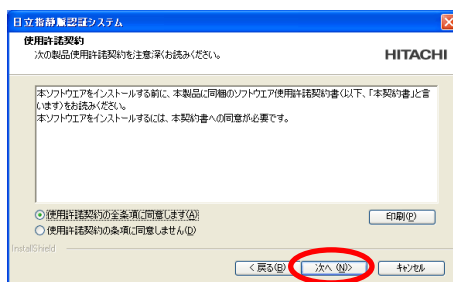
表示されない場合は次の手順へ進みます。



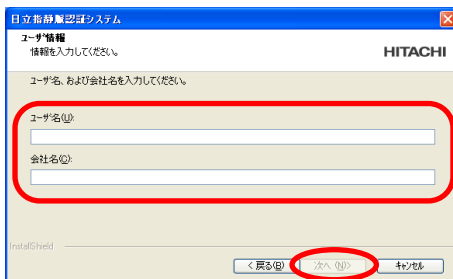
お使いのパソコンに指静脈認証ソフトウェアを初めてインストールする場合は、右の画面が表示されます。[次へ(N)] ボタンをクリックします。



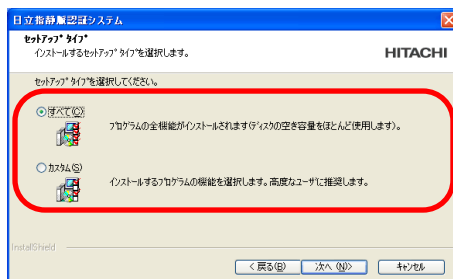
使用許諾契約が表示されます。内容をご確認いただき、許諾される場合は「使用許諾契約の全条項に同意します」をチェックし、[次へ(N)] ボタンをクリックします。



ユーザ名、会社名を入力して、[次へ(N)] ボタンをクリックします。

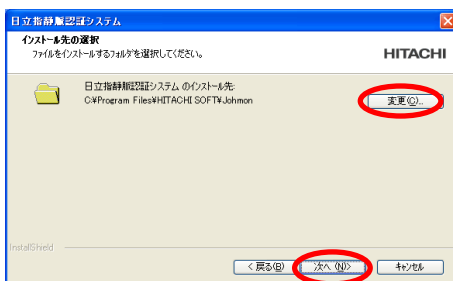


セットアップのタイプを選択して、[次へ(N)] ボタンをクリックします。「カスタム」を選択した場合は、インストール先や、インストールするソフトウェアの種類を選択することができます。初回時は「すべて」を選択することをお勧めします。



「カスタム」を選択した場合は右の画面が表示されます。インストール先を選択します。

初期設定では、(C:\Program Files\HitachiSolutions\JOHMON)です。[変更(C)] ボタンをクリックするとインストール先を変更できます。表示されているインストール先で良ければ、[次へ(N)] ボタンをクリックします。



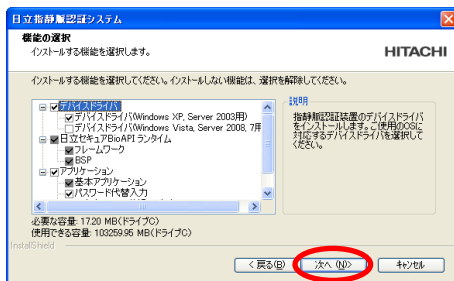
重要

下記フォルダへのインストールはサポートしておりません。

- ・ ネットワークフォルダ
- ・ 圧縮属性フォルダ
- ・ 暗号化属性フォルダ

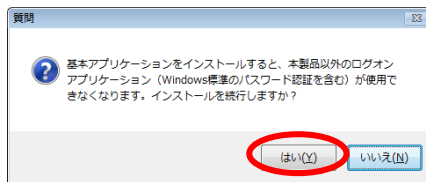
また、インストールしたフォルダに対してアクセス権を変更しないでください。正常に動作しない恐れがあります。

「カスタム」を選択した場合は右の画面が表示されます。インストールするソフトウェアを選択します。インストールするソフトウェアを選択して、[次へ(N)] ボタンをクリックします。



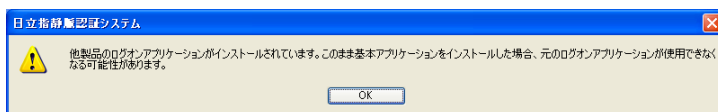
Windows Vista / Server 2008 / 7
をお使いの場合は、手順 、 終了後に右の画面が表示されることがあります。

警告をよく読み、問題ないことを確認した上で[はい(Y)]ボタンをクリックします。



Windows XP / Server 2003 をお使いの場合は手順 、 終了後に下の画面が表示されることがあります。

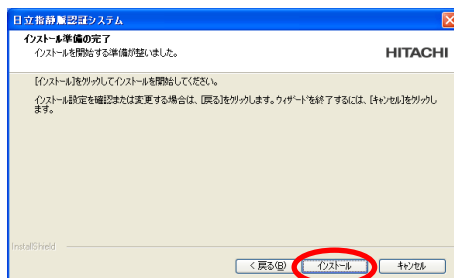
警告をよく読み、問題ないことを確認した上で[はい(Y)]ボタンをクリックします。



重要

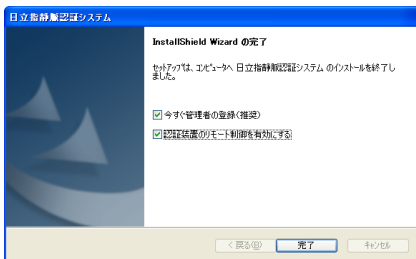
他製品のログオンアプリケーションがインストールされているパソコンに対して基本アプリケーションをインストールすると、他製品のログオンアプリケーションが使用できなくなり、それによって重大な問題を引き起こす可能性があります。上記の警告画面が表示された場合は、必ず他製品のマニュアル等を熟読し、ログオンアプリケーションが使用できなくなっても問題ないことを確認してから、インストールを続行してください。

インストールの準備が完了すると右の画面が表示されます。[インストール] ボタンをクリックします。

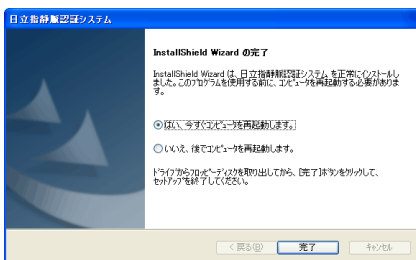


インストールが完了すると右の画面が表示されます。

(で選択したソフトウェアによっては、表示されるメッセージが異なります)



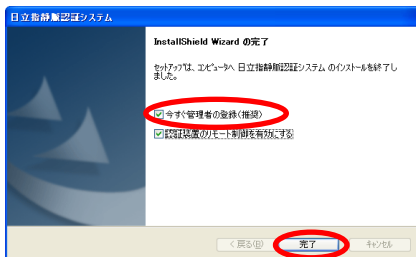
お使いのパソコンによっては、右の画面が表示される場合があります。その場合はパソコンを再起動し、本書の[6 ユーザー管理機能]を参照してユーザー管理を起動し、[3 初回時管理者登録]を参照して管理者の登録を行ってください。



指静脈認証ソフトウェアは管理者の登録を行わないと利用することができません。引き続き管理者の登録を行うことを推奨します。管理者の登録を行う場合は [今すぐ管理者の登録(推奨)] をチェックして、[完了] ボタンをクリックします。

[今すぐ管理者の登録(推奨)] のチェックを行わずに [完了] ボタンをクリックした場合は、ユーザー管理機能の初回起動時に管理者の登録を行います。その際は、必ず Administrators グループに属するユーザーで行ってください。

管理者の登録については[3 初回時管理者登録]を参照してください。

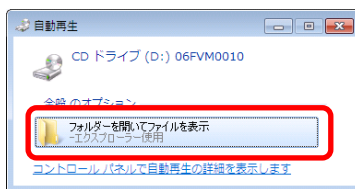


本製品をリモートデスクトップ環境で使用する場合は、[認証装置のリモート制御を有効にする]をチェックして[完了]ボタンをクリックします。本製品をリモートデスクトップ環境で使用方法については、[11 リモートデスクトップ環境で使用するための設定]を参照してください。

以上でソフトウェアのインストールは完了です。

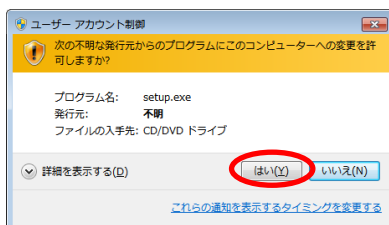
2.2.2 64 ビットOSへのインストール

本製品に同梱されている「アプリケーション CD-ROM」をお使いのパソコンのCD-ROMドライブに挿入します。お使いの環境によっては右の画面が表示される場合があります。その場合は[フォルダーを開いてファイルを表示]をクリックします。

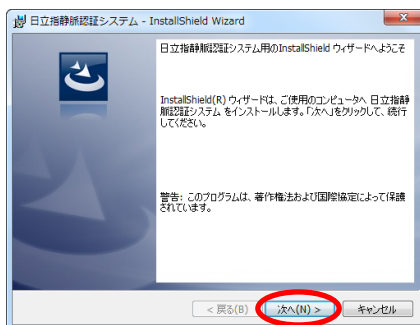


CD-ROM ドライブの「x64」フォルダに収録されている「Setup.exe」を起動します。

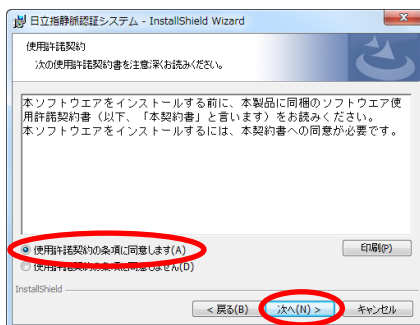
お使いの環境によっては右の画面が表示される場合があります。その場合は[はい(Y)]ボタンをクリックします。表示されない場合は次の手順へ進みます。



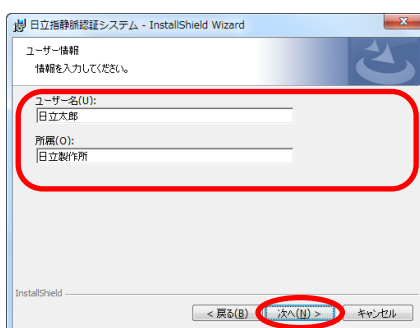
お使いのパソコンに指静脈認証ソフトウェアを初めてインストールする場合は、右の画面が表示されます。[次へ(N)] ボタンをクリックします。



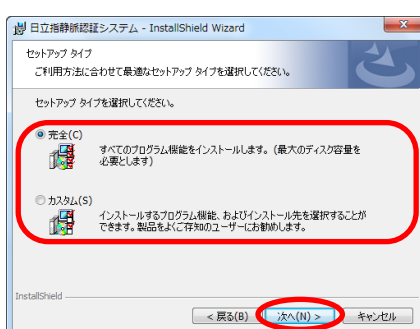
使用許諾契約が表示されます。内容をご確認いただき、許諾される場合は「使用許諾契約の条項に同意します(A)」をチェックし、[次へ(N)] ボタンをクリックします。



ユーザー名、所属を入力して、[次へ(N)] ボタンをクリックします。

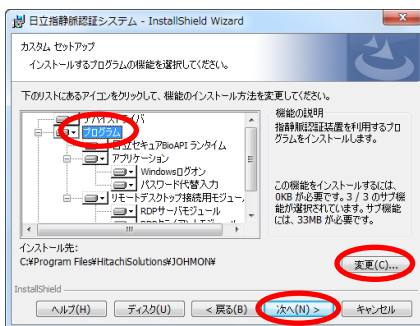


セットアップのタイプを選択して、[次へ(N)] ボタンをクリックします。「カスタム(S)」を選択した場合は、インストール先や、インストールするソフトウェアの種類を選択することができます。初回時は「完全(C)」を選択することをお勧めします。

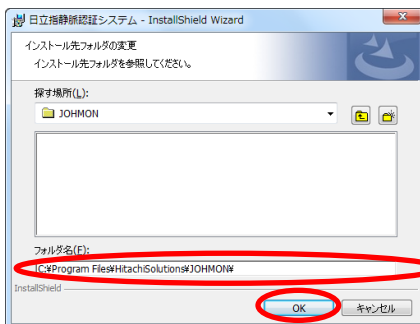


「カスタム」を選択した場合は右の画面が表示されます。インストールするソフトウェアを選択します。インストールするソフトウェアを選択して、[次へ(N)] ボタンをクリックします。

インストール先を変更する場合は「プログラム」をクリックした後に[変更(C)]ボタンをクリックします(「プログラム」がクリックされていない状態では[変更(C)]ボタンをクリックすることはできません)。



[変更(C)] ボタンをクリックすると右の画面が表示されます。この画面ではインストール先を変更できます。インストール先は(C:\Program Files\HitachiSolutions\JOHMON)が初期値になっています。表示されているインストール先で良ければ、[OK] ボタンをクリックします。



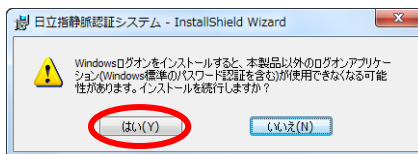
重要

下記フォルダへのインストールはサポートしておりません。

- ・ ネットワークフォルダ
- ・ 圧縮属性フォルダ
- ・ 暗号化属性フォルダ

また、インストールしたフォルダに対してアクセス権を変更しないでください。正常に動作しない恐れがあります。

手順 、 終了後に右の画面が表示
されることがあります。
警告をよく読み、問題ないことを確
認した上で[はい(Y)]ボタンをクリ
ックします。

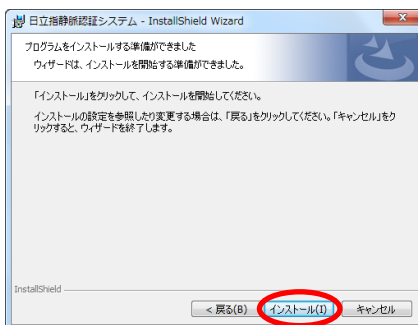


[いいえ(N)]をクリックすると、手順 または手順 の画面に戻りますので、選択
をやり直してください。

重要

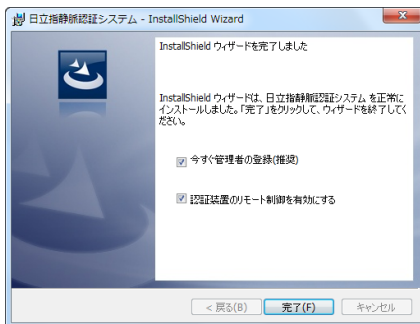
他製品のログオンアプリケーションがインストールされているパソコンに対して
Windows ログオンをインストールすると、他製品のログオンアプリケーションが
使用できなくなり、それによって重大な問題を引き起こす可能性があります。
上記の警告画面が表示された場合は、必ず他製品のマニュアル等を熟読し、ログオ
ンアプリケーションが使用できなくなっても問題ないことを確認してから、インス
トールを続行してください。

インストールの準備が完了すると
右の画面が表示されます。[インスト
ール] ボタンをクリックします。



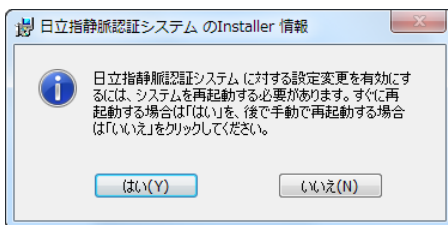
インストールが完了すると右の画面が表示されます。

(で選択したソフトウェアによっては、表示されるメッセージが異なります)



お使いのパソコンによっては、右の画面が表示される場合があります。この画面で「はい(Y)」をクリックすると自動的にパソコンを再起動します。「いいえ(N)」をクリックするとインストールをいったん終了しますが、手でパソコンを再起動するまでインストールが完了しない状態になります。

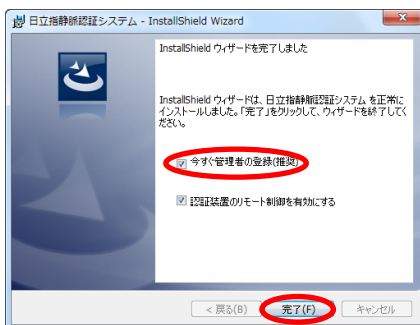
この画面が出た場合は、パソコンを再起動した後に、本書の[6 ユーザー管理機能]を参照してユーザー管理を起動し、[3 初回時管理者登録]を参照して管理者の登録を行ってください。



指静脈認証ソフトウェアは管理者の登録を行わないと利用することができません。引き続き管理者の登録を行うことを推奨します。管理者の登録を行う場合は [今すぐ管理者の登録(推奨)] をチェックして、[完了] ボタンをクリックします。

[今すぐ管理者の登録(推奨)] のチェックを行わずに [完了] ボタンをクリックした場合は、ユーザー管理機能の初回起動時に管理者の登録を行います。その際は、必ず Administrators グループに属するユーザーで行ってください。

管理者の登録については[3 初回時管理者登録]を参照してください。



本製品をリモートデスクトップ環境で使用する場合は、[認証装置のリモート制御を有効にする]をチェックして[完了]ボタンをクリックします。本製品をリモートデスクトップ環境で使用方法については、[11 リモートデスクトップ環境で使用するための設定]を参照してください。

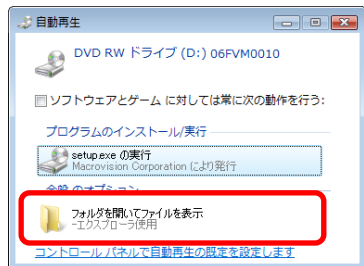
以上でソフトウェアのインストールは完了です。

2.3 以前のバージョンからのアップデートについて

お使いのパソコンが32ビットOSである場合と、64ビットOSである場合とで、アップデートの手順が異なります。32ビットOSをお使いの場合は[2.3.1 32ビットOSをお使いの場合のアップデート]を、64ビットOSをお使いの場合は[2.3.2 64ビットOSをお使いの場合のアップデート]を参照してください。

2.3.1 32ビットOSをお使いの場合のアップデート

本製品に同梱されている「アプリケーションCD-ROM」をお使いのパソコンのCD-ROMドライブに挿入します。お使いの環境によっては右の画面が表示される場合があります。その場合は[フォルダを開いてファイルを表示]をクリックします。



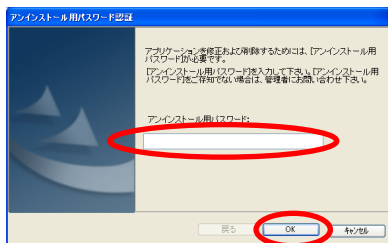
CD-ROMドライブの「x86」フォルダに収録されている「Setup.exe」を起動します。

Windows Vista / Server 2008 / 7 をお使いの場合は右のいずれかの画面が表示される場合があります。その場合は[続行(C)]または[はい(Y)]ボタンをクリックします。

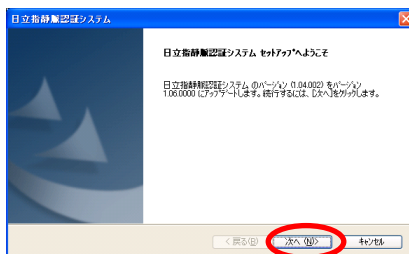
表示されない場合は次の手順へ進みます。



アンインストール用パスワードを設定している場合にはパスワード入力ダイアログが表示されます。ユーザー管理機能から設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

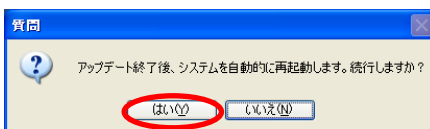


お使いのパソコンに、既に以前のバージョンの指静脈認証ソフトウェアがインストールされている場合は、右の画面が表示されます。[次へ(N)] ボタンをクリックします。

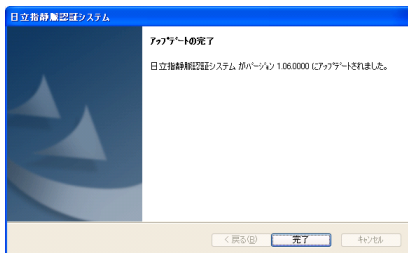


Windows Vista / Server 2008 / 7 をお使いの場合はアップデート後に再起動されないため、右の画面は表示されません。手順に進んでください。

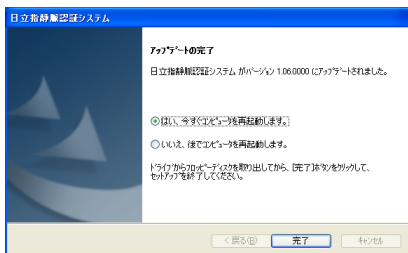
Windows のログオンに指静脈認証を使用している場合は右の画面が表示されます。その場合、アップデート後にWindowsが再起動されますので、使用中のアプリケーションやファイルなどを終了させ、再起動しても問題ない状態してから[はい(Y)]ボタンをクリックします。



アップデートが完了すると右の画面が表示されます。



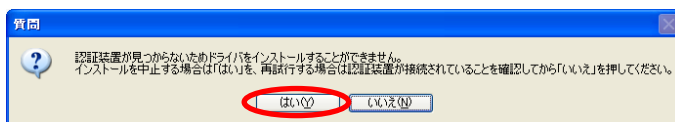
お使いのパソコンによっては右の画面が表示される場合があります。その場合はパソコンを再起動してください。再起動せずにパソコンを使用すると、パソコンが不安定になることがあります。



以上でアップデートは完了です。

重要

指静脈認証装置を接続せずにアップデートを行った場合は、手順 の後に以下の画面が表示されます。その場合は、指静脈認証装置が接続されていることを確認して、[はい(N)] ボタンをクリックしてください。[はい(Y)] をクリックするとアップデートが中断されます。その場合は、指静脈認証装置を接続して、再度アップデートを実行してください。



2.3.2 64 ビット OS をお使いの場合のアップデート

以前のバージョンは 64 ビット OS 非対応のため、64 ビット OS をお使いの場合は以前のバージョンからのアップデートを行うことはできません。[2.2.2 64 ビット OS へのインストール]の手順に従ってインストールを行ってください。

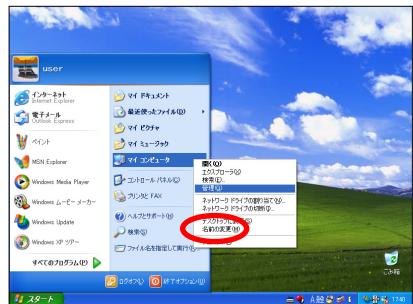
2.4 ドライバインストールの確認

画面左下のスタートメニューをクリックします。



Windows Vista / Server 2008 / 7 をお使いの場合は、[コンピュータ]を右クリックし、[管理]をクリックしてください。

Windows XP / Server 2003 をお使いの場合は、[マイコンピュータ] を右クリックし、[管理(G)] をクリックします。



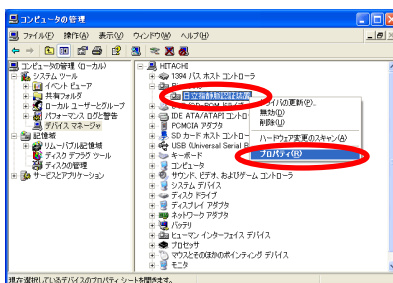
Windows Vista / Server 2008 をお使いの場合は右の画面が表示されます。[続行 (C)]ボタンをクリックします。表示されない場合は次の手順へ進みます。



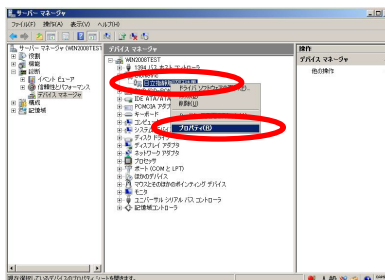
右の画面が表示されたら、[デバイスマネージャ] をクリックし、右側のリストの [Biometric] または [Personal identification devices] の [+] マークをクリックし、[日立指静脈認証装置] が認識されていることを確認します。[日立指静脈認証装置]を右クリックし、[プロパティ(R)] をクリックします。

Windows Server 2003 の場合は [Personal identification devices] の[+] マークをクリックします。

Windows 7 / Server 2008 R2の場合は [生体認証デバイス]をダブルクリックします。



Windows Server2008 をお使いの場合、[デバイスマネージャ]は、[診断]の[+]マークをクリックすると表示されます。



[ドライバ]タブをクリックし、以下の項目を確認します。

以下の項目を確認します。

- Windows Vista/Server2008/7(32bit)をお使いの場合

[プロバイダ]が[Hitachi,Ltd.]

[日付]が[2009/07/27]

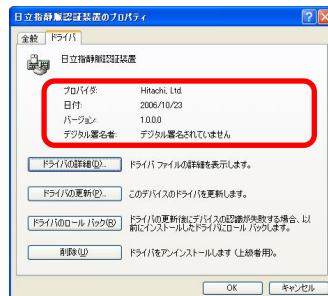
[バージョン]が[1.2.0.0]

- Windows XP/Server2003 (32bit) をお使いの場合

[プロバイダ]が[Hitachi,Ltd.]

[日付]が[2006/10/23]

[バージョン]が[1.0.0.0]



- ・ Windows XP/Server2008 R2 (64bit) をお使いの場合
[プロバイダ]が[Hitachi,Ltd.]
[日付]が[2011/04/03]
[バージョン]が[1.0.1.0]

Windows Vistaをお使いでバージョン情報がWindows XPの内容だった場合には、[13
トラブルシューティング] の [■ Windows をアップグレードインストールした場合]
を参照して変更インストールを行ってください。

3 初回時管理者登録

指静脈認証ソフトウェアのインストール完了時に「今すぐ管理者の登録(推奨)」をチェックした場合や、ユーザー管理機能の初回起動時に管理者登録画面が表示されます。ユーザー管理機能の起動方法に関しては「6 ユーザー管理機能」を参照してください。

[Step1] 指情報の登録

[Step1] では管理者登録に必要な情報の入力、登録する指の部位を決定します。

以下の画面が表示されます。

ユーザー情報

現在 Windows にログオン中のユーザー情報が表示されます。お使いのパソコンが Active Directory 環境下にある場合は、ユーザー情報の項目に「DNS 形式でログオン」のチェックボックスが表示されます。「DNS 形式でログオン」のチェックボックスにチェックを行うことにより「ログオン先」のダイアログボックスが DNS 形式に変更されます。

初回時管理者登録では登録者名以外のユーザー情報を変更することはできません。ユーザー情報が管理者として登録を行いたいユーザーと異なる場合は、登録を行いたいユーザーで Windows にログオンし直してください。

登録者名には、後の管理を容易にするために指情報の登録を行う方の氏名を入力することをお勧めします。最大で全角/半角共に 20 文字までの情報を入力できます。

重要

- ・「@」が含まれているユーザーアカウントで初回時管理者登録を実行した場合、初回時管理者登録を正しく行うことができません。
- ・ [DNS 形式でログオン] をチェックした場合、[ログオン先] ダイアログボックスには、現在ログオンしているアカウントが実際に登録されているドメインが表示されます。例えば、子ドメインにアカウントを作成し、その子ドメインと信頼関係を結んでいる親ドメインをログオン先としてログオンしている場合でも、表示されるのは子ドメイン側の DNS 名となります。
- ・ [DNS 形式でログオン] をチェックした場合は、登録した指ではパスワード代替入力機能を使用することができません。(本書「10 パスワード代替入力機能」参照)
- ・ 登録するユーザーは、以下の条件のいずれかを満たす必要があります。
 - Administrators ローカルグループに直接所属している
 - DomainAdmins グローバルグループに直接所属している
- ・ 登録するユーザーは、あらかじめ Windows パスワードが設定されている必要があります。
- ・ DomainAdmins グローバルグループは Administrators ローカルグループに所属している必要があります。デフォルトで所属しているため、削除しないようにしてください。
- ・ ローカルグループに所属していないユーザーを管理者として登録する場合は、このユーザーはドメインのアカウントで Windows へログオンしておく必要があります。

パスワード

- Windows 用パスワードは登録するユーザーに設定されている Windows 用パスワードを入力します。127 文字まで入力することができます。
- 緊急用パスワードは認証装置を使わずにログオンする場合に使用します。Windows 用のパスワードと同じにする必要はありません。また、緊急用パスワードは本製品におけるすべての管理者に共通です。127 文字まで入力することができます。

指の部位

登録する指の部位を指定します。爪の部分をクリックすることにより登録する指を指定します。指の部位は初期設定では**右手中指**となっています。

認証方式

認証方式を変更することができます。認証方式には、「指静脈認証」方式と「ID と指静脈認証」方式の二つの認証方式を選ぶことができます。それぞれの認証方式の特徴は次の通りです。

- 指静脈認証方式(1:N 認証方式)
登録した全ての指静脈の中から比較して本人を特定します。
- ID と指静脈認証方式(1:1 認証方式)
予め本人を特定するためのユーザーID を入力し、ユーザーID に登録されている指静脈と比較して本人を特定します。この認証方式を選択した場合は、認証のセキュリティレベル(認証のしやすさ)を変更できます。

ID と指静脈認証方式を利用する場合は「1:1 認証を利用可能とする」にチェックを入れます。

チェックを入れた場合、「セキュリティレベル」が選択できるようになります。セキュリティレベルを変更することで、認証のしやすさを 5 段階で変えることができます。

重要

- セキュリティレベルは「高」へ近づけるに従い、より厳しく認証を行います。他人を受け入れづらくなりますが、本人も認証しにくくなる場合があります。
- 「1:1 認証を利用可能とする」にチェックを入れない場合は、登録した指ではパスワード代替入力機能を使用することができません。(本書[10 パスワード代替入力機能]参照)

備考

認証に必要な情報ではありません。最大で全角/半角共に 50 文字までの情報を入力できます。

Windows 用パスワード、緊急用パスワード、緊急用パスワード(確認)を入力し、指の部位を選択します。必要に応じて認証方式、備考欄に入力し、[撮影開始(S)]ボタンをクリックします。

緊急用のパスワードについては、本書「8. 緊急用パスワードの利用」を参照してください。

重要

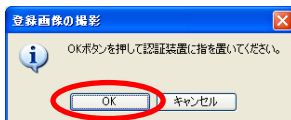
- ・ 緊急用パスワードは以下の条件を満たす必要があります。
 - ・ 6 文字以上であること
 - ・ 英大文字、英小文字、数値を少なくともそれぞれ 1 文字以上使用すること
- ・ 緊急用パスワードは重要ですので、お忘れのないよう管理してください。もし忘れてしまった場合はお使いのパソコンが利用できなくなる場合があります。
- ・ 撮影中は認証装置の認証ゾーンに指以外のものを登録しないでください。誤動作の原因となる場合があります。
- ・ 本製品は生体情報を利用しているため健康状態により登録や認証に失敗することがあります。

画面に入力した内容によっては右の画面が表示されます(文章の内容は異なることがあります)。警告をよく読み、理解した上で[はい(Y)]ボタンをクリックします。

[Step2] ~ [Step4] 静脈撮影

[Step1] で入力した情報を元に管理者権限を持つ指を撮影します。[Step2] ~ [Step4] まで撮影は3回行われます。

右の画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックするか、[Enter] キーを押下します。



画面の指示に従い、認証装置に指を置きます。



重要

- ・ 乳幼児や極端に指が細い方(指の幅が10mm未満)、太い方(指の幅が25mm以上)、指が短い方(指が認証ゾーンの先まで届かない方)は、指の登録や認証に失敗する場合があります。
- ・ 認証ができなくなった場合(成長期の子供で指の状態が変わる場合等)は、下記の手順に従い指情報を再度登録してください。
 1. 該当の指情報を削除する。指情報の削除については、「6.4 指情報の削除」を参照してください。
 2. 再度「指情報の追加」を行う。指情報の追加については、「6.2 指情報の追加」を参照してください。
- ・ 認証装置の認証ゾーンに指以外のものを置かないでください。誤動作の原因となる場合があります。
- ・ 撮影中は認証装置の接続を切断しないでください。
- ・ 撮影中や指を認証装置に置いているときにはお使いのパソコンをロック、ログオフ、シャットダウン、スリープ状態、休止状態、スタンバイ状態にしないでください。システムが不安定になる場合があります。

「ピッ」というピープ音が鳴り、右の画面が表示されれば撮影成功です。指を離して [OK] ボタンをクリックするか、[Enter] キーを押下します。

「ビピー」というピープ音が鳴り、状態表示 LED

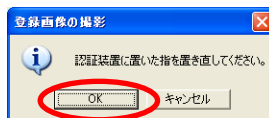
が赤の点灯に変わり、エラー画面が表示されれば撮影失敗です。

10 秒以内に撮影が終わらない場合もピープ音が鳴り、エラー画面が表示されます。

ピープ音と状態表示 LED については「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく登録を行えない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピープ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピープ音は鳴りません。ピープ音の設定方法については「6.8 ピープ音の ON/OFF」を参照してください。



指静脈撮影は正確な情報を得るために3回行われます。 の画面が表示されるので、あと2回の撮影を行います。

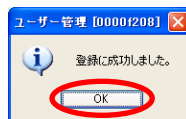
重要

- ・ 撮影時には必ず指を置き直してください(一度、認証ゾーンから指を抜き、再度、指を認証ゾーンに置いて下さい)。置き直しをしないと正しく認証されない場合があります。

[Step5] 登録結果

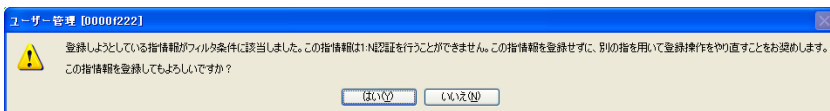
[Step2] ~ [Step4]で撮影した情報を元にシステムに指情報の登録を行います。

3回の撮影に成功すると、右の画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックするか、[Enter] キーを押下します。撮影に失敗した場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。



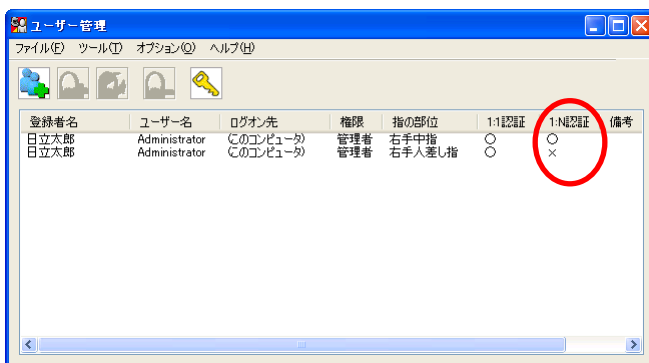
重要

3回の撮影に成功した後に以下の画面が表示されることがあります。

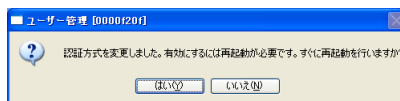


この画面で「はい」をクリックして登録を続行した場合、その指は 1:N 認証では使用できず、1:1 認証でしか使用することができなくなります。1:N 認証をお使いになる場合は、必ず「いいえ」をクリックして登録をやり直してください。

登録されている指が 1:N 認証に使用できるかどうかはユーザー管理画面で確認できます(「1:N 認証」が「○」ならば 1:N 認証に使用できます)。



Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合は再起動の必要がないため、右の画面は表示されません。[ユーザー管理画面]が表示されますので、「6 ユーザー管理機能」を参照してください。Windows XP / Server 2003 をお使いの場合は、右の画面が表示されたら初回時管理者登録が完了です。Windows の再起動後、指静脈認証の機能が利用できます。



Windows Vista /Server 2008 /7 /Server 2008 R2 をお使いの場合はWindows のログオフ/再起動後、Windows XP /Server 2003 をお使いの場合はWindows の再起動後、認証画面になりますので、本書「5 認証機能」を参照してWindows へログオンしてください。ログオン後に、インストールされている全ての機能が利用可能になります。

重要

指のけがなどにより、指静脈による認証が行えなくなる場合がありますので、管理者ユーザーを2人以上登録して運用してください。複数の指の登録方法については本書「6.2 指情報の追加」をご覧ください。

4 ソフトウェアのアンインストール

インストールおよびアンインストールはお使いのパソコンの Administrators グループに属するユーザーで行ってください。

重要

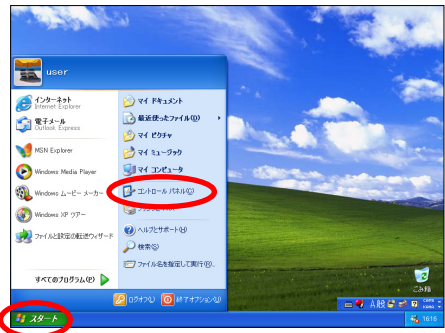
- ・ アンインストール中はお使いのパソコンをロック、ログオフ、シャットダウン、スリープ状態、休止状態、スタンバイ状態にしないでください。いずれかの状態からの復帰後にシステムが不安定になる場合があります。

4.1 指静脈認証ソフトウェアのアンインストール

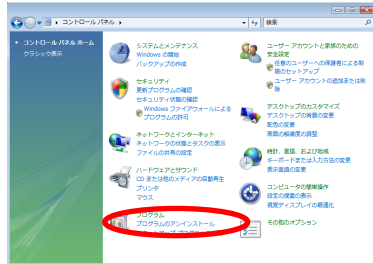
お使いのパソコンが32ビットOSである場合と、64ビットOSである場合とで、アンインストールの手順が異なります。32ビットOSをお使いの場合は[4.1.1 32ビットOSをお使いの場合のアンインストール]を、64ビットOSをお使いの場合は[4.1.2 64ビットOSをお使いの場合のアンインストール]を参照してください。

4.1.1 32ビットOSをお使いの場合のアンインストール

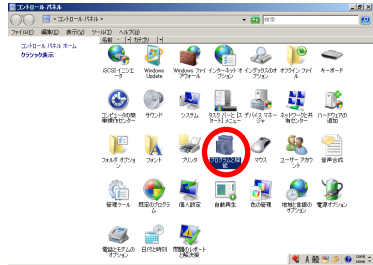
[スタート] → [コントロールパネル (C)] をクリックします。



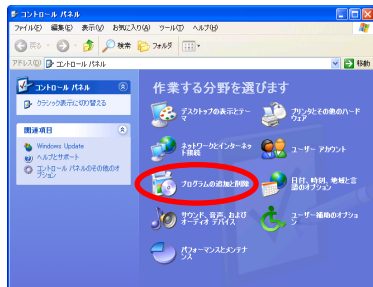
・Windows Vista / 7 をお使いの場合
[プログラム]の[プログラムのアンインストール]をクリックします。



・Windows Server 2008 をお使いの場合
[プログラムと機能] をクリックします。

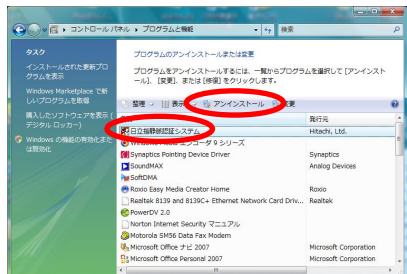


・Windows XP / Server 2003 をお使いの場合
[プログラムの追加と削除] をクリックします。



インストールされているプログラムが表示されます。

・Windows Vista / Server 2008 / 7 をお使いの場合
[日立指静脈認証システム]を選択し、
[アンインストール]ボタンをクリックします。



・Windows XP / Server 2003 をお使いの場合

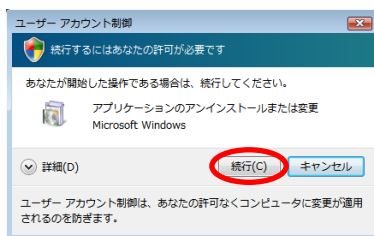
[日立指静脈認証システム] を選択し、
[削除] ボタンをクリックします。



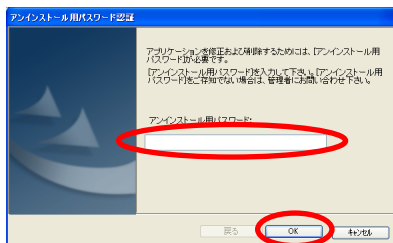
Windows Vista / Server 2008 / 7 をお使いの場合は右の画面が表示される場合があります。

右の画面が表示された場合は[続行(C)] ボタンをクリックします。

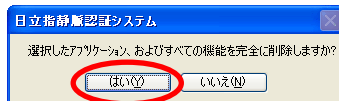
表示されない場合は次の手順へ進みます。



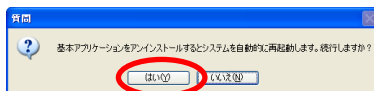
アンインストール用パスワードを設定している場合にはパスワード入力ダイアログが表示されます。ユーザー管理機能から設定したパスワードを入力し、
[OK] をクリックします。



右の画面が表示されるので、[はい(Y)] ボタンを押してください。

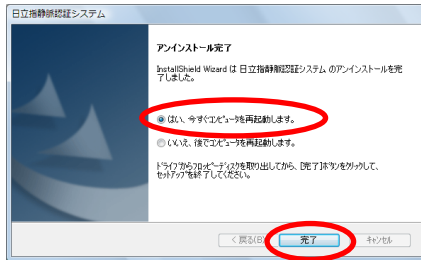


Windows Vista / Server 2008 / 7 をお使いの場合は右の画面は表示されません。
Windows XP / Server 2003 をお使いの場合は右の画面が表示されるので、[はい(Y)] ボタンを押してください。ファイルの削除が終了後、Windows が自動的に再起動します。



重要

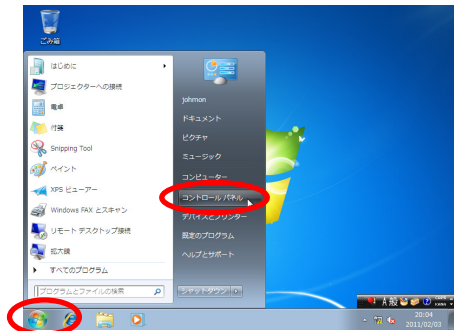
Windows Vista / Server 2008 / 7 をお使いの場合、前記 の画面が表示されない代わりに、アンインストール後に以下の画面が表示される場合があります。その場合は、**[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]**を選択して、**[完了]**ボタンをクリックしてください。Windows が再起動されます。



以上でアンインストールは完了です。

4.1.2 64 ビットOSをお使いの場合のアンインストール

[スタート] → [コントロールパネル (C)] をクリックします。

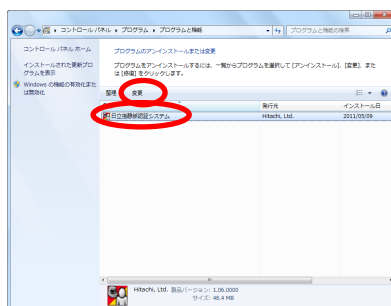


[プログラム]の[プログラムのアンインストール]をクリックします。

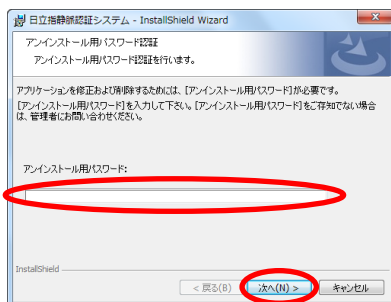


インストールされているプログラムが表示されます。

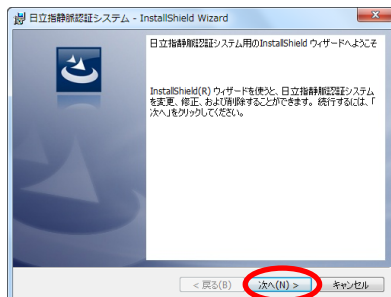
[日立指静脈認証システム]を選択し、[変更]ボタンをクリックします。



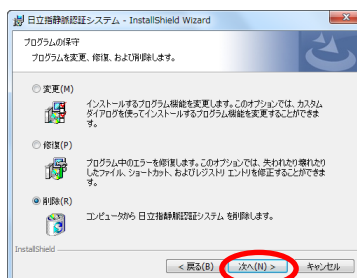
アンインストール用パスワードを設定している場合にはパスワード入力ダイアログが表示されます。ユーザー管理機能から設定したパスワードを入力し、[次へ(N)] をクリックします。



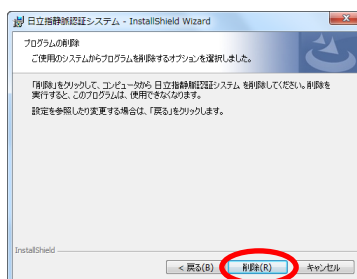
右の画面が表示されます。[次へ(N)] ボタンをクリックします。



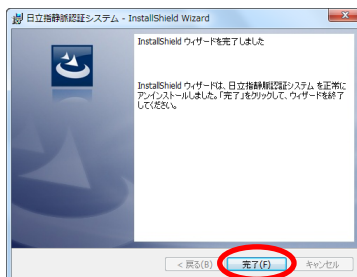
右の画面が表示されます。「削除(R)」を選択し、「次へ(N)」ボタンをクリックします。



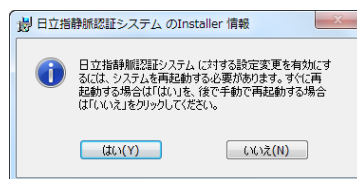
右の画面が表示されます。「削除(R)」ボタンをクリックするとアンインストール処理を開始します。



アンインストールに成功すると右の画面が表示されます。「完了(E)」をクリックします。



お使いのパソコンによっては、右の画面が表示される場合があります。この画面で「はい(Y)」をクリックすると自動的にパソコンを再起動します。「いいえ(N)」をクリックするとインストールをいったん終了しますが、手動でパソコンを再起動するまでアンインストールが完了しない状態になります。



この画面が表示された場合は、いずれかの方法でパソコンを再起動してください。

以上でアンインストールは完了です。

5 認証機能

本製品は、指の静脈を撮影することにより個人認証を行う「バイオメトリクス (生体認証)」のシステムであり、認証装置、および指静脈認証ソフトウェアから構成されます。認証機能では、次の機能を提供します。

- ・ Windows のログオンマネージャに対する指静脈を用いた認証機能
(お使いのパソコンへのローカルログオン機能、Windows ドメインへのログオン機能)
- ・ Windows スクリーンセーバーのロック解除に対する指静脈を用いた認証機能
- ・ 各種アプリケーションと、Web ページへの指静脈を用いたユーザーID とパスワードの代替入力機能

認証方式には、「指静脈認証」方式と「ID と指静脈認証」方式の二つの認証方式を選ぶことができます。それぞれの認証方式の特徴は次の通りです。

- ・ 指静脈認証方式(1:N 認証方式)
登録した全ての指静脈の中から比較して本人を特定します。
- ・ ID と指静脈認証方式(1:1 認証方式)
予め本人を特定するためのユーザーID を入力し、ユーザーID に登録されている指静脈と比較して本人を特定します。この認証方式を選択した場合は、認証のセキュリティレベル(認証のしやすさ)を変更できます。

重要

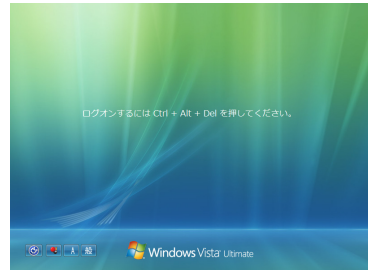
- ・ 乳幼児や極端に指が細い方(指の幅が10mm未満)、太い方(指の幅が25mm以上)、指が短い方(指が認証ゾーンの先まで届かない方)は、指の登録や認証に失敗する場合があります。
- ・ 認証ができなくなった場合(成長期の子供で指の状態が変わる場合等)は、下記の手順に従い指情報を再度登録してください。
 1. 該当の指情報を削除する。指情報の削除については、「6.4 指情報の削除」を参照してください。
 2. 再度「指情報の追加」を行う。指情報の追加については、「6.2 指情報の追加」を参照してください。
- ・ 認証装置の認証ゾーンに指以外のものを置かないでください。誤動作の原因となる場合があります。
- ・ 撮影中は認証装置の接続を切断しないでください。
- ・ 撮影中や認証装置に指を置いているときには、お使いのパソコンをロック、ログオフ、シャットダウン、スリープ状態、休止状態、スタンバイ状態にしないでください。システムが不安定になる場合があります。

5.1 Windowsログイン (指静脈認証の場合)

5.1.1 Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合

Windows 起動時に右の画面が表示されます。

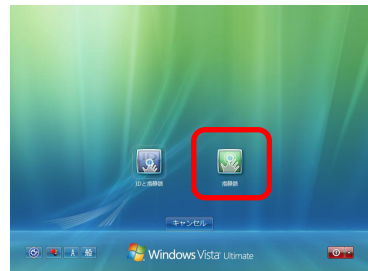
(Windows のセキュリティポリシー設定で「対話型ログイン: Ctrl+Alt+Del を必要としない」を「有効」に設定している場合は表示されません)



[Ctrl]キーと[Alt]キーと[Delete]キーを同時に押下すると右の画面が表示されます。(コンピュータの設定によっては の画面から表示されます。)

右の画面には現在利用可能な認証方式が表示されます。

[指静脈]をクリックします。



右の画面が表示されます。前回ログイン時に、右の画面からログインした場合は、の画面ではなく右の画面が表示されます。



[] ボタンを押下すると右の画面が表示され、状態表示 LED が緑の点滅をします。ログインするユーザーの指を認証装置に置きます。



重要

- ・ 認証中は認証装置の接続を切断しないでください。
- ・ 認証中はお使いのパソコンをロック、ログオフ、シャットダウン、スリープ状態、休止状態、スタンバイ状態にしないでください。いずれかの状態からの復帰後に正しい認証が行われず、システムが不安定になる場合があります。

「ピピッ」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が緑の点灯に変われば認証成功です。

「ピーー」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が赤の点灯に変われば認証失敗です（赤に点灯する時間が短い場合があります）。

10 秒以内に認証が終わらない場合もピーブ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピーブ音と状態表示 LED については「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく認証を行えない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピーブ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピーブ音は鳴りません。ピーブ音の設定方法については本書「6.8 ピーブ音の ON/OFF」を参照してください。

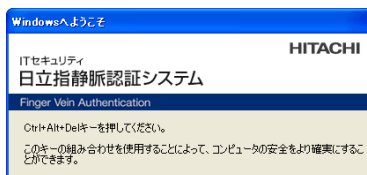
重要

- ・ 認証に連続 10 回失敗すると、5 分間認証を受け付けません。
- ・ もしくは の画面で [シャットダウン] ボタンを無効にしたい場合は、Windows のセキュリティポリシー設定で「シャットダウン: システムをシャットダウンするのにログオンを必要としない」を「無効」にしてください。

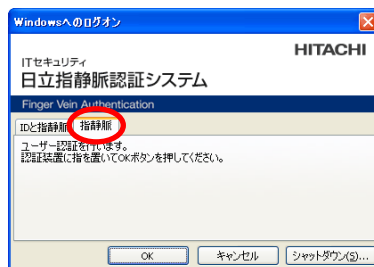
5.1.2 Windows XP / Server 2003 をお使いの場合

Windows 起動時に右の画面が表示されます。

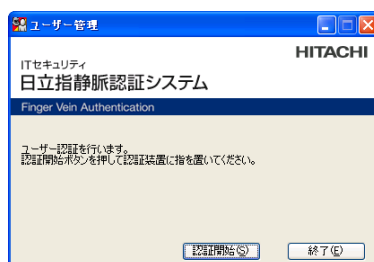
(Windows のセキュリティポリシー設定で「対話型ログオン: Ctrl+Alt+Del を必要としない」を「有効」に設定している場合は表示されません)



[Ctrl]キーと[Alt]キーと[Delete]キーを同時に押下すると右の画面が表示されます。(Windows のセキュリティポリシー設定によっては右の画面から表示されます。)
[指静脈]タブが表示されている場合は、[指静脈]タブをクリックします。



1:1 認証が利用可能でない場合はタブが表示されません。



[OK] ボタンまたは[認証開始]ボタンを押下すると右の画面が表示され、状態表示 LED が緑の点滅をします。ログオンするユーザーの指を認証装置に置きます。



重要

- ・ 認証中は認証装置の接続を切断しないでください。
- ・ 認証中はお使いのパソコンをロック、ログオフ、シャットダウン、スリープ状態、休止状態、スタンバイ状態にしないでください。いずれかの状態からの復帰後に正しい認証が行われず、システムが不安定になる場合があります。

「ピピッ」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が緑の点灯に変われば認証成功です。

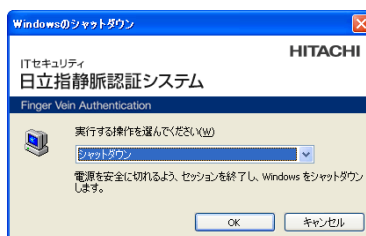
「ピーー」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が赤の点灯に変われば認証失敗です。

10 秒以内に認証が終わらない場合もピーブ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピーブ音と状態表示 LED については「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく認証を行えない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピーブ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピーブ音は鳴りません。ピーブ音の設定方法については本書「6.8 ピーブ音の ON/OFF」を参照してください。

の画面表示時に、[シャットダウン] ボタンをクリックすると右の画面が表示されます。ここで、シャットダウンや再起動を行うことができます。[キャンセル] ボタンを押下すると、の画面に戻ります。



重要

- ・ 認証に連続 10 回失敗すると、5 分間認証を受け付けません。
- ・ の画面で [シャットダウン] ボタンを無効にしたい場合は、Windows のセキュリティポリシー設定で「シャットダウン: システムをシャットダウンするのにログオンを必要としない」を「無効」にしてください。

5.2 Windowsログオン (IDと指静脈認証の場合)

5.2.1 Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合

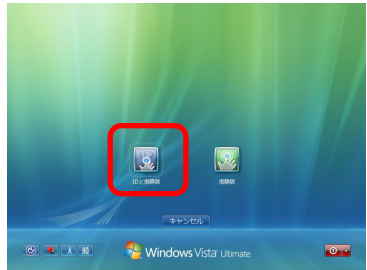
Windows 起動時に右の画面が表示されます。

(Windows のセキュリティポリシー設定で「対話型ログオン: Ctrl+Alt+Del を必要としない」を「有効」に設定している場合は表示されません)



[Ctrl]キーと[Alt]キーと[Delete]キーを同時に押下すると右の画面が表示されます。
(ユーザーの設定によっては右の画面から表示されます。)

[ID と 指静脈]をクリックします。



右の画面が表示されます。前回ログオン時に、右の画面からログオンした場合は、この画面ではなく右の画面が表示されます。ユーザー名とログオン先を入力します。



[] ボタンを押下すると右の画面が表示され、状態表示 LED が緑の点滅をします。ログオンするユーザーの指を認証装置に置きます。



「ピピッ」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が緑の点灯に変われば認証成功です。

「ピピー」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が赤の点灯に変われば認証失敗です（一瞬赤が点灯し、すぐに緑の点灯に変わります）。

10 秒以内に撮影が終わらない場合もピーブ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピーブ音と状態表示 LED については「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく認証を行えない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピーブ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピーブ音は鳴りません。ピーブ音の設定方法については「6.8 ピーブ音の ON/OFF」を参照してください。

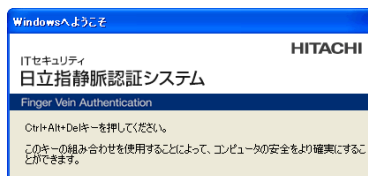
重要

- ・ 認証に連続 10 回失敗すると、5 分間認証を受け付けません。
- ・ もしくは の画面で [シャットダウン] ボタンを無効にしたい場合は、Windows のセキュリティポリシー設定で「シャットダウン: システムをシャットダウンするのにログオンを必要としない」を「無効」にしてください。

5.2.2 Windows XP / Server 2003 をお使いの場合

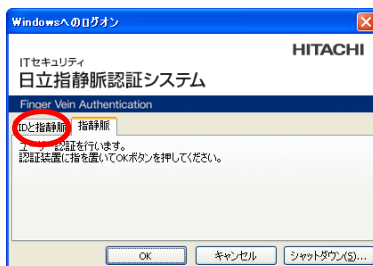
Windows 起動時に右の画面が表示されます。

(Windows のセキュリティポリシー設定で「対話型ログオン: Ctrl+Alt+Del を必要としない」を「有効」に設定している場合は表示されません)



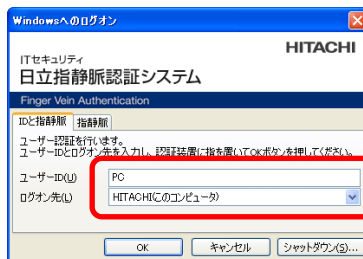
[Ctrl]キーと[Alt]キーと[Delete]キーを同時に押下すると右の画面が表示されます。

(Windows のセキュリティポリシー設定によっては右の画面から表示されます。)



[ID と指静脈] タブをクリックします。

[ID と指静脈] タブをクリックすると右の画面が表示されます。ユーザーIDを入力し、ログオン先を選択します。



[OK]ボタンを押下すると右の画面が表示され、状態表示 LED が緑の点滅をします。ログオンするユーザーの指を認証装置に置きます。



「ピピッ」というピープ音が鳴り、状態表示 LED が緑の点灯に変われば認証成功です。

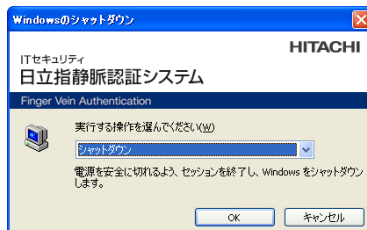
「ピーー」というピープ音が鳴り、状態表示 LED が赤の点灯に変われば認証失敗です。

10秒以内に撮影が終わらない場合もピープ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピープ音と状態表示 LED については「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく認証を行えない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピープ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピープ音は鳴りません。ピープ音の設定方法については「6.8 ピープ音の ON/OFF」を参照してください。

もしくは の画面表示時に、[シャットダウン] ボタンをクリックすると右の画面が表示されます。ここで、シャットダウンや再起動を行うことができます。[キャンセル] ボタンを押下すると、もしくは の画面に戻ります。



重要

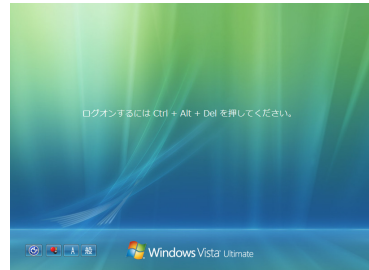
- ・ 認証に連続 10 回失敗すると、5 分間認証を受け付けません。
- ・ もしくは の画面で [シャットダウン] ボタンを無効にしたい場合は、Windows のセキュリティポリシー設定で「シャットダウン: システムをシャットダウンするのにログオンを必要としない」を「無効」にしてください。

5.3 スクリーンセーバーロック解除 (指静脈認証の場合)

5.3.1 Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合

スクリーンセーバー起動中に操作を行うと、右の画面が表示されます。

(Windows のセキュリティポリシー設定で「対話型ログオン: Ctrl+Alt+Del を必要としない」を「有効」に設定している場合は表示されません)



重要

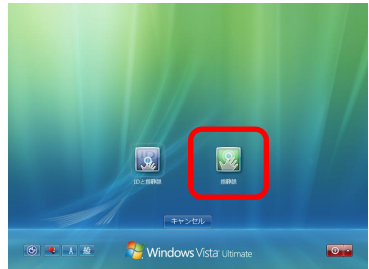
または の画面が表示されない場合は、本書「14.1 スクリーンセーバーの設定方法」を参照しパスワードによる保護を有効にしてください。

[Ctrl]キーと[Alt]キーと[Delete]キーを同時に押下すると右の画面が表示されます。

(ユーザーの設定によっては の画面から表示されます。)

右の画面には現在利用可能な認証方式が表示されます。

[指静脈]をクリックします。



右の画面が表示されます。ログオン時に、右の画面からログオンした場合は、 の画面ではなく右の画面が表示されます。



[] ボタンをクリックすると、右の画面が表示され、状態表示 LED が緑の点滅をします。ログオンしているユーザーの指を認証装置に置きます。



「ピピッ」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が緑の点灯に変われば認証成功です。

「ピーー」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が赤の点灯に変われば認証失敗です（一瞬赤が点灯し、すぐに緑の点灯に変わります）。

10秒以内に撮影が終わらない場合もピーブ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピーブ音と状態表示 LED については「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく認証を行えない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピーブ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピーブ音は鳴りません。ピーブ音の設定方法については「6.8 ピーブ音の ON/OFF」を参照してください。

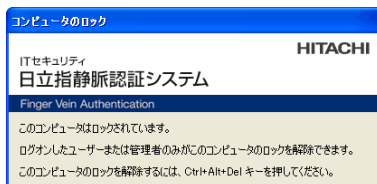
重要

- ・ 認証に連続 10 回失敗すると、5 分間認証を受け付けません。
- ・ Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合は、ログオンしているユーザーのみがロックを解除することができます。

5.3.2 Windows XP / Server 2003 をお使いの場合

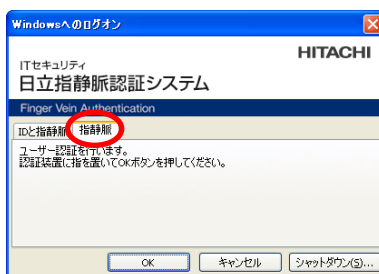
スクリーンセーバー起動中に操作を行うと、右の画面が表示されます。

(Windows のセキュリティポリシー設定で「対話型ログオン: Ctrl+Alt+Del」を必要としない」を「有効」に設定している場合は表示されません)

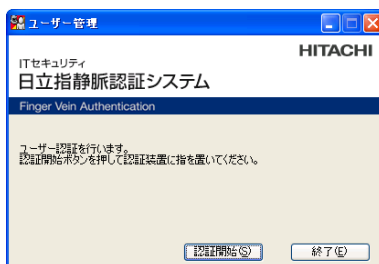


[Ctrl]キーと[Alt]キーと[Delete]キーを同時に押下すると右の画面が表示されます。
(Windows のセキュリティポリシー設定によっては右の画面から表示されます。)

[指静脈] タブが表示されている場合は、
[指静脈] タブをクリックします。



1:1 認証が利用可能でない場合はタブが表示されません。



重要

または の画面が表示されない場合は、本書「14.1 スクリーンセーバーの設定方法」を参照しパスワードによる保護を有効にしてください。

[OK] ボタンまたは[認証開始]ボタンをクリックすると、右の画面が表示され、状態表示 LED が緑の点滅をします。
ログオンしているユーザーか、お使いのパソコンの Administrators グループに属するユーザーの指を認証装置に置きます。



「ピピッ」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が緑の点灯に変われば認証成功です。

「ピピー」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が赤の点灯に変われば認証失敗です。

10秒以内に撮影が終わらない場合もピーブ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピーブ音と状態表示 LED については「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく認証を行えない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピーブ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピーブ音は鳴りません。ピーブ音の設定方法については「6.8 ピーブ音の ON/OFF」を参照してください。

重要

- ・ 認証に連続 10 回失敗すると、5 分間認証を受け付けません。
- ・ ログオンしているユーザーがロックを解除した場合はデスクトップに戻ります。お使いのパソコンの Administrators グループに属するユーザーが解除した場合はログオフ状態になります。

5.4 スクリーンセーバーロック解除 (IDと指静脈認証の場合)

5.4.1 Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合

スクリーンセーバー起動中に操作を行うと、右の画面が表示されます。

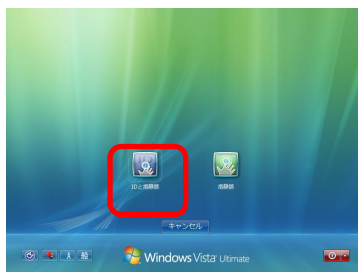
(Windows のセキュリティポリシー設定で「対話型ログオン: Ctrl+Alt+Del を必要としない」を「有効」に設定している場合は表示されません)



[Ctrl]キーと[Alt]キーと[Delete]キーを同時に押下すると右の画面が表示されます。

(ユーザーの設定によっては右の画面から表示されます。)

[ID と 指静脈]をクリックします。



重要

または の画面が表示されない場合は、本書「14.1 スクリーンセーバーの設定方法」を参照しパスワードによる保護を有効にしてください。

右の画面が表示されます。ログオン時に、右の画面からログオンした場合は、 の画面ではなく右の画面が表示されます。ユーザーID とログオン先を入力します。



[] ボタンを押下すると右の画面が表示され、状態表示LED が緑の点滅をします。入力したユーザーの指を認証装置に置きます。



「ピピッ」というピープ音が鳴り、状態表示LED が緑の点灯に変われば認証成功です。

「ピーー」というピープ音が鳴り、状態表示LED が赤の点灯に変われば認証失敗です（一瞬赤が点灯し、すぐに緑の点灯に変わります）。

10秒以内に撮影が終わらない場合もピープ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピープ音と状態表示LED については「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく認証を行えない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピープ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピープ音は鳴りません。ピープ音の設定方法については「6.8 ピープ音の ON/OFF」を参照してください。

重要

- ・ 認証に連続 10 回失敗すると、5 分間認証を受け付けません。
- ・ Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合は、ログオンしているユーザーのみがロックを解除することができます。

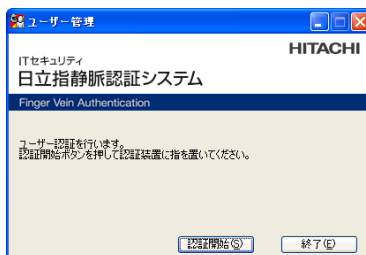
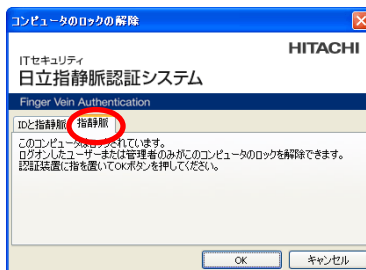
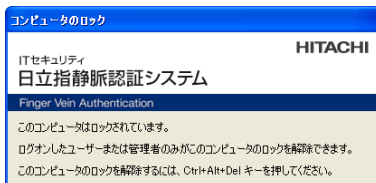
5.4.2 Windows XP / Server 2003 をお使いの場合

スクリーンセーバー起動中に操作を行うと、右の画面が表示されます。
(Windows のセキュリティポリシー設定で「対話型ログオン: Ctrl+Alt+Del」を必要としない」を「有効」に設定している場合は表示されません)

[Ctrl]キーと[Alt]キーと[Delete]キーを同時に押下すると右の画面が表示されます。
(コンピュータの設定によっては右の画面から表示されます。)

[ID と指静脈] タブをクリックします。

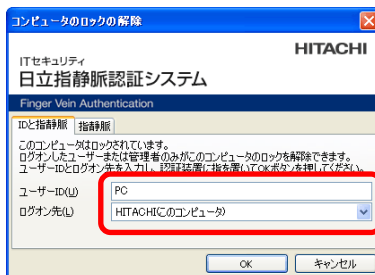
1:1 認証が利用可能でない場合はタブが表示されません。



重要

または の画面が表示されない場合は、本書「14.1 スクリーンセーバーの設定方法」を参照しパスワードによる保護を有効にしてください。

[ID と指静脈] タブをクリックすると右の画面が表示されます。ユーザーIDを入力し、ログオン先を選択します。



[OK] ボタンをクリックすると、右の画面が表示され、状態表示LEDが緑の点滅をします。入力したユーザーの指を認証装置に置きます。



「ピピッ」というピープ音が鳴り、状態表示LEDが緑の点灯に変われば認証成功です。

「ピーー」というピープ音が鳴り、状態表示LEDが赤の点灯に変われば認証失敗です。

10秒以内に撮影が終わらない場合もピープ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピープ音と状態表示LEDについては「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく認証を行えない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピープ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピープ音は鳴りません。ピープ音の設定方法については「6.8 ピープ音の ON/OFF」を参照してください。

重要

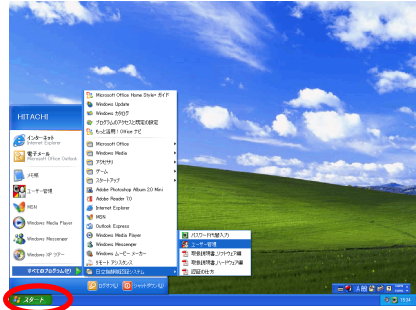
- ・ 認証に連続 10 回失敗すると、5 分間認証を受け付けません。
- ・ ログオンしているユーザーがロックを解除した場合はデスクトップに戻ります。お使いのパソコンの Administrators グループに属するユーザーが解除した場合はログオフ状態になります。

6 ユーザー管理機能

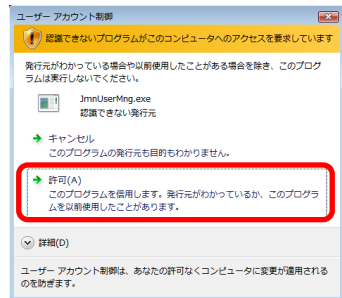
新規ユーザーの登録、指情報の追加、変更、削除等はユーザー管理機能により行います。

ユーザー管理機能を起動するには、以下の手順を実行します。

スタートメニューから、
[スタート] → [すべてのプログラム]
→ [日立指静脈認証システム] → [ユーザー管理]
をクリックします。



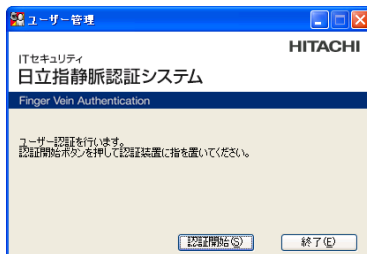
Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合は右の画面が表示される場合があります。表示された場合は[許可(A)]をクリックしてください。表示されない場合は次の手順へ進みます。



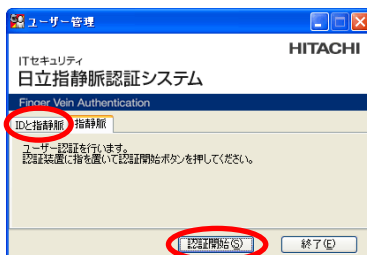
右の画面が表示されます。

1:1 認証が利用可能でない場合と利用可能である場合とで表示される画面が異なります。

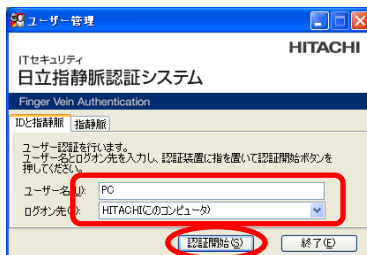
指静脈認証を行う場合は、[認証開始]ボタンをクリックします。



1:1 認証が利用可能である場合は、ID と指静脈認証を行うことができます。ID と指静脈認証を行う場合は、[ID と指静脈] タブをクリックします。



[ID と指静脈]タブをクリックすると右の画面が表示されます。管理者として登録されているユーザーIDを入力し、ログイン先を選択して、[認証開始] ボタンをクリックします。



右の画面が表示されます。

管理者権限のあるユーザーの指を認証装置に置きます。



「ピピッ」というピープ音が鳴り、状態表示 LED が緑の点灯に変われば認証成功です。認証が確認されれば、「ユーザー管理」画面が表示されます。

「ピーー」というピーブ音が鳴り、状態表示 LED が赤の点灯に変われば認証失敗です。

10 秒以内に撮影が終わらない場合もピーブ音が鳴りエラー画面が表示されます。

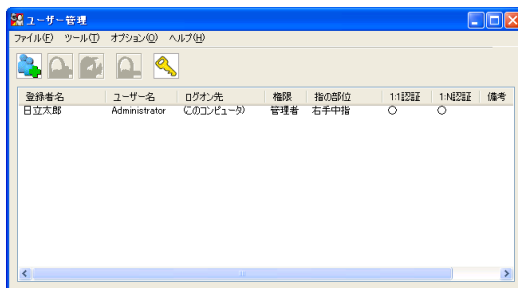
ピーブ音と状態表示 LED については「取扱説明書

ハードウェア編」の [2.1 認証装置の各部の名称と機能] を参照してください。

また、正しく認証を行えない場合は本書巻末の [13 トラブルシューティング] を参照してください。

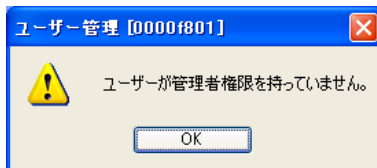
認証装置のピーブ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピーブ音は鳴りません。

ピーブ音の設定方法については [6.8 ピーブ音の ON/OFF] を参照してください。

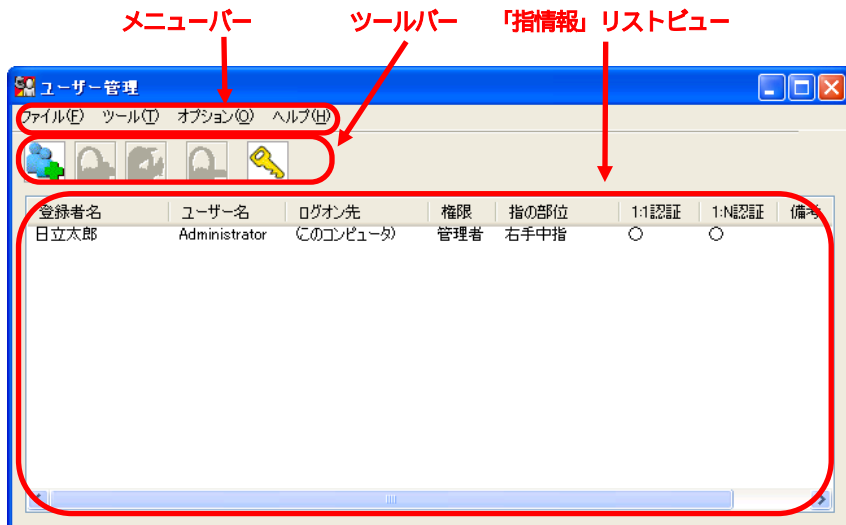


重要

- ・ ユーザー管理機能を起動したまま、離席等を行わないように注意してください。離席時はユーザー管理機能を終了させてください。
- ・ 認証に成功しても、ユーザーの指が管理者権限を持っていないければ「ユーザー管理」画面は表示されません。このような場合には下記の画面が表示されますので、[OK] ボタンを押下して、管理者権限のあるユーザーの指で再度、認証を行ってください。



「ユーザー管理」画面の画面構成は以下のようになっています。



「指情報」リストビュー

「ログオン先」欄には、ログオン先がローカルコンピュータの場合は「(このコンピュータ)」、ログオン先がドメインの場合にはドメイン名が表示されます。

ツールバー



: 新規ユーザーの登録を行います。



: 指情報の追加を行います。



: 指情報の変更を行います。



: 指情報の削除を行います。




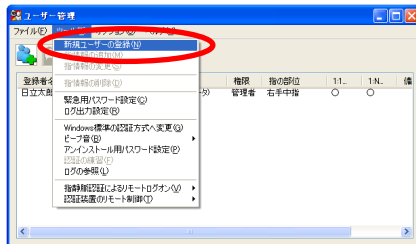
: 緊急用パスワードの設定を行います。

6.1 新規ユーザーの登録

新規ユーザーを作成することができます。

作成するユーザーは既に Windows のユーザーアカウントとして登録されパスワードが設定されている必要があります。Windows のユーザーアカウントが登録されていない場合は、Windows のユーザーアカウントを登録し、パスワードを設定してください。

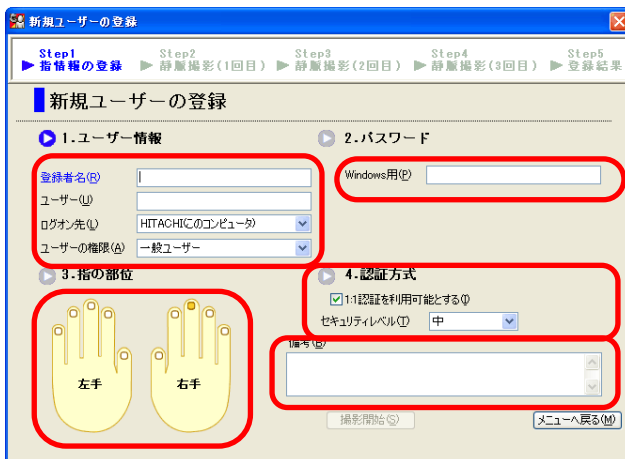
「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール (T)] → [新規ユーザーの登録 (N)] をクリックするか、ツールバーの  アイコンをクリックします。



[Step1] 指情報の登録

Step1 ではユーザー登録に必要な情報の入力、登録する指の部位を決定します。

以下の画面が表示されます。



ユーザー情報

登録者名には、後の管理を容易にするために指情報の登録を行う方の氏名を入力することをお勧めします。登録者名には、全角/半角共に 20 文字まで入力できます。登録する Windows のユーザー名、ログオン先、およびユーザーの権限を入力します。ログオン先の初期設定は現在のログオン先です。変更する場合はプルダウンメニューから選択します。ユーザーの権限の初期設定は一般ユーザーです。

本製品がインストールされたパソコンが Active Directory の環境下で動作している場合、ユーザー名をユーザープリンシパル名 (UPN) 形式での入力を行うことができます。ユーザー名にはまず UPN プレフィックスを入力します。続けて「@」が入力された時点で「ログオン先」のダイアログボックスが無効化されますので、UPN サフィックスの部分を入力します。

1. ユーザー情報

登録者名(R)	日立花子
ユーザー(U)	hanako@mus-test.local
ログオン先(L)	[Disabled Dropdown]
ユーザーの権限(A)	一般ユーザー

管理者として登録したい場合には、Administrators グループに属するユーザーの情報を入力して、プルダウンメニューから管理者を選択してください。

重要

- ・ ユーザー名を UPN 形式で入力する場合を除き、「@」を含むユーザー名をご使用になることはできません。
- ・ ユーザー名を UPN 形式で入力した場合、登録した指ではパスワード代替入力機能を使用することができません。(本書「10 パスワード代替入力機能」参照)
- ・ 登録するユーザーは、あらかじめ Windows 用パスワードが設定されている必要があります。

パスワード

ユーザーの Windows 用パスワードを入力します。127 文字まで入力することができます。

指の部位

登録する指の部位を指定します。爪の部分をクリックすることにより登録する指を指定します。指の部位は初期設定では右手中指となっています。指ごとに権限を変えることができます。

認証方式

認証方式を変更することができます。認証方式には、「指静脈認証」方式と「ID と指静脈認証」認証方式の二つの認証方式を選ぶことができます。それぞれの認証方式の特徴は次の通りです。

- ・ 指静脈認証方式(1:N 認証方式)
登録した全ての指静脈の中から比較して本人を特定します。
- ・ ID と指静脈認証方式(1:1 認証方式)
予め本人を特定するためのユーザーID を入力し、ユーザーID に登録されている指静脈と比較して本人を特定します。この認証方式を選択した場合は、認証のセキュリティレベル(認証のしやすさ)を変更できます。

ID と指静脈認証方式(1:1 認証方式)を利用する場合は「1:1 認証を利用可能とする」にチェックを入れます。

チェックを入れた場合、「セキュリティレベル」が選択できるようになります。セキュリティレベルを変更することで、認証のしやすさを 5 段階で変えることができます。

重要

- ・ セキュリティレベルは「高」へ近づけるに従い、より厳しく認証を行います。他人を受け入れづらくなりますが、本人も認証しにくくなる場合があります。
- ・ 「1:1 認証を利用可能とする」にチェックを入れない場合は、登録した指ではパスワード代替入力機能を使用することができません。(本書「10 パスワード代替入力機能」参照)

備考

認証に必要な情報ではありません。最大で全角/半角共に 50 文字までの情報を入力できます。

ユーザー名、ログオン先、ユーザーの権限、Windows 用パスワードの入力、認証方式の選択をし、指の部位を選択した後に、[撮影開始(S)] ボタンをクリックします。

画面に入力した内容によっては右の画面が表示されます(文章の内容は異なることがあります)。警告をよく読み、理解した上で[はい(Y)]ボタンをクリックします。

重要

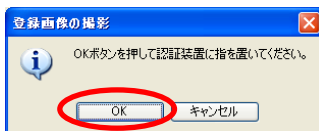
- 指以外のものを登録しないでください。誤動作の原因となります。
- 登録するユーザーは、以下の条件のいずれかを満たす必要があります。
 - Administrators ローカルグループに直接所属している
 - Domain Admins グローバルグループに直接所属している
- Domain Admins グローバルグループはAdministrators ローカルグループに所属している必要があります。デフォルトで所属していますので、削除しないようにしてください。
- ローカルグループに所属していないユーザーを管理者として登録する場合は、このユーザーはドメインのアカウントで Windows へログオンしておく必要があります。

[Step2] ~ [Step4] 静脈撮影

[Step1] で入力した情報を元に登録するユーザーの指を撮影します。[Step2] ~ [Step4] まで撮影は3回行われます。

右の画面が表示されます。

[OK] ボタンをクリックします。または [Enter] キーを押下します。



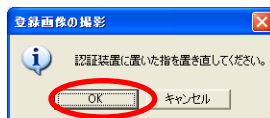
画面の指示に従い、認証装置に指を置きます。



重要

- ・ 乳幼児や極端に指が細い方(指の幅が10mm未満)、太い方(指の幅が25mm以上)、指が短い方(指が認証ゾーンの先まで届かない方)は、指の登録や認証に失敗する場合があります。
- ・ 認証ができにくくなった場合(成長期の子供で指の状態が変わる場合等)は、下記の手順に従い指情報を再度登録してください。
 1. 該当の指情報を削除する。指情報の削除については、本書「6.4 指情報の削除」を参照してください。
 2. 再度「指情報の追加」を行う。指情報の追加については、本書「6.2 指情報の追加」を参照してください。
- ・ 撮影中は認証装置の認証ゾーンに指以外のものを置かないでください。誤動作の原因となる場合があります。(手袋や絆創膏等の指を覆うものや指輪)
- ・ 撮影中は認証装置の接続を切断しないでください。
- ・ 撮影中はお使いのパソコンをロック、ログオフ、シャットダウン、スリープ状態、休止状態、スタンバイ状態にしないでください。いずれかの状態からの復帰後に正しい認証が行われず、システムが不安定になる場合があります。

「ピッ」というピープ音が鳴り、右の画面が表示されれば撮影成功です。指を離して [OK] ボタンをクリックするか、[Enter] キーを押下します。「ビピー」というピープ音が鳴り、状態表示 LED が赤の点灯に変わり、エラー画面が表示されれば撮影失敗です。



10秒以内に撮影が終わらない場合もピープ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピープ音と状態表示LEDについては「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく登録を行えない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピープ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピープ音は鳴りません。ピープ音の設定方法については「6.8 ピープ音の ON/OFF」を参照してください。

指静脈撮影は正確な情報を得るために3回行われます。 の画面が表示されるので、あと2回の撮影を行います。

重要

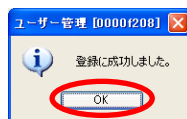
- ・ 撮影時には必ず指を置き直してください(一度、認証ゾーンから指を抜き、再度、指を認証ゾーンに置いて下さい)。置き直しをしないと正しく認証されない場合があります。

[Step5] 登録結果

[Step2] ~ [Step4] で撮影した情報を元にシステムに指情報の登録を行います。

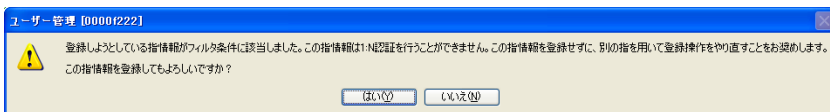
3回の撮影に成功し、新規ユーザー登録が成功すると、右の画面が表示されます。

[OK] ボタンをクリックするか、[Enter] キーを押下します。撮影に失敗した場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。



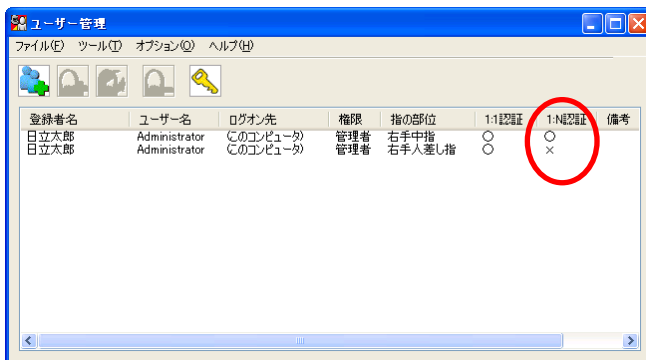
重要

- ・ 指のけがなどにより、指静脈による認証が行えなくなる場合がありますので、1 ユーザーに対し 2 本以上の指を登録して運用してください。複数の指の登録方法については本書「6.2 指情報の追加」をご覧ください。
- ・ 3 回の撮影に成功した後に以下の画面が表示されることがあります。




この画面で「はい」をクリックして登録を続行した場合、その指は1:N 認証では使用できず、1:1 認証でしか使用することができなくなります。1:N 認証をお使いになる場合は、必ず「いいえ」をクリックして登録をやり直してください。

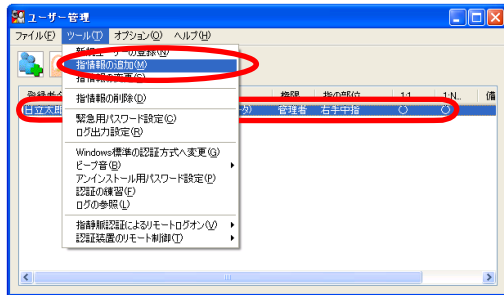
登録されている指が1:N 認証に使用できるかどうかはユーザー管理画面で確認できます(「1:N 認証」が「 」ならば1:N 認証に使用できます)。



6.2 指情報の追加

同一アカウントに対して指情報を追加することができます。

指情報リストビューから指情報を追加したいユーザーを選択し、「ユーザー管理」画面のメニューバーから
[ツール(T)] → [指情報の追加(M)] をクリックするか、
ツールバーの  アイコンをクリックします。

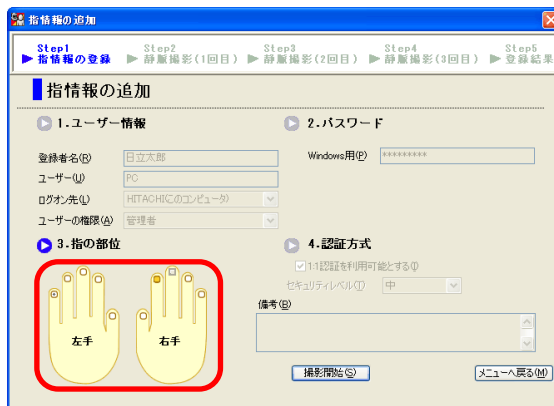


[Step1] 指情報の登録

Step1 では指情報の登録に必要な情報の入力、登録する指の部位を決定します。

以下の画面が表示されます。

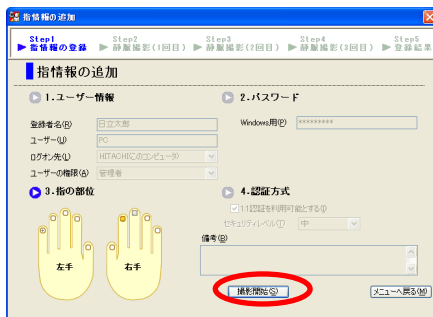
追加したい指の部位を選択します。



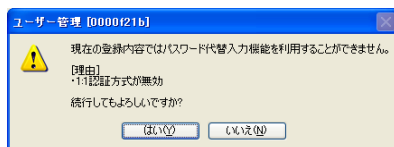
指の部位

登録する指の部位を指定します。爪の部分をクリックすることにより登録する指を指定します。指の部位は初期設定では右手中指となっています。

指情報の追加を行うため [撮影開始 (S)] ボタンをクリックします。



指情報の登録内容によっては右の画面が表示されます(文章の内容は異なることがあります)。警告をよく読み、理解した上で[はい(Y)]ボタンをクリックします。



重要

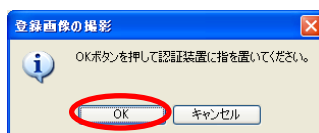
- ・ 指以外のものを登録しないでください。誤動作の原因となります。

[Step2] ~ [Step4] 静脈撮影

[Step1] で入力した情報を元に登録するユーザーの指を撮影します。[Step2] ~ [Step4] まで撮影は3回行われます。

右の画面が表示されます。

指を認証装置に置いて [OK] ボタンをクリックします。または [Enter] キーを押下します。



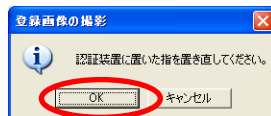
画面の指示に従い、認証装置に指を置きます。



重要

- ・ 乳幼児や極端に指が細い方(指の幅が10mm未満)、太い方(指の幅が25mm以上)、指が短い方(指が認証ゾーンの先まで届かない方)は、指の登録や認証に失敗する場合があります。
- ・ 認証ができにくくなった場合(成長期の子供で指の状態が変わる場合等)は、下記の手順に従い指情報を再度登録してください。
 1. 該当の指情報を削除する。指情報の削除については、本書「6.4 指情報の削除」を参照してください。
 2. 再度「指情報の追加」を行う。指情報の追加については、本書「6.2 指情報の追加」を参照してください。
- ・ 撮影中は認証装置の認証ゾーンに指以外のものを置かないでください。誤動作の原因となる場合があります。
- ・ 撮影中は認証装置の接続を切断しないでください。
- ・ 撮影中はお使いのパソコンをロック、ログオフ、シャットダウン、スリープ状態、休止状態、スタンバイ状態にしないでください。いずれかの状態からの復帰後に正しい認証が行われず、システムが不安定になる場合があります。
- ・ 異なるアカウントにおいて同一の指を複数回登録しないようにしてください。誤動作の原因となります。

「ピッ」というピープ音が鳴り、右の画面が表示されれば撮影成功です。指を離して [OK] ボタンをクリックするか、[Enter] キーを押下します。「ビピー」というピープ音が鳴り、状態表示 LED が赤の点灯に変わり、エラー画面が表示されれば撮影失敗です。



10秒以内に撮影が終わらない場合もピープ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピープ音と状態表示LEDについては「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく登録を行えない場合は本書巻末の「13トラブルシューティング」を参照してください。

認証装置のピープ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピープ音は鳴りません。ピープ音の設定方法については「6.8 ピープ音の ON/OFF」を参照してください。

静脈撮影は正確な情報を得るために3回行われます。

の画面が表示されるので、あと2回の撮影を行います。

重要

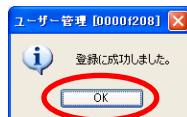
- ・ 撮影時には必ず指を置き直してください(一度、認証ゾーンから指を抜き、再度、指を認証ゾーンに置いて下さい)。置き直しをしないと正しく認証されない場合があります。

[Step5] 登録結果

[Step2] ~ [Step4] で撮影した情報を元にシステムに指情報の登録を行います。

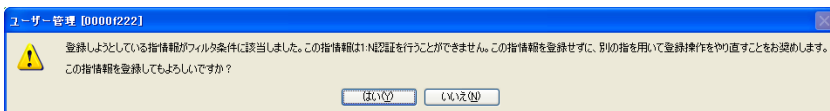
3回の撮影に成功し、指情報の追加が成功すると、右の画面が表示されます。

[OK] ボタンをクリックするか、[Enter] キーを押下します。
撮影に失敗した場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。



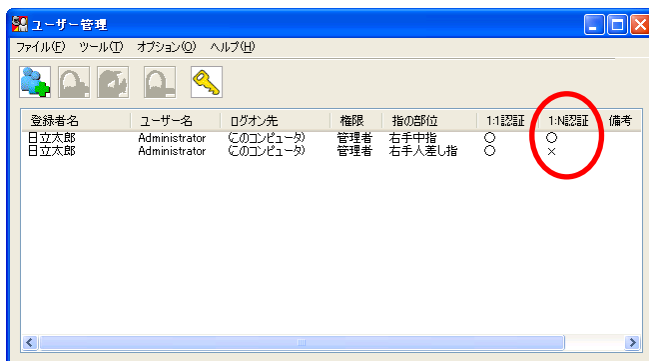
重要

3回の撮影に成功した後に以下の画面が表示されることがあります。




この画面で「はい」をクリックして登録を続行した場合、その指は 1:N 認証では使用できず、1:1 認証でしか使用することができなくなります。1:N 認証をお使いになる場合は、必ず「いいえ」をクリックして登録をやり直してください。

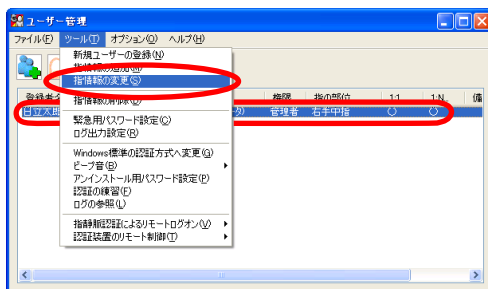
登録されている指が 1:N 認証に使用できるかどうかはユーザー管理画面で確認できます(「1:N 認証」が「 」ならば 1:N 認証に使用できます)。



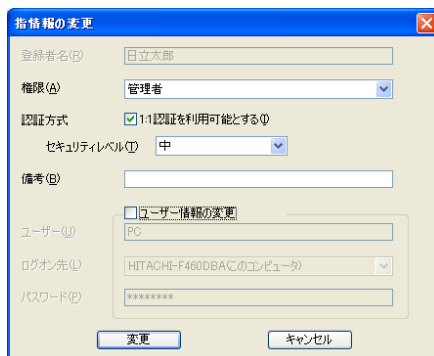
6.3 指情報の変更

指情報を変更することができます。指静脈データは変更しないため、撮影は行いません。

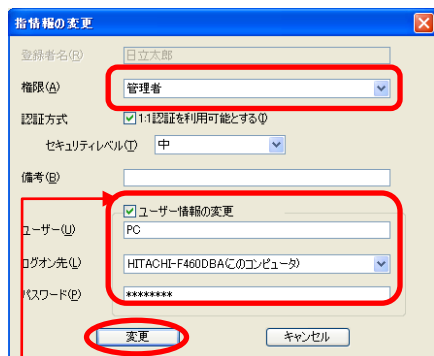
指情報リストビューから指情報を変更したいユーザーを選択し、「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール (T)] → [指情報の変更 (S)] をクリックするか、ツールバーの  アイコンをクリックします。



右の画面が表示されます。



[ユーザー情報の変更] にチェックマークを入れたあと、変更する箇所に入力し、[変更] ボタンをクリックします。



チェック後に入力可能

権限・・・・・・・・・・一般ユーザーが管理者を選択します。管理者は100 指まで登録できます。管理者は最低1 人登録が必要です(管理者として最低1 指の登録が必要)。そのため、管理者の最後の指情報は変更できません。

認証方式・・・・・・・・1:1 認証での利用を許可する場合にはチェックします。

備考・・・・・・・・備考を変更する場合は書き換えます。

ユーザー情報の変更・・ユーザー情報を変更する場合はチェックします。

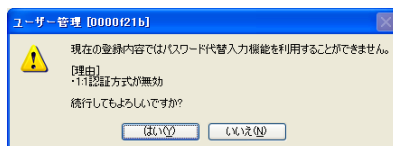
ユーザー名・・・・・・・・Windows のユーザー名を入力します。(1)

ログオン先・・・・・・・・ユーザーのログオン先を指定します。

パスワード・・・・・・・・Windows ログオン用のパスワードです。127 文字まで入力することができます。

- 1 Active Directory の環境下で動作している場合、ユーザー名をユーザープリンシパル名 (UPN) 形式での入力を行うことができます。ユーザー名にはまず UPN プレフィックスを入力します。続けて「@」が入力された時点で「ログオン先」のダイアログボックスが無効化されますので、UPN サフィックスの部分を入力します。

画面に入力した内容によっては右の画面が表示されます(文章の内容は異なることがあります)。警告をよく読み、理解した上で「はい(Y)」ボタンをクリックします。




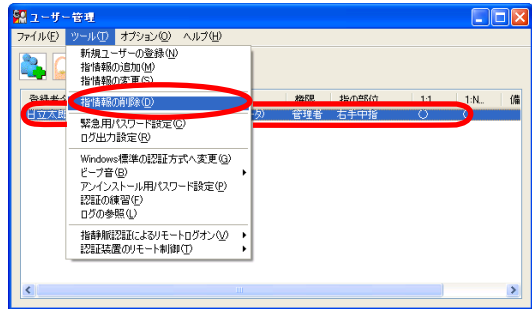
重要

- ・ユーザー名を UPN 形式で入力する場合を除き、「@」を含むユーザー名をご使用になることはできません。
- ・ユーザー名を UPN 形式で入力した場合、登録した指ではパスワード代替入力機能を使用することができません。(本書「10 パスワード代替入力機能」参照)
- ・「1:1 認証を利用可能とする」にチェックを入れない場合は、登録した指ではパスワード代替入力機能を使用することができません。(本書「10 パスワード代替入力機能」参照)

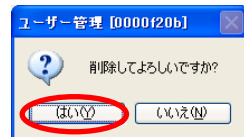
6.4 指情報の削除

指情報を削除することができます。

指情報リストビューから指情報を削除したいユーザーを選択し、「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール (I)] → [指情報の削除 (D)] をクリックするか、ツールバーの  アイコンをクリックします。



右の画面が表示されるので、[はい(Y)] ボタンをクリックします。または [Enter] キーを押下します。



指情報が削除され、「ユーザー管理」画面に戻ります。


重要

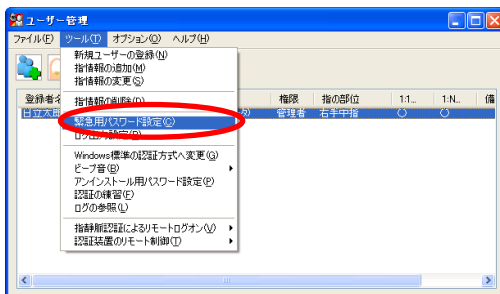
管理者は最低 1 人登録が必要です(管理者として最低 1 指の登録が必要)。そのため、管理者の最後の指情報は削除できません。

6.5 緊急用パスワードの設定

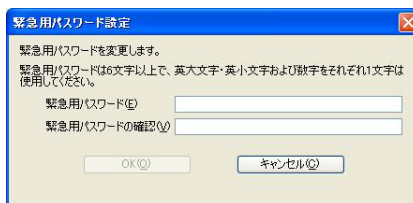
緊急用パスワードを設定することができます。

緊急用パスワードは指静脈認証ができなくなった場合に利用します。忘れないようにしてください。

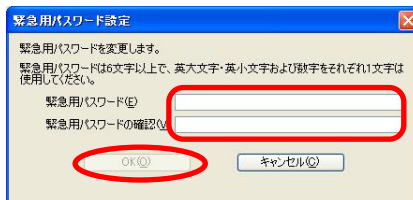
「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール (T)] → [緊急用パスワード設定 (C)] をクリックするか、ツールバーの  アイコンをクリックします。



右の画面が表示されます。



緊急用パスワードを入力します。
確認のためもう一度緊急用パスワードを入力して、[OK] ボタンをクリックします。127 文字まで入力することができます。



緊急用パスワードが設定され、「ユーザー管理」画面に戻ります。

重要

緊急用パスワードは管理者のみ操作することが可能であり、ユーザーごとに設定することはできません。また、緊急用パスワードは以下の条件を満たす必要があります。

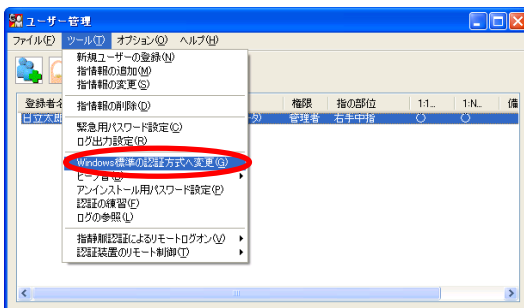
- ・ 6 文字以上であること
- ・ 英大文字、英小文字、数値をそれぞれ少なくとも 1 文字以上使用すること

6.6 認証方法の変更

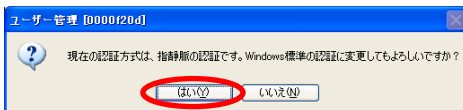
システムの認証方式を指静脈認証方式から Windows 標準の認証方式へ、また、Windows 標準の認証方式から指静脈認証方式へ変更することができます。

- ・ システムの認証方式を従来の Windows 標準の認証方式 (パスワード認証) に戻す場合

「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール(T)] → [Windows 標準の認証方式へ変更(G)] をクリックします。



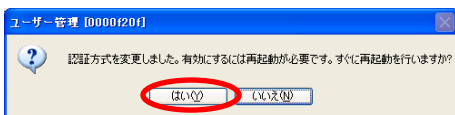
右の画面が表示されるので、[はい(Y)] ボタンをクリックします。または [Enter] キーを押下します。



Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合は再起動の必要がないため、右の画面は表示されません。ログオフすると認証方式の変更が有効になります。

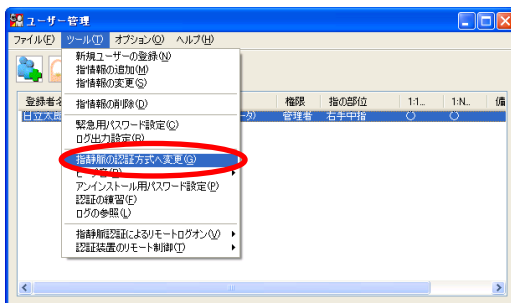
Windows XP / Server 2003 をお使いの場合は、右の画面が表示されるので、[はい(Y)] ボタンをクリックします。Windows が再起動されます。

再起動後に認証方式の変更が有効になります。

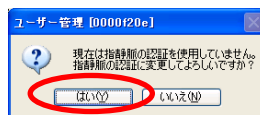


- ・ 再び指静脈認証方式に戻す場合

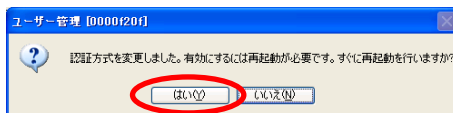
「ユーザー管理」画面のメニューバーから
[ツール(T)] → [指静脈の認証
方式へ変更(C)]
をクリックします。



右の画面が表示されるので、[はい(Y)] ボタンをクリックします。または [Enter] キーを押下します。



Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合は再起動の必要がないため、右の画面は表示されません。ログオフすると認証方式の変更が有効になります。Windows XP / Server 2003 をお使いの場合は、右の画面が表示されるので、[はい(Y)] ボタンをクリックします。Windows が再起動されます。再起動後に認証方式の変更が有効になります。

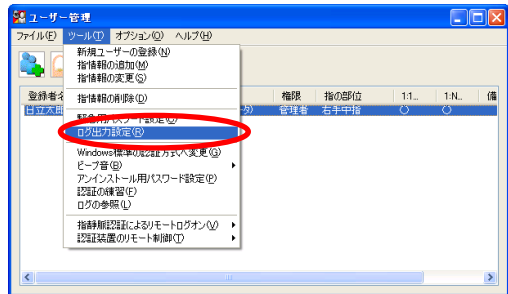


6.7 ログ出力設定

ログ出力のレベルを設定することができます。

本製品では、ログオン時やコンピュータのロック解除時等に、ログを Windows のイベントビューアへ出力することが可能です。

「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール(T)] → [ログ出力設定(R)]をクリックします。



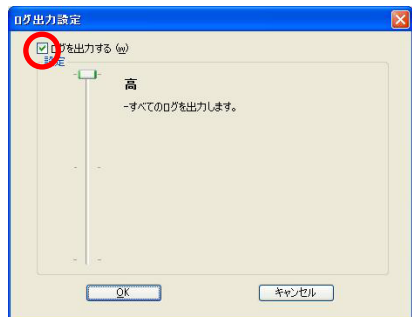
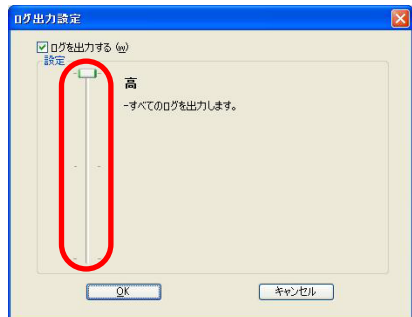
右の画面が表示されます。ログの出力レベルを変更したい場合は、スライダーバーで設定します。

高：すべてのログを出力します。

中：ログオンやロック解除ではすべてのログを出力します。ユーザー管理機能では失敗のログを出力します。

低：ログオン失敗時やロック解除失敗時など、認証失敗のログのみ出力します。

ログを出力しない場合は、チェックボックスのチェックを外してください。

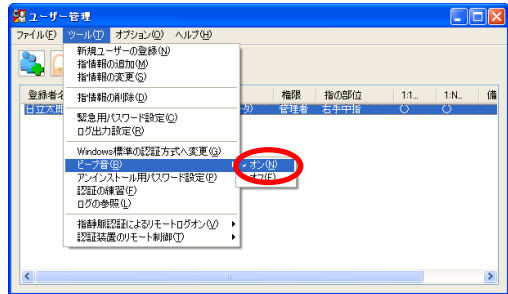


6.8 ビープ音のON/OFF

認証装置のビープ音を鳴らすか鳴らさないかを設定することができます。認証装置は、認証を行う際にビープ音で状態を知らせます。

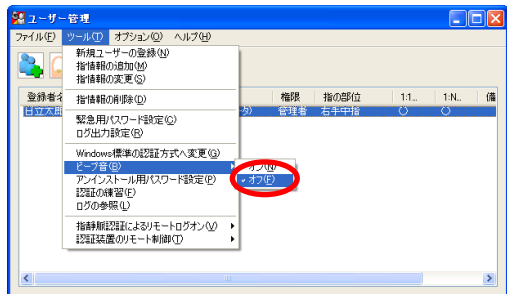
- ・ ビープ音を鳴らす場合

「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール(T)] → [ビープ音(B)] → [オン(N)]をクリックします。



- ・ ビープ音を鳴らさない場合

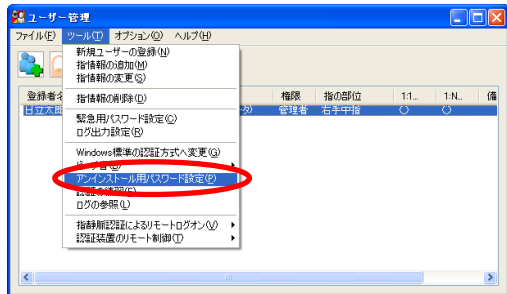
「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール(T)] → [ビープ音(B)] → [オフ(O)]をクリックします。



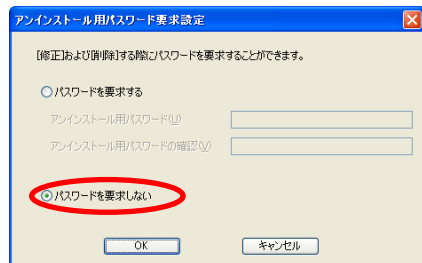
6.9 アンインストール用パスワードの設定

管理者以外が勝手にアンインストールできないように、アンインストール時にパスワードを要求するように設定することができます。

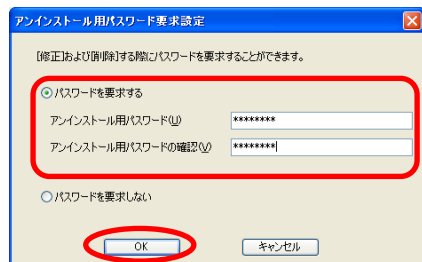
「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール(T)] → [アンインストール用パスワード設定(P)]をクリックします。



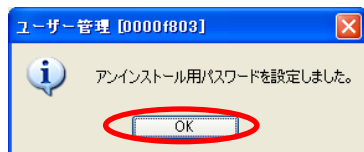
右の画面が表示されます。はじめはアンインストール用パスワードが設定されていないため、[パスワードを要求しない]がチェックされています。



[パスワードを要求する] をチェックし、エディットボックスにアンインストール用パスワードを入力します。127 文字まで入力することができます。入力後 [OK] ボタンをクリックします。



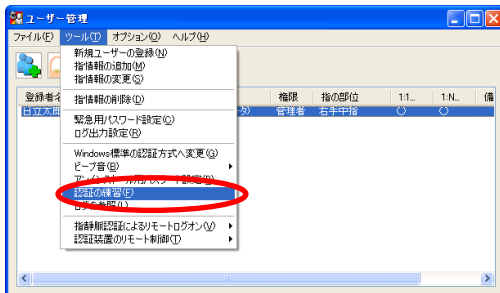
右の画面が表示されますので [OK] ボタンをクリックしてください。



6.10 認証の練習

登録した指静脈に対して、認証の練習を行うことができます。

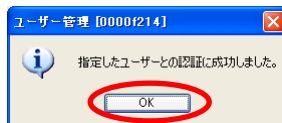
指情報リストビューから認証の練習をしたいユーザーを選択し、「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール(T)] → [認証の練習(E)]をクリックします。



認証画面が表示されるので、登録した指を置きます。



「ビピッ」というピープ音が鳴り、状態表示 LED が緑の点灯に変わり、右の画面が表示されれば認証成功です。指を離して [OK] ボタンをクリックするか、[Enter] キーを押下します。



「ピーー」というピープ音が鳴り、状態表示 LED

が赤の点灯に変わり、エラー画面が表示されれば認証失敗です。

10 秒以内に撮影が終わらない場合もピープ音が鳴りエラー画面が表示されます。ピープ音と状態表示 LED については「取扱説明書 ハードウェア編」の「2.1 認証装置の各部の名称と機能」を参照してください。

また、正しく認証がされない場合は本書巻末の「13 トラブルシューティング」を参照してください。

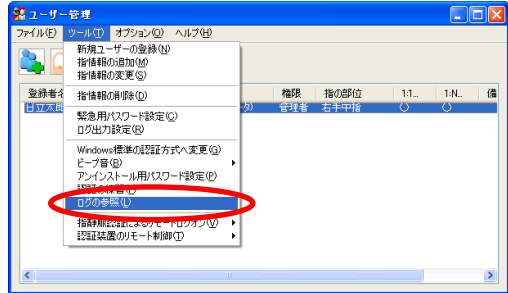
認証装置のピープ音の設定を [OFF] にしている場合は、ピープ音は鳴りません。ピープ音の設定方法については「6.8 ピープ音の ON/OFF」を参照してください。

6.11 ログの参照

本製品が出力した Windows のイベントログを一覧表示できます。

[ユーザー管理] 画面のメニュー
バーから[ツール(T)] → [ログの参
照(L)]
をクリックします。

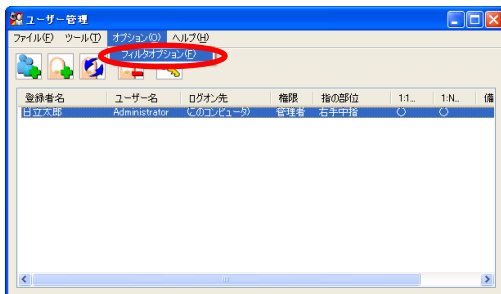
ログの参照については「7 ログ
の参照」を参照してください



6.12 フィルタオプションの設定

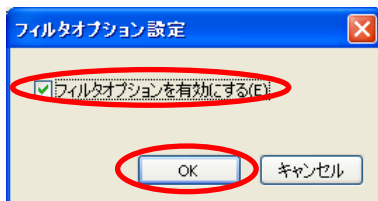
フィルタオプションの設定を行うことができます。

[ユーザー管理] 画面のメニューバーから[オプション(Q)] → [フィルタオプション(E)] をクリックします。



右の画面が表示されます。

「フィルタオプションを有効にする(E)」には現在の設定内容が反映されています(フィルタオプションが有効に設定されている場合にチェックされている状態になります)。



「フィルタオプションを有効にする(E)」をチェックして[OK]ボタンをクリックすると、フィルタオプションが有効になります。

「フィルタオプションを有効にする(E)」をチェックしないで[OK]ボタンをクリックすると、フィルタオプションが無効になります。

重要

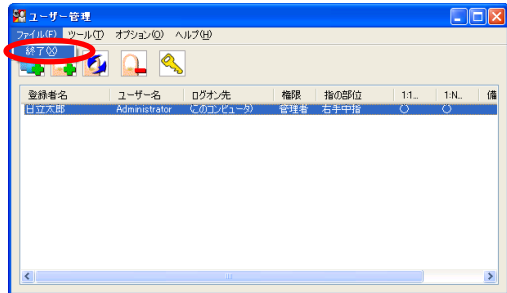
フィルタオプションを有効にすると、撮影したデータがフィルタリングされ、登録および認証に適さない状態のデータが使用できなくなります。フィルタオプションによって登録および認証ができなかった場合は、[13 トラブルシューティング]を参照してください。

登録および認証に適さない状態のデータが使用されることを防ぐため、フィルタオプションによって登録や認証がしにくくなるなどの理由が無い限りは、フィルタオプションを有効にして運用してください。

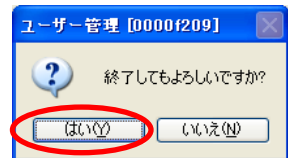
6.13 ユーザー管理画面の終了

ユーザー管理画面を終了するには以下の手順を実行してください。

[ユーザー管理] 画面のメニューバーから[ファイル(F)] → [終了(X)] をクリックします。

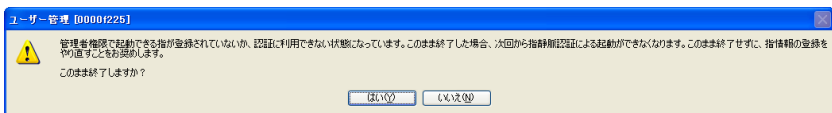


右の画面が表示されます。[はい(Y)]をクリックするとユーザー管理画面を終了します。



重要

ユーザー管理画面を終了する際に以下の画面が表示されることがあります。



この画面で[はい(Y)]をクリックしてユーザー管理画面を終了した場合、次回から指静脈認証によってユーザー管理画面を起動することができなくなります(緊急用パスワードによる起動は可能です)。

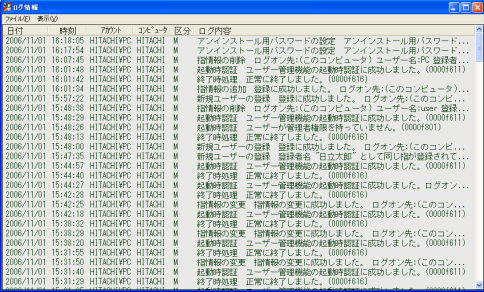
この画面が表示された場合は、やむを得ない場合を除き、必ず[いいえ(N)]をクリックしてユーザー管理画面に戻り、指情報の登録をやり直してください。

7 ログの参照

本製品のログのみを一覧表示で参照したい場合は、ユーザー管理機能からログの参照を選択します。以下の画面が表示されます。

ログの参照は以下の5つの方法で行うことができます。

- ・ ログオン関係のログ
- ・ 管理ログ
- ・ ログオン関係のログと管理ログ
- ・ パスワード代替入力ログ
- ・ リモート接続のログ



日付	時刻	アカウント	区分	ログ内容
2008/11/01	16:18:05	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	16:17:54	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	16:07:45	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	16:01:48	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	16:01:42	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	16:01:34	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:57:22	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:48:38	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:48:29	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:48:28	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:48:18	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:48:00	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:47:35	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:44:57	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:44:40	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:44:27	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:42:28	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:42:25	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:42:18	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:38:52	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:38:29	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:38:20	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:31:55	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:31:50	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:31:40	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得
2008/11/01	15:31:29	HITACHI@PC	M	アンインストール用(パスワード)の取得

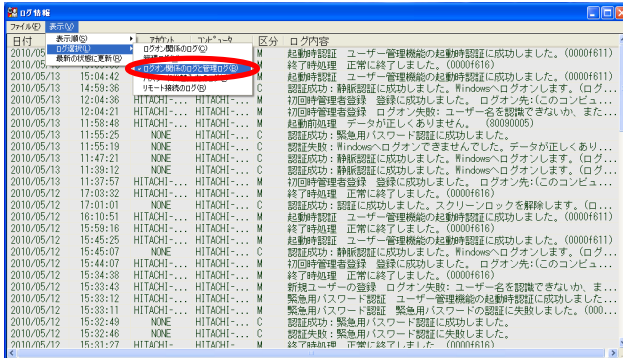
重要

本製品では、ログをWindowsのアプリケーションログに出力します。設定によってはログが書き込まれなかったり、古いログが削除されたりします。Windowsアプリケーションログの設定方法についてはWindowsのヘルプを参照してください。

7.3 ログオン関係のログと管理ログ

[ログオン関係のログと管理ログ] ではログオン関係のログ、管理ログ両方のログの一覧参照ができます。[日付、時刻、アカウント、コンピュータ、区分、ログ内容] の情報が表示されます。この情報を参照するには [ログ情報] 画面のメニューバーから[表示(V)] → [ログ選択(L)] → [ログオン関係のログと管理ログ(B)]をクリックします。

7.4

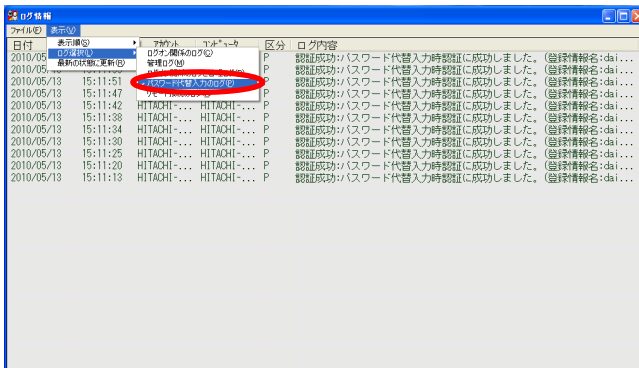


日付	時刻	アカウント	コンピュータ	区分	ログ内容
2010/05/13	15:04:42	M	起動時認証 ユーザー管理機能の起動時認証に成功しました。(0000f611)
2010/05/13	14:59:38	C	終了時処理 正常に終了しました。(0000f616)
2010/05/13	14:59:38	C	起動時認証 ユーザー管理機能の起動時認証に成功しました。(0000f611)
2010/05/13	12:04:38	HITACHI...	HITACHI...	M	認証成功: 静脈認証に成功しました。Windowsへログオンします。(ログ...
2010/05/13	12:04:21	HITACHI...	HITACHI...	M	初回時管理着登録 登録に成功しました。ログオン先(このコンピュ...
2010/05/13	11:58:48	HITACHI...	HITACHI...	M	起動前処理 データが正しくありません。(30090005)
2010/05/13	11:55:25	NONE	HITACHI...	C	認証成功: 緊急用パスワード認証に成功しました。
2010/05/13	11:55:19	NONE	HITACHI...	C	認証失敗: Windowsへログオンできませんでした。データが正しくあり...
2010/05/13	11:47:21	NONE	HITACHI...	C	認証成功: 静脈認証に成功しました。Windowsへログオンします。(ログ...
2010/05/13	11:39:12	NONE	HITACHI...	C	認証成功: 静脈認証に成功しました。Windowsへログオンします。(ログ...
2010/05/13	11:37:57	HITACHI...	HITACHI...	M	初回時管理着登録 登録に成功しました。ログオン先(このコンピュ...
2010/05/12	17:03:32	HITACHI...	HITACHI...	M	終了時処理 正常に終了しました。(0000f616)
2010/05/12	17:01:01	NONE	HITACHI...	C	認証成功: 認証に成功しました。スクリーンロックを解除します。(ロ...
2010/05/12	16:10:51	HITACHI...	HITACHI...	M	起動時認証 ユーザー管理機能の起動時認証に成功しました。(0000f611)
2010/05/12	15:59:38	HITACHI...	HITACHI...	M	終了時処理 正常に終了しました。(0000f616)
2010/05/12	15:45:25	HITACHI...	HITACHI...	M	起動時認証 ユーザー管理機能の起動時認証に成功しました。(0000f611)
2010/05/12	15:45:07	NONE	HITACHI...	C	認証成功: 静脈認証に成功しました。Windowsへログオンします。(ログ...
2010/05/12	15:44:07	HITACHI...	HITACHI...	M	初回時管理着登録 登録に成功しました。ログオン先(このコンピュ...
2010/05/12	15:34:38	HITACHI...	HITACHI...	M	終了時処理 正常に終了しました。(0000f616)
2010/05/12	15:33:43	HITACHI...	HITACHI...	M	新規ユーザーの登録 ログオン失敗: ユーザー名を認識できなかつた...
2010/05/12	15:33:12	HITACHI...	HITACHI...	M	緊急用パスワード認証 ユーザー管理機能の起動時認証に成功しました...
2010/05/12	15:33:11	HITACHI...	HITACHI...	M	緊急用パスワード認証 緊急用パスワード認証に成功しました。(000...
2010/05/12	15:32:49	NONE	HITACHI...	C	認証成功: 緊急用パスワード認証に成功しました。
2010/05/12	15:32:46	NONE	HITACHI...	C	認証失敗: 緊急用パスワード認証に失敗しました。
2010/05/12	15:31:57	HITACHI...	HITACHI...	M	終了時処理 正常に終了しました。(0000f616)

パスワード代替入力のログ

[パスワード代替入力のログ]ではパスワード代替入力機能に関するログの一覧参照ができます。[日付、時刻、アカウント、コンピュータ、区分、ログ内容] の情報が表示されます。この情報を参照するには [ログ情報] 画面のメニューバーから[表示(V)] → [ログ選択(L)] → [パスワード代替入力のログ(P)]をクリックします。

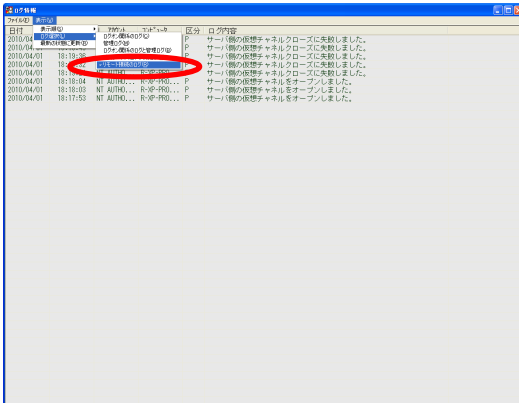
7.5



日付	時刻	アカウント	コンピュータ	区分	ログ内容
2010/05/13	15:11:51	P	認証成功:パスワード代替入力時認証に成功しました。(登録情報名:da...
2010/05/13	15:11:47	P	認証成功:パスワード代替入力時認証に成功しました。(登録情報名:da...
2010/05/13	15:11:42	HITACHI...	HITACHI...	P	認証成功:パスワード代替入力時認証に成功しました。(登録情報名:da...
2010/05/13	15:11:38	HITACHI...	HITACHI...	P	認証成功:パスワード代替入力時認証に成功しました。(登録情報名:da...
2010/05/13	15:11:34	HITACHI...	HITACHI...	P	認証成功:パスワード代替入力時認証に成功しました。(登録情報名:da...
2010/05/13	15:11:30	HITACHI...	HITACHI...	P	認証成功:パスワード代替入力時認証に成功しました。(登録情報名:da...
2010/05/13	15:11:25	HITACHI...	HITACHI...	P	認証成功:パスワード代替入力時認証に成功しました。(登録情報名:da...
2010/05/13	15:11:20	HITACHI...	HITACHI...	P	認証成功:パスワード代替入力時認証に成功しました。(登録情報名:da...
2010/05/13	15:11:13	HITACHI...	HITACHI...	P	認証成功:パスワード代替入力時認証に成功しました。(登録情報名:da...

リモート接続のログ

[リモート接続のログ]ではリモート接続に関するログの一覧参照ができます。[日付、時刻、アカウント、コンピュータ、区分、ログ内容]の情報が表示されます。この情報を参照するには、[ログ情報]画面のメニューバーから[表示(V)] → [ログ選択(L)] → [リモート接続のログ(R)]をクリックします。



7.6 テキスト形式での出力

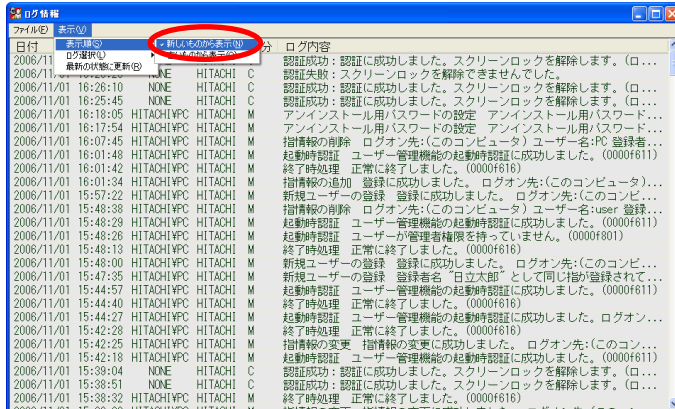
表示しているログ情報をテキストファイルに書き出すことができます。この機能を使用するには [ファイル(F)] → [テキスト形式で出力(S)] をクリックします。

7.7 その他の機能

・ 表示順の変更

一覧表示しているログを時系列に昇順、降順に並び替えることができます。

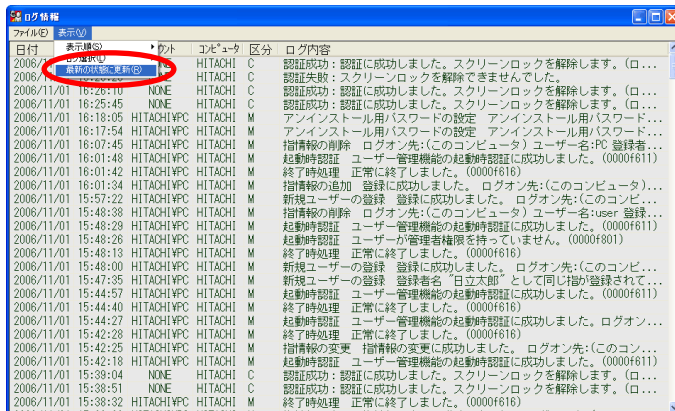
[表示(V)] → [表示順(S)] とクリックし、[新しいものから表示(N)] [古いものから表示(Q)] のどちらか希望する方をクリックします。



・ 最新の情報に更新

読み込み直し、最新のログを表示します。

[表示(V)] → [最新の状態に更新(R)] をクリックします。



8 緊急用パスワードの利用

認証装置の故障や認証装置が接続されていない場合等の理由で Windows に復帰できなかった場合やスクリーンセーバーのロック解除ができなくなった場合に、緊急用パスワードを用いてログオンすることができます。

8.1 Windows Vista /Server 2008 /7 /Server 2008 R2 のログオン・ロック解除の場合

緊急用パスワードは右の認証前の画面のいずれかが表示されている場合に利用できます。

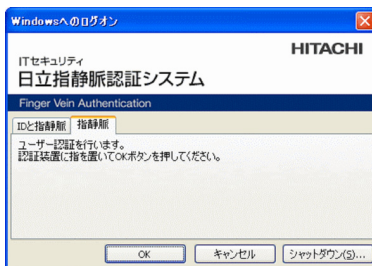


上記の場合に、[Ctrl] キーと [Alt] キーと [q] キーを同時に押すことによって、右の画面が表示されます。緊急用パスワードを入力します。

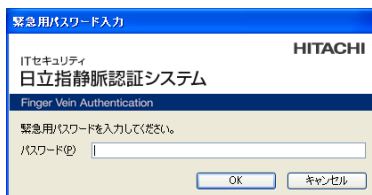
[] ボタンをクリックすると、Windows のユーザー名とパスワードの認証画面が表示されます。

8.2 ユーザー管理機能、またはWindows XP / Server 2003 のログオン・ロック解除の場合

緊急用パスワードは右の認証前の画面が表示されている場合に利用できます。



上記の場合に、[Ctrl] キーと [Alt] キーと [q] キーを同時に押すことによって、右の画面が表示されます。緊急用パスワードを入力します。



[OK] ボタンをクリックすると、ログオン、スクリーンセーバーのロック解除の場合は、Windows のユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。ユーザー管理機能の場合はユーザー管理機能が起動します。

重要

緊急用パスワードを用いてログオンした場合、ロック解除の画面は Windows 標準の認証方式になります。指静脈認証を用いてログオンした場合のみ、ロック解除画面で指静脈認証方式を利用できます。

8.3 パスワード代替入力機能の場合

[10.7 緊急用パスワードの利用] を参照してください。

9 Windowsパスワードの変更

Windows パスワードの変更に関する内容を記します。

重要

ユーザーのパスワード変更を Windows のコントロールパネルから行わないでください。必ず、本章「9 Windows パスワードの変更」から行ってください。

コントロールパネルからパスワードを変更した場合、指静脈認証ソフトウェアで管理しているパスワードと整合性が取れなくなりログオンできなくなります。

- ・ パスワードの長さに関して

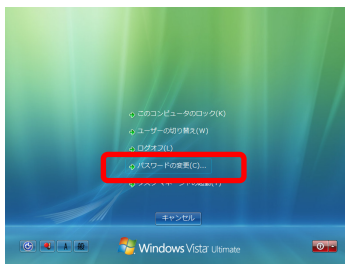
Windows ではパスワード 0 文字（パスワード無し）を許可していますが、本製品では許可していません。必ず 1 文字以上で登録してください。

パスワード入力は 255 文字まで入力できますが、入力文字数は 127 文字以下にしてください。128 文字以上入力した場合は、本書「6.3 指情報の変更」のパスワード確認でエラーになります。

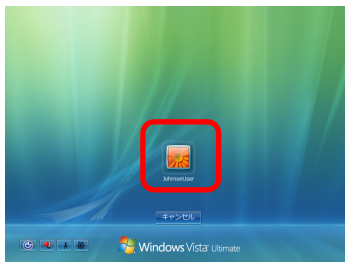
9.1 Windows Vista /Server 2008 /7 /Server 2008 R2 をお使いの場合

ユーザーのパスワードを変更する場合には [Ctrl] キーと [Alt] キーと [Del] キーを同時に押すことによって表示される右の画面からパスワードを変更します。

[パスワードの変更(C)] ボタンをクリックします。



お使いの環境によっては右の画面が表示される場合があります。この画面が表示された場合はユーザーを選択してクリックします。



以下の画面が表示されます。



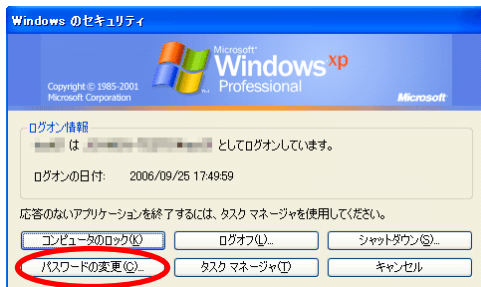
- ユーザー名・・・・・・ ログオンユーザーのユーザー名です。(1)
- 古いパスワード・・ 現在の Windows ログオン用のパスワードを入力します。
- 新しいパスワード・・ 新しい Windows ログオン用のパスワードを入力します。

- 1 Active Directory の環境下で動作している場合、ユーザー名をユーザープリンシパル名 (UPN) 形式での入力を行うことができます。ユーザー名にはまず UPN プレフィックスを入力します。続けて「@」が入力された時点で「ログオン先」のダイアログボックスが無効化されますので、UPN サフィックスの部分を入力します。

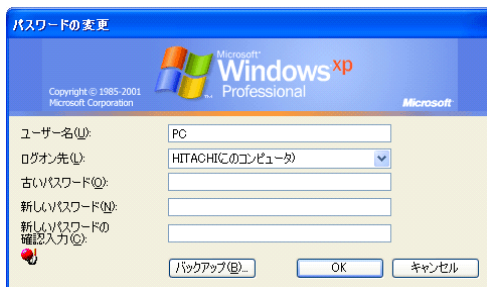
以上の情報を入力して [] ボタンをクリックすると、Windows ログオン用のパスワードを変更することができます。

9.2 Windows XP / Server 2003 をお使いの場合

ユーザーのパスワードを変更する場合には[Ctrl] キーと [Alt] キーと [Del] キーを同時に押すことによって表示される以下の画面からパスワードを変更します。



上の画面で [パスワードの変更(C)] ボタンをクリックすると、下図が表示されます。



- ユーザー名 ログオンユーザーのユーザー名です。(1)
- ログオン先 ログオンユーザーのログオン先です。
- 古いパスワード 現在の Windows ログオン用のパスワードを入力します。
- 新しいパスワード 新しい Windows ログオン用のパスワードを入力します。

- 1 Active Directory の環境下で動作している場合、ユーザー名をユーザープリンシパル名 (UPN) 形式での入力を行うことができます。ユーザー名にはまず UPN プレフィックスを入力します。続けて「@」が入力された時点で「ログオン先」のダイアログボックスが無効化されますので、UPN サフィックスの部分を入力します。

以上の情報を入力して [OK] ボタンをクリックすると、Windows ログオン用のパスワードを変更することができます。

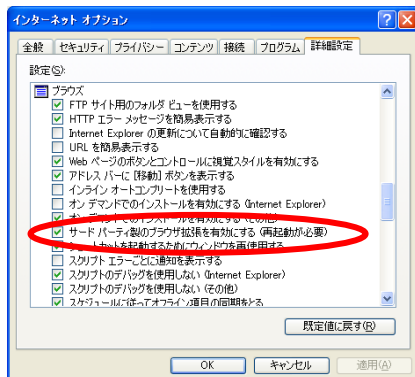
10 パスワード代替入力機能

各種アプリケーションや、Web ページのパスワード入力時に指静脈認証を用いて、ユーザー名とパスワードを自動的に入力することができます。

本機能を使用することにより、ユーザーの利便性を向上させることができます。

本機能を使用する前に以下の点をご確認ください。

- ・ 本機能を使用する指情報は認証方式を「1:1 認証を利用可能とする」に設定してください。(本書「6 ユーザー管理機能」参照)
- ・ 本機能を使用する指情報はユーザー名をユーザープリンシパル名 (UPN) 形式での登録を行わないでください。
- ・ Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合、ビルトインの Administrator ユーザーでログオンしているときには本機能を使用することができません。
- ・ Internet Explorer の設定で「サードパーティ製のブラウザ拡張を有効にする」を無効にしている場合は本機能を使用することができません。この設定を行う画面(下図)は Internet Explorer のメニューバーより[ツール(T)] [インターネットオプション(O)]を実行することで表示されます。



重要

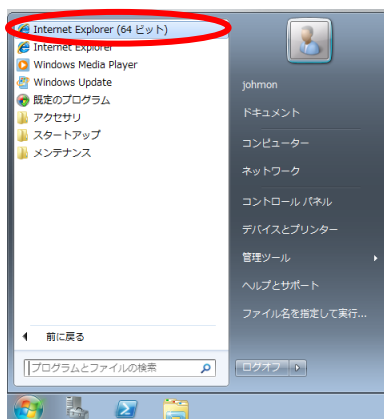
- ・ 最大 10 個のアプリケーションまた Web ページでパスワード代替入力機能を使用することができます。
- ・ タスクトレイのアイコンを右クリックした際に表示されるメニューの [登録情報のダウンロード(D)] は本製品では使用しません。
- ・ Web ページにおけるパスワード代替入力機能は Internet Explorer 6(SP1,SP2) / Internet Explorer 7 / Internet Explorer 8 にのみ対応しています。
- ・ 本機能を使用する前に指静脈を登録する必要があります。指静脈の登録は本書「6 ユーザー管理機能」を参照してください。
- ・ 下記のようなアプリケーションでは登録またはパスワード代替入力ができません。
 1. アクセスの度に URL が変化する Web アプリケーション
 2. 同名のボタンが存在する Web アプリケーション
 3. テキストボックスまたはボタンが ActiveX コントロールや Java アプレット等により作成されているアプリケーション
 4. ファイル単位でユーザーID やパスワードを入力するアプリケーション
 5. デフォルトでボタンが無効化されているアプリケーション
 6. Java アプリケーション、.NetFramework 上で動作するアプリケーション
 7. Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 において、ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしている環境で、権限を昇格して起動しているアプリケーション
 8. テキストボックスおよびボタンが画面の開始時に表示されないアプリケーション
- ・ 登録したアプリケーションの管理を行う[パスワード代替入力]画面を表示している場合は、パスワードの代替入力はできません。[パスワード代替入力]画面を終了してください。
- ・ 撮影中はお使いのパソコンをロック、ログオフ、シャットダウン、スリープ状態、休止状態、スタンバイ状態にしないでください。いずれかの状態からの復帰後に正しい認証が行われず、システムが不安定になる場合があります。
- ・ お使いのパソコンに、パスワードを自動入力する他のアプリケーションがインストールされている場合、競合が発生して正しく動作しないことがあります。

また、その他のアプリケーションに関しても、環境等によって登録またはパスワード代替入力できない場合があります。

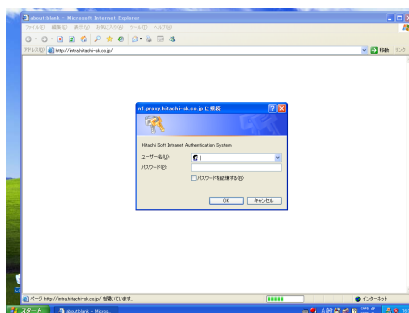
10.1 アプリケーションの登録


重要

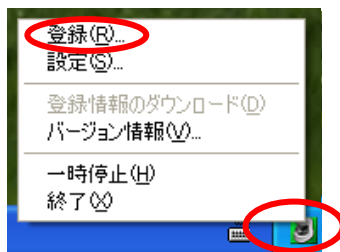
- Web アプリケーションを登録する場合は、Internet Explorer の「拡大レベル」の設定を「100%」以外に設定しないでください。登録が正しく行えない場合があります。
- 64 ビット OS をお使いの場合は、Web アプリケーションの登録は 64 ビット版の Internet Explorer で行ってください。32 ビット版の Internet Explorer では Web アプリケーションの登録を行うことができません。
64 ビット版の Internet Explorer はスタートメニューから実行することができます。



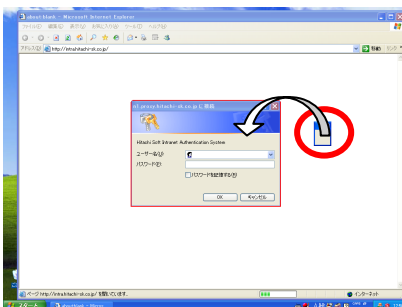
パスワード代替入力を行いたい
ユーザーID パスワードを入力す
る画面を表示します。



タスクトレイからパスワード代替入力機能のアイコンを選択し、右クリックで[登録(R)]を選択します。
(お使いのパソコンの状態によってはアイコンが表示されない場合があります。アイコンが表示されていない場合は、13 トラブルシューティングを参照してください)

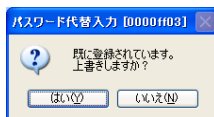


ウィンドウを選択するためのアイコンが表示されます。ウィンドウの選択アイコンをドラッグし、登録したい画面にドロップします。(ドラッグすると選択された画面は赤枠で囲われます。)

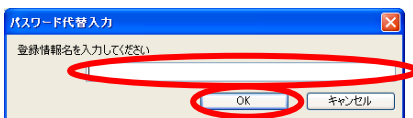


重要

アプリケーション、画面、ウィンドウタイトルの全てが同じ画面に対して、複数の登録はできません。ウィンドウを選択する際に、既に登録されているアプリケーションの画面を選択した場合、以下の警告メッセージが表示されます。

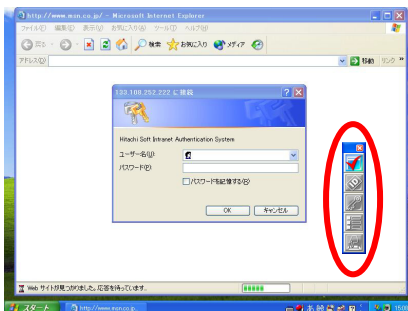


登録情報名の入力画面が表示されます。任意の登録情報名を入力して、[OK] ボタンをクリックします。



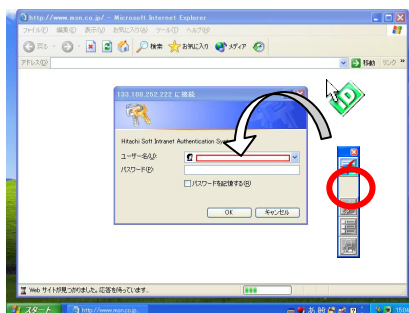
登録情報名は他の登録情報名と重ならないようにしてください。

ユーザーID、パスワード項目選択アイコンが表示されます。

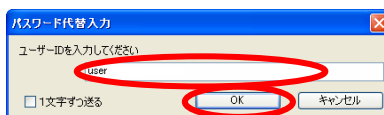


- : ユーザーID 入力項目選択アイコン
ユーザーID を入力するテキストボックスを選択します。
- : パスワード入力項目選択アイコン
パスワードを入力するテキストボックスを選択します。
- : その他入力項目選択アイコン
その他入力項目を入力するテキストボックスを選択します。
- : 実行ボタン選択アイコン
実行ボタンを選択します。

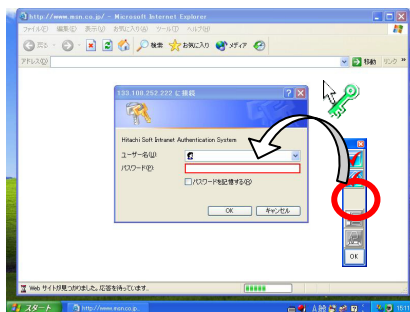
ユーザーID 入力項目選択アイコンをドラッグし、ユーザーID を入力するテキストボックスにドロップします。(ドラッグすると選択されたテキストボックスは赤枠で囲われます。)



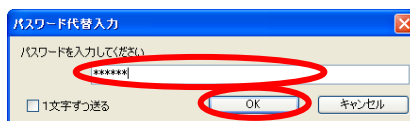
ユーザーID の入力画面が表示されますので、ユーザーID を入力し、[OK] ボタンをクリックします。[1 文字ずつ送る] チェックボックスに関しては、「10.8 詳細設定」を参照してください。



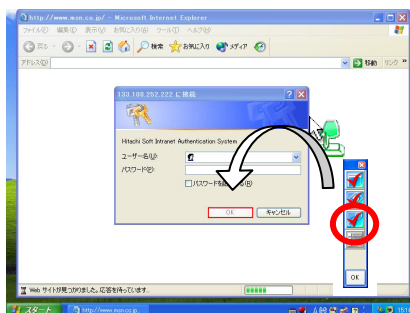
パスワード入力項目選択アイコンをドラッグし、パスワードを入力するテキストボックスにドロップします。(ドラッグすると選択されたテキストボックスは赤枠で囲われます。)



パスワードの入力画面が表示されますので、パスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。[1 文字ずつ送る] チェックボックスに関しては、「10.8 詳細設定」を参照してください。



実行ボタン選択アイコンをドラッグし、実行ボタンに、ドロップします。(ドラッグすると選択されたボタンは赤枠で囲われます。)



パスワード代替入力が必要な項目を選択し終わったら、パスワード代替入力機能の[OK] ボタンをクリックします。



設定した項目が表示されますので、間違いがなければ、[保存(S)] ボタンをクリックします。

パラメタ名	値
ユーザーID	user
パスワード	*****

変更(C) 削除(D) ↑(U) ↓(D)

表示された順序で処理を行います。
表示順から順序を変更することができます。

高度な設定(H)...

認証方式を選択してください

☒ 指静脈認証を必要とする

☐ 指静脈認証を必要としない(オートログイン)

再選択(S) テスト(T) **保存(S)** キャンセル

重要

- 一部のWeb アプリケーションにおいて、ボタンが登録できない場合でも、パスワード代替入力可能な場合があります。登録時にテスト機能を用いて動作を確認することをお勧めします。
- 認証方式を変更することによりパスワード代替入力時に指静脈認証を必要としない(オートログイン)設定とすることが可能です。ただし、この設定を適用した場合、パスワード入力も静脈認証も行わず自動でログインするため、セキュリティが弱まってしまう可能性があります。この機能は注意して使用してください。
- 一部のWeb アプリケーションにおいて、登録時にテスト機能で成功しても、認証時にパスワード代替入力できない場合があります。

修正する場合は、修正したい項目を選択して修正します。

値

項目を選択しダブルクリックすると、それぞれの項目の登録画面が表示されます。

認証方式の選択

パスワード代替入力の際に、指静脈での認証を行うかを選択します。

テスト

修正した値で正しく動作するかテストするために使用します。テストをする場合は、予め入力する画面を表示しておいてください。

パラメタ名	値
ユーザーID	user
パスワード	*****

その他の項目に関しては「10.8 詳細設定」にて説明します。

重要

- ・ テストをする際には、入力する画面以外の画面を予め終了させておいてください。入力する画面以外の画面が表示されている場合、テストが正しく動作しない可能性があります。
- ・ 64 ビット OS をお使いの場合は、Web アプリケーションのテストは登録と同様に、64 ビット版の Internet Explorer で行ってください。32 ビット版の Internet Explorer では Web アプリケーションのテストを行うことができません。

修正が終了したら、[保存(S)] ボタンをクリックします。

パスワード代替入力 - [LOGON] のパラメタ設定

[LOGON] のパラメタ設定

ログインする際に代替入力する情報を入力してください

パラメタ名	値
ユーザID	USER
パスワード	*****

変更(C)... 削除(D) ↑(U) ↓(D)

表示された順序で処理を行います。
矢印ボタンで順序を変更することができます。 高度な設定(H)...

認証方式を選択してください

☒ 指静脈認証を必要とする

☐ 指静脈認証を必要としない(オートログイン)

再選択(R) ラスト(L) **保存(S)** キャンセル

[終了(X)] ボタンをクリックして、修正を終了します。


パスワード代替入力

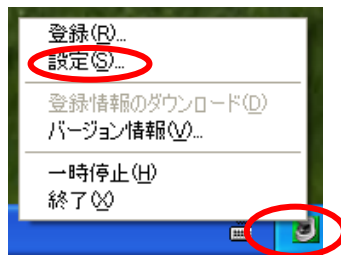
登録情報の一覧 ☐ 登録情報変更時に指静脈認証が必要

登録情報名	ログイン情報
LOGON	指静脈認証

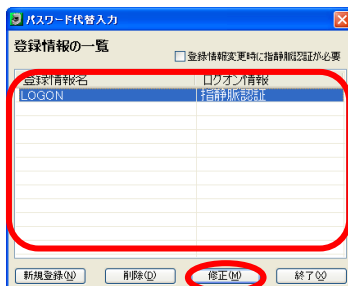
新規登録(N) 削除(D) 修正(M) **終了(X)**

10.2 登録アプリケーション情報の修正

タスクトレイからパスワード代替入力機能のアイコンを選択し、右クリックで[設定(S)]を選択します。
(お使いのパソコンの状態によってはアイコンが表示されない場合があります。アイコンが表示されていない場合は、13 トラブルシューティングを参照してください)



登録情報の一覧が表示されます。修正したい登録情報名を選択して、[修正(M)]ボタンをクリックします。



修正画面が表示されます。修正が必要な項目を選択して修正します。

値

項目を選択しダブルクリックすると、それぞれの項目の登録画面が表示されます。

認証方式の選択

パスワード代替入力の際に、指静脈での認証を行うかを選択します。

テスト

修正した値で正しく動作するかテストするために使用します。テストをする場合は、予め入力する画面を表示しておいてください。

パスワード代替入力 - [LOGON] のパラメタ設定

[LOGON] のパラメタ設定

ログインする際に代替入力する情報を入力してください

パラメタ名	値
ユーザーID	user
パスワード	*****

表示された欄で編集を行います。
矢印の方向で欄を変更することができます。 [高度な設定(H)...]

認証方式を選択してください

☐ 指静脈認証を必要とする

☐ 指静脈認証を必要としない(オートログイン)

[再選択(R)] [テスト(T)] [保存(S)] [キャンセル]

その他の項目に関しては「10.8 詳細設定」にて説明します。

重要

- ・ テストをする際には、入力する画面以外の画面を予め終了させておいてください。入力する画面以外の画面が表示されている場合、テストが正しく動作しない可能性があります。
- ・ 64 ビット OS をお使いの場合は、Web アプリケーションのテストは登録と同様に、64 ビット版の Internet Explorer で行ってください。32 ビット版の Internet Explorer では Web アプリケーションのテストを行うことができません。

修正が終了したら、[保存(S)] ボタンをクリックします。

パスワード代替入力 - [LOGON] のパラメタ設定

[LOGON] のパラメタ設定

ログインする際に代替入力する情報を入力してください

パラメタ名	値
ユーザーID	user
パスワード	*****

変更(O) 削除(D) ↑(U) ↓(D)

表示された欄で編集を行います。
矢印の方向で欄を変更することができます。 [高度な設定(H)...]

認証方式を選択してください

☐ 指静脈認証を必要とする

☐ 指静脈認証を必要としない(オートログイン)

[再選択(R)] [テスト(T)] [保存(S)] [キャンセル]

[終了(X)] ボタンをクリックして、修正を終了します。

登録情報名	ログイン情報
LOGON	指静脈認証

新規登録(N) 削除(D) 修正(M) **終了(X)**

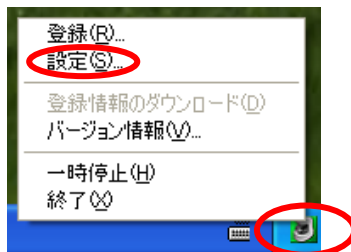
10.3 登録アプリケーションの削除

タスクトレイからパスワード代替入力機能

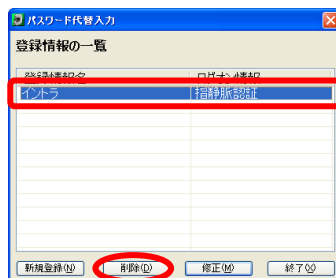
のアイコンを選択し、右クリックで[設定]

を選択します。

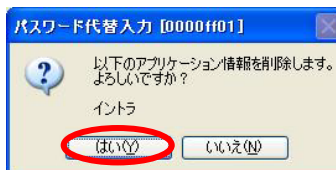
(お使いのパソコンの状態によってはアイコンが表示されない場合があります。アイコンが表示されていない場合は、13 トラブルシューティングを参照してください)



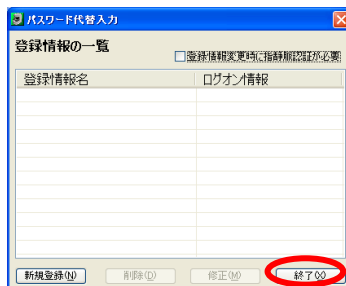
削除したい登録情報名を選択して、[削除(D)] ボタンをクリックします。



削除を確認する画面が表示されます。削除する場合は、[はい(Y)] ボタンをクリックします。




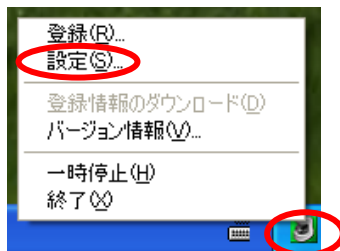
[終了(X)] ボタンをクリックして、削除を完了します。



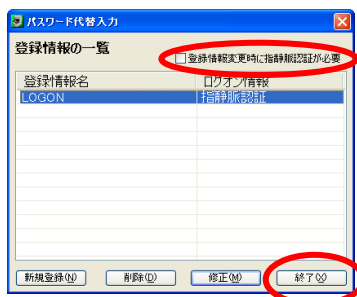
10.4 登録情報変更時の指静脈認証

登録情報の変更を行う際に、指静脈認証に成功しないと変更を行うことができないように設定できます。本機能を有効にすると、[登録] 機能 と [設定] 機能 を実行する際に認証が行われます。

タスクトレイからパスワード代替入力機能のアイコンを選択し、右クリックで[設定(S)]を選択します。
(お使いのパソコンの状態によってはアイコンが表示されない場合があります。アイコンが表示されていない場合は、13 トラブルシューティングを参照してください)



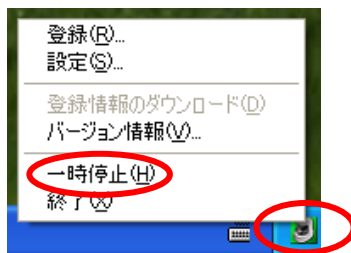
登録情報の一覧が表示されます。[登録情報変更時に指静脈認証が必要] チェックボックスをチェックし、[終了(X)] ボタンをクリックします。



10.5 パスワード代替入力機能の一時停止

パスワード代替入力機能を一時停止する場合は、タスクトレイからパスワード代替入力機能のアイコン

を選択し、右クリックで[一時停止(H)]を選択します。(お使いのパソコンの状態によってはアイコンが表示されない場合があります。アイコンが表示されていない場合は、13 トラブルシューティングを参照してください)

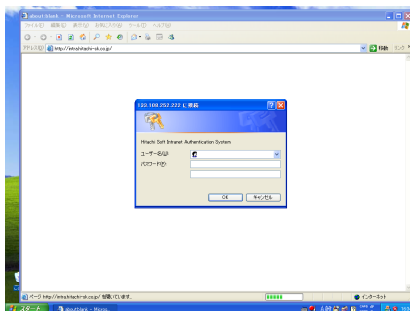


一時停止されるとアイコンは のように変化します。

また、パスワード代替入力機能を再開する場合は[再開(H)]を選択します。

10.6 登録アプリケーションの認証

パスワード代替入力機能に登録したアプリケーションを起動します。



認証画面が表示されますので登録した指を置きます。
登録時に指静脈認証を必要としない設定となっている場合、右の画面は表示されません。



認証に成功すれば、アプリケーションが立ち上がります。

重要

- ・ 認証時にパスワード代替入力機能に登録されている複数のアプリケーションを同時に立ち上げないでください。
- ・ 認証に失敗した場合、最大 4 回までリトライが行われます。5 回連続で失敗した場合は、それ以上のリトライは行われません。

10.7 緊急用パスワードの利用

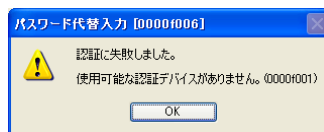
[10.4 登録情報変更時の指静脈認証] 機能を有効にした場合に、[登録] 機能と [設定] 機能を実行する際に認証が行われます。認証装置の故障や認証装置が接続されていない場合等の理由で上記の機能が実行できない場合に、緊急用パスワードを用いて認証を行うことができます。

[登録] 機能もしくは [設定] 機能を実行すると、撮影画面が表示されます。

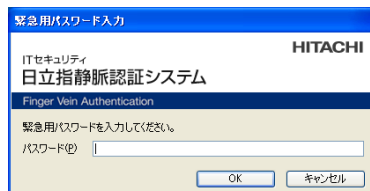
認証装置が接続されていない場合や認識されていない場合などは、右の画面が表示されません。その場合は、次の手順に進みます。



エラーが発生すると、右の画面が表示されます。エラーの内容は、発生したエラーにより変わります。



上記の場合に、[Ctrl] キーと [Alt] キーと [q] キーを同時に押すことによって、右の画面が表示されます。緊急用パスワードを入力します。



[OK] ボタンをクリックすると、[登録] 機能もしくは [設定] 機能が起動します。

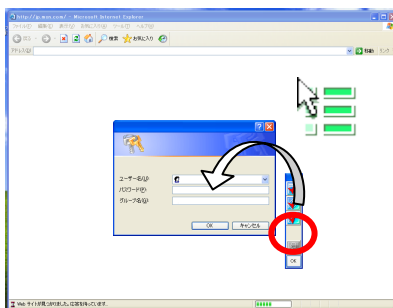
10.8 詳細設定

「10.1 アプリケーションの登録」の手順で登録したアプリケーションが代替入力できない場合は、本節の詳細設定を行うことで代替入力ができるようになります場合があります。以下の設定を行うことができます。

#	設定		説明
1.	その他入力項目	テキスト	ユーザーID、パスワード以外のテキストボックスがある場合に、追加できます
2.		キーイベント	キーイベントを代替入力できます
3.		フォーカス	フォーカスを当てることができます
4.	1文字ずつ送る		代替入力する文字を1文字ずつキーコードに変換して送出します
5.	代替入力の順序		代替入力を行う順序を変更することができます
6.	高度な設定		フックするウィンドウメッセージやアプリケーションのパスを設定することができます

・その他入力項目

「10.1 アプリケーションの登録」の登録中に設定を行うことができます。その他入力項目選択アイコンをドラッグし、その他入力項目もしくはキーイベントを入力するテキストボックスにドロップします。本手順では、ユーザーID、パスワードと合わせて、最大 20 個まで登録を行うことができます。



その他入力項目の入力画面が表示されます。次の画面右上のコンボボックスから、入力する項目を選択します。

- ・テキスト入力の場合

本手順はユーザーID とパスワード以外のテキストボックスが存在する場合に使用します。

#	項目	内容
	パラメタ名	管理用の名前を入力します
	値	代替入力するテキストを入力します

[1 文字ずつ送る] チェックボックスについては後述します。

- ・キーイベント入力の場合

アプリケーションの中には、ユーザーID やパスワードの入力を行った後、あるキーを押下することで入力の確定を行うアプリケーションが存在します。

例えば以下の図のように、[user] というユーザーID を入力しただけでは確定されていないアプリケーションを登録する場合を例に説明します。

入力後、Tab キーを押下することで、下図のように入力が確定されるとします。

このようなアプリケーションの場合は、登録した情報を代替入力した後に、テキストボックスに対して、Tab キーが押下されたことを知らせる必要があります。この場合はキーイベント入力を使用します。

パスワード代替入力

キーイベント

パラメタ名を入力してください。
また、キーテキストを選択し、登録するキーを押下してください。

パラメタ名 user_Tabキーイベント

キー Tab

クリア OK キャンセル

#	項目	内容
	パラメタ名	管理用の名前を入力します
	キー	代替入力するキーを押下します

・フォーカス入力の場合

指定したコントロールにフォーカスを当てたい場合に使用します。アプリケーションの中には、入力前にフォーカスを当てることが必要なアプリケーションがあります。また、前回認証時の入力値が初期表示されている場合に、代替入力が失敗する場合などに設定を行うと成功する場合があります。

パスワード代替入力

フォーカス

パラメタ名を入力してください。

パラメタ名 user_focus

OK キャンセル

#	項目	内容
	パラメタ名	管理用の名前を入力します

以上の手順でその他入力情報の登録を行います。このようなテキストボックスが複数存在する場合は、本手順を繰り返し行います。

- ・ **1文字ずつ送る**

「10.1 アプリケーションの登録」の手順や、前述のテキスト入力で設定することができます。

The image shows three instances of the 'パスワード代替入力' (Password Alternative Input) dialog box. Each instance has a checkbox labeled '1文字ずつ送る' (Send one character at a time) which is circled in red. The first instance is for 'ユーザーID' (User ID) input. The second is for 'パスワード' (Password) input. The third is for 'パラメータ名と値' (Parameter Name and Value) input, showing 'グループ名' (Group Name) as the parameter name and 'user_group1' as the value.

#	項目	内容
	1文字ずつ送る	1文字ずつキーコードに変換して送出します

登録したアプリケーションの代替入力に失敗する場合にチェックを入れると、代替入力に成功する場合があります。

- ・ **代替入力の順序**

パラメタ設定画面において、順序を変更したい項目を選択し、[(U)] ボタン [(L)] ボタンを押下することで、代替入力の順番を入れ替えることができます。代替入力はリストビューに表示されている項目の上から順番に実行されます。

パスワード代替入力 - [Logon] のパラメタ設定

[Logon] のパラメタ設定

ログオンする際に代替入力する情報を入力してください

パラメタ名	値
ユーザーID	user
パスワード	*****
ユーザーIDのキーイベント	Tab
パスワードのキーイベント	Tab


表示された順序で処理を行います。
矢印ボタンで順序を変更することができます。

認証方式を選択してください

☒ 指静脈認証を必要とする
☐ 指静脈認証を必要としない(ゲートログオン)

#	項目	内容
		選択したパラメタの順序を 1 つ上に移動します
		選択したパラメタの順序を 1 つ下に移動します

本節の [その他入力項目] で挙げた例を用いて説明します。例では、テキストボックス入力後に Tab キーを押下することで入力が確定します。そのため、ユーザーID とパスワードのそれぞれのテキストボックスに対して Tab キー押下を登録する必要があります。登録した結果が下図のようになったとします。この場合、[ユーザーID のキーイベント] の順序を、ユーザーID 入力後に行うように順序を変更する必要があります。



パラメタ名	値
ユーザーID	user
パスワード	*****
ユーザーIDのキーイベント	Tab
パスワードのキーイベント	Tab

この場合、[ユーザーIDのキーイベント] を選択し、[(U)] ボタンをクリックします。

パスワード代替入力 - [Logon] のパラメタ設定

[Logon] のパラメタ設定

ログオンする際に代替入力する情報を入力してください

パラメタ名	値
ユーザーID	user
パスワード	*****
ユーザーIDのキーイベント	Tab
パスワードのキーイベント	Tab

表示された順序で処理を行います。
矢印ボタンで順序を変更することができます。

認証方式を選択してください

☒ 指静脈認証を必要とする

☐ 指静脈認証を必要としない(オートログオン)

再選択(R) テスト(T) 保存(S) キャンセル

以下のように順序が変更されます。変更後、[保存(S)] ボタンをクリックします。

パラメタ名	値
ユーザーID	user
ユーザーIDのキーイベント	Tab
パスワード	*****
パスワードのキーイベント	Tab

・高度な設定

高度な設定を行うには、パラメタ設定画面で[高度な設定(H)...] ボタンをクリックします。

パスワード代替入力 - [Logon] のパラメタ設定

[Logon] のパラメタ設定

ログオンする際に代替入力する情報を入力してください

パラメタ名	値
ユーザーID	user
パスワード	*****
ユーザーIDのキーイベント	Tab
パスワードのキーイベント	Tab

表示された順序で処理を行います。
矢印ボタンで順序を変更することができます。

認証方式を選択してください

☒ 指静脈認証を必要とする

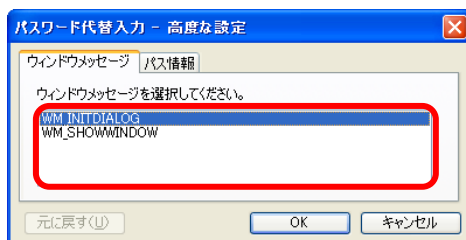
☐ 指静脈認証を必要としない(オートログオン)

再選択(R) テスト(T) 保存(S) キャンセル

高度な設定では、以下の項目に関して設定を変更することができます。

#	項目	説明	
1	ウィンドウメッセージ	代替入力のかきかけとなるウィンドウメッセージを変更することができます	
2	パス情報	アプリケーション	アプリケーションのパスを変更することができます
		Web ページ	Web ページの URL を変更することができます

・ ウィンドウメッセージ



#	メッセージ	説明
	WM_INITDIALOG (デフォルト)	ダイアログボックスが表示される前にダイアログプロシージャに送られる
	WM_SHOWWINDOW	ウィンドウが表示もしくは非表示になるときに送られる

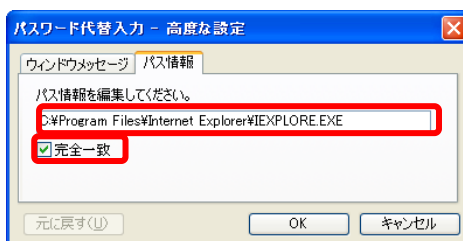
ウィンドウメッセージの設定を変更したい場合は [ウィンドウメッセージ] タブをクリックします。設定後、[OK] ボタンをクリックします。

代替入力を行うアプリケーションの監視を行うウィンドウメッセージを選択します。初期設定では [WM_INITDIALOG] メッセージを監視するようになっています。また、Web ページに関してはウィンドウメッセージの設定を行うことができません。以下のウィンドウメッセージを選択できます。

#	項目	種類	説明
1	パス情報	アプリケーション	アプリケーションのパスを指定します
		Web ページ	URL を指定します

・ パス情報

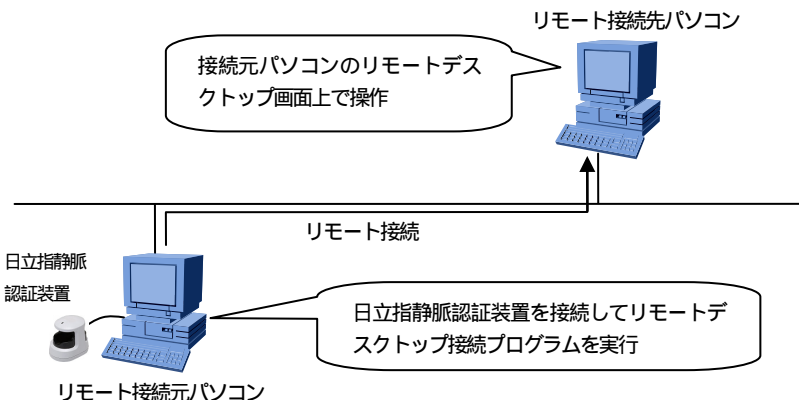
パスワード代替入力機能では、登録したアプリケーションや Web ページをパスや URL 情報を用いて検索します。アプリケーションのインストールフォルダを変更した場合や HP の URL がアクセスごとに変更される場合など、変更を行うことで代替入力が可能になる場合があります。



#	項目	説明	
	パス情報	アプリケーション	アプリケーションのパス
		Web ページ	Web ページの URL
	完全一致	チェックを入れる	登録したアプリケーションや Web ページのパス情報を完全一致で検索します
		チェックを外す	以下のようにパス情報を検索します アプリケーション：後方一致 Web ページ：前方一致

11 リモートデスクトップ環境で使用するための設定

本製品がインストールされているパソコンへリモート接続して、本製品の各機能を使用することができます。また、リモートログオンの認証を指静脈認証方式で行うことができます。



リモートデスクトップ環境で本製品を使用するためには、リモート接続先/パソコンと、リモート接続元/パソコンとで、それぞれ設定を行う必要があります。設定は以下の手順で行ってください。

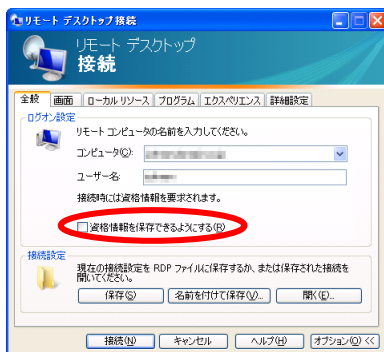
1. リモート接続元/パソコンに本製品をインストールします
 2. リモート接続元/パソコンで必要な設定を行います(ユーザーごとに実施)
 3. リモート接続先/パソコンに本製品をインストールします
 4. リモート接続先/パソコンで初回時管理者登録を行います
 5. リモート接続先/パソコンで必要な設定を行います
 6. リモート接続先/パソコンでリモートログオンの設定を行います()
- リモートログオン時認証を指静脈で行いたい場合にのみ実施してください

なお、上記手順 3～6 については、リモート接続元/パソコンからリモートログオンした状態で行うことができます。ただし、リモート接続先/パソコンで Windows XP / Server 2003 をお使いの場合は、途中でリモート接続先/パソコンを再起動する必要があるため、ご注意ください。

上記の各手順について以下で説明します。

重要

- ・ リモート接続した状態で更に別のパソコンへリモート接続した場合、指静脈認証や指情報の登録が正しく行えなくなりますのでご注意ください。
- ・ リモートデスクトップ接続プログラムを実行する際には、必ず「資格情報を保存できるようにする」チェックボックスをオフにしてください。このチェックボックスをオンにした場合、リモートログオンに失敗する可能性があります。



- ・ リモートデスクトップ環境において指静脈認証や指情報の登録を行っている途中で、リモート接続を終了しないでください。指静脈認証ソフトウェアの動作が不安定になり、パソコンの再起動が必要になる可能性があります。
- ・ リモートデスクトップ環境において指静脈認証や指情報の登録を行っている途中で、指静脈認証ソフトウェアが異常終了した場合、指静脈認証ソフトウェアを再起動しても指静脈認証や指情報の登録が行えなくなる場合があります。その場合は、一度リモートデスクトップ接続プログラムを終了し、再度リモートデスクトップ接続プログラムを実行してください。
- ・ リモート接続先にインストールする本製品と、リモート接続元にインストールする本製品とは、必ずバージョンを合わせてください。本製品のバージョンが異なる場合、認証装置が正しく動作しない可能性があります。

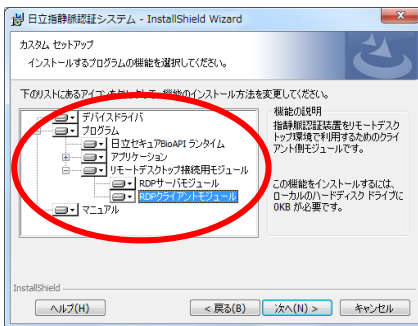
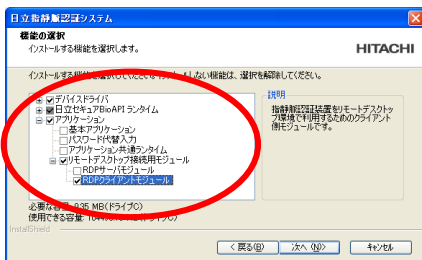
11.1 リモート接続元パソコンに本製品をインストール

リモート接続元パソコンに本製品をインストールします。既にインストールされている場合は、本手順は不要です。

インストールの方法は、[2 ソフトウェアのインストール]を参照してください。

インストールの途中、セットアップのタイプを選択する画面で「カスタム」を選択した場合は、インストールするソフトウェアを選択することができますが、その場合は少なくとも以下のソフトウェアを選択してください。

- ・ デバイスドライバ
- ・ 日立セキュア BioAPI ランタイム
- ・ RDP クライアントモジュール



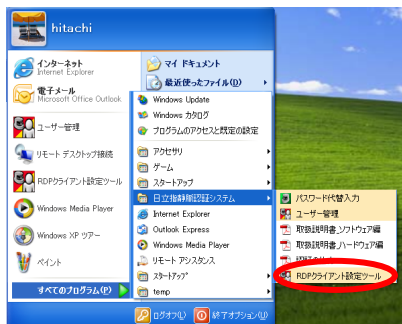
11.2 リモート接続元パソコンで必要な設定

リモート接続元パソコンで必要な設定を行います。以下の手順を実行してください。

重要

- リモート接続元パソコンでの設定は、リモート接続を行うユーザーごとに実行する必要があります。あるユーザーで設定を行った後でも、別のユーザーでログインしてリモート接続を行う場合には、再度設定を行ってください。

[スタート] [日立指静脈認証システム]
[RDP クライアント設定ツール]をクリックします。

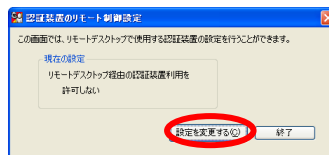


重要

- RDP クライアント設定ツールを実行する際に、「別のユーザーとして実行」や「管理者として実行」などは用いないでください。それらを用いて実行した場合、設定が正しく行われない可能性があります。

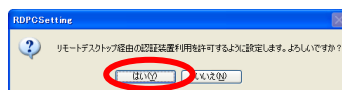
右の設定画面が表示されます。

[現在の設定]が[リモートデスクトップ経由の
認証装置利用を許可する]であった場合は、
そのまま[終了]をクリックして終了します。

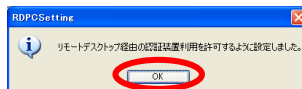


[現在の設定]が[リモートデスクトップ経由の認証装置利用を許可しない]であっ
た場合は、[設定を変更する(C)]をクリックします。

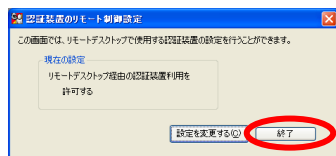
メッセージを確認し、[はい(Y)]をクリックします。



メッセージを確認し、[OK]をクリックします。



設定画面が再度表示されます。[現在の設定]がリモートデスクトップ経由の認証装置利用を許可する]に変更されていることを確認し、[終了]をクリックして終了します。



重要

- RDP クライアント設定ツールで設定を変更した後は、必ず一度リモートデスクトップ接続プログラムを終了してください。リモートデスクトップ接続プログラムを終了しない場合、設定の変更が反映されません。

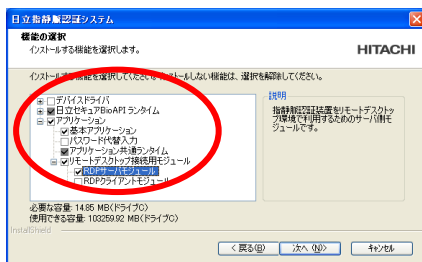
11.3 リモート接続先パソコンに本製品をインストール

リモート接続先パソコンに本製品をインストールします。既にインストールされている場合は、本手順は不要です。

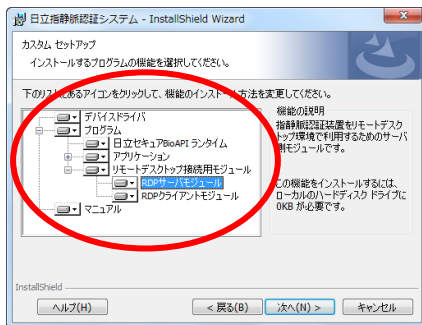
インストールの方法は、[2 ソフトウェアのインストール]を参照してください。

インストールの途中、セットアップのタイプを選択する画面で「カスタム」を選択した場合は、インストールするソフトウェアを選択することができますが、その場合は少なくとも以下のソフトウェアを選択してください。

- 32 ビット OS をお使いの場合
 - 日立セキュア BioAPI ランタイム
 - RDP サーバモジュール
 - アプリケーション共通ランタイム
 - 基本アプリケーション

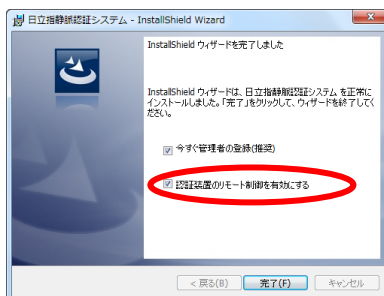
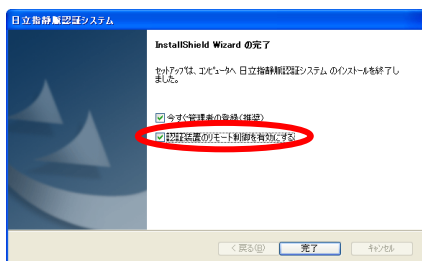


- 64 ビット OS をお使いの場合
 - 日立セキュア BioAPI ランタイム
 - RDP サーバモジュール
 - Windows ログオン、パスワード代替入力のいずれか、または両方 (実際にお使いになるアプリケーションを選択してください)



ただし、[11.4 リモート接続先パソコンで初回時管理者登録を実行]をリモートログオンした状態で行わない場合(ローカルログオンした状態でいう場合)は、上記のソフトウェアに加えて、「デバイスドライバ」も選択してください。

また、インストールの完了画面で[認証装置のリモート制御を有効にする]をチェックしてから[完了]をクリックして終了した場合、リモート接続先パソコンで必要な設定が自動的に行われます。その場合は、[11.5 リモート接続先パソコンで必要な設定]を行う必要はありません。



11.4 リモート接続先パソコンで初回時管理者登録を実行

リモート接続先パソコンで初回時管理者登録を行います。既に登録済みの場合は、本手順は不要です。

初回時管理者登録の方法は、[3 初回時管理者登録]を参照してください。

重要

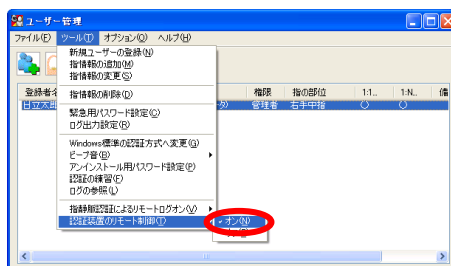
- Windows XP / Server 2003 をお使いの場合は、初回時管理者登録の後に、リモート接続先パソコンを再起動する必要がありますので注意してください。

11.5 リモート接続先パソコンで必要な設定

リモート接続先パソコンで必要な設定を行います。以下の手順を実行してください。

[6 ユーザー管理機能]の手順に従い、ユーザー管理機能を起動します。

[ユーザー管理] 画面のメニューバーから[ツール (T)] → [認証装置のリモート制御(I)] [オン(N)]をクリックします。



11.6 リモート接続先パソコンで行うリモートログオン設定

リモートログオン時の認証を指静脈認証方式に変更するための設定を行います。また、リモートログオン時の認証を Windows 標準の認証方式に戻すこともできます。

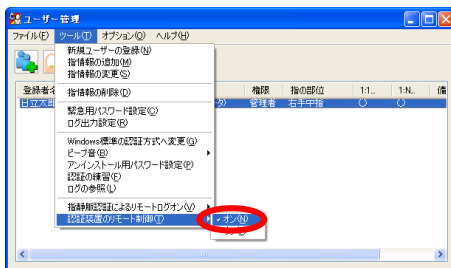
リモートログオン時の認証を指静脈認証方式にする必要がない場合は、本手順は不要です。

この設定はリモート接続先パソコンで実行します。以下の手順を実行してください。

- リモートログオン時の認証を指静脈認証方式に変更する場合

[6 ユーザー管理機能]の手順に従い、ユーザー管理機能を起動します。

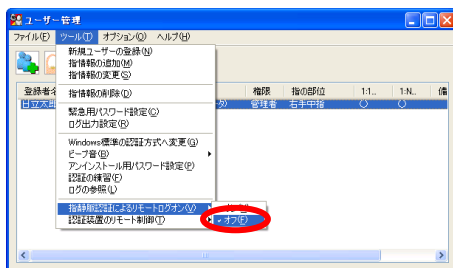
「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール (T)] → [指静脈認証によるリモートログオン(V)] [オン(N)]をクリックします。



- リモートログオン時の認証を Windows 標準の認証方式に戻す場合

[6 ユーザー管理機能]の手順に従い、ユーザー管理機能を起動します。

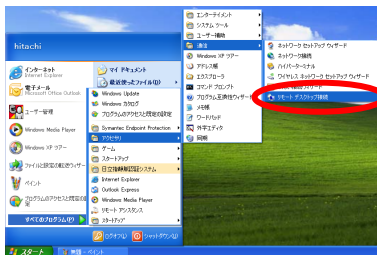
「ユーザー管理」画面のメニューバーから[ツール (T)] → [指静脈認証によるリモートログオン(V)] [オフ(E)]をクリックします。



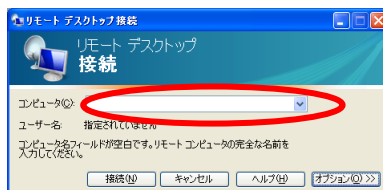
11.7 リモートログオンの実行

これまでに説明した設定を行った上でリモート接続を行うと、指静脈認証によるリモートログオンを行うことができます。以下に、指静脈認証によるリモートログオンの手順を示します。

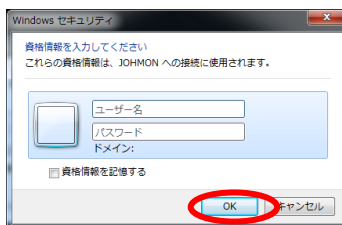
リモート接続元/パソコンで、Windowsに付属のリモートデスクトップ接続プログラムを起動します。



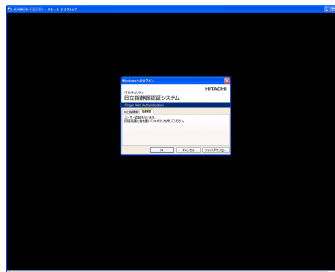
リモート接続先パソコンのコンピュータ名を入力し、[接続(N)]をクリックします。



お使いのリモートデスクトップ接続プログラムのバージョンや設定によっては、右のような画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力して[OK]をクリックします。



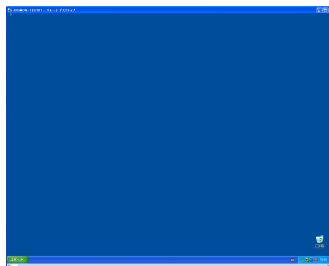
指静脈認証によるログオン画面が表示されます。[5 認証機能]と同様の手順で指静脈認証によるログオンを実行します。



重要

- ・ リモートログオンでも緊急用パスワードを利用することができます。ただし [8.1 Windows Vista /Server 2008 /7 /Server 2008 R2 のログオン・ロック解除の場合] および[8.2 ユーザー管理機能、または Windows XP / Server 2003 のログオン・ロック解除の場合]とは異なり、リモートログオンの場合は、緊急用パスワードを用いた場合でも、ロック解除画面は指静脈認証方式になります。
- ・ リモート接続先/パソコンによっては、複数のリモート接続元パソコンから同一のログオンアカウントでリモートログオンを行うことができますが、同一のログオンアカウントで複数のリモートログオンを行っている場合は、パスワード代替入力機能を利用する際に、アプリケーションの登録や、登録アプリケーション情報の修正、登録アプリケーションの削除を行わないでください。それらの操作結果が正しく反映されません。

ログオンに成功するとリモートデスクトップの画面が表示されます。



12 ソフトウェア仕様

適応 パソコン	機種	PC/AT 互換機
	CPU	600MHz 以上 ⁵
	メモリ	128MB 以上 ⁵
	HDD	空き容量：50MB 以上 ¹
	インター フェース	USB2.0/1.1 ⁴
対応 OS		<p>[32 ビット OS]</p> <p>Windows XP Home Edition / Professional (SP3)</p> <p>Windows Server 2003 Standard Edition / Enterprise Edition (SP2)</p> <p>Windows Server 2003 R2, Standard Edition / Enterprise Edition (SP2)</p> <p>Windows Vista Ultimate / Enterprise / Business / Home Premium / Home Basic (SP2)</p> <p>Windows Server 2008 Standard / Enterprise (SP2)</p> <p>Windows 7 Ultimate / Enterprise / Professional / Home Premium / Starter (SP1)</p> <p>[64 ビット OS]</p> <p>Windows 7 Ultimate / Enterprise / Professional / Home Premium / Starter (SP1)</p> <p>Windows Server 2008 R2 Standard / Enterprise (SP1)</p> <p>いずれも日本語版のみ</p>
対応ドメイン		Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2
対応ブラウザ		Internet Explorer 6 / Internet Explorer 7 / Internet Explorer 8
対応リモートデスク トップ接続プログラ ム		<p>シェルバージョン 6.0 以降</p> <p>コントロールバージョン 6.0 以降</p> <p>リモートデスクトッププロトコル 6.0 以降</p>
認証	登録指数	<p>最大 100 指</p> <p>(管理者 : 1 ~ 100 指)</p> <p>一般ユーザー : 最大 99 指</p>
	認証時間 ²	<p>USB2.0 接続時 : 約 2 秒 ³</p> <p>USB1.1 接続時 : 約 4 秒</p>
機能		<p>・ Windows ログオンおよびスクリーンセーバーロック解除時の指静脈による認証</p> <p>・ アプリケーションのパスワード入力時の指静脈による認証</p>

1 登録する指の数により必要な空き容量は変動します。

2 認証開始から認証終了までの時間。

(指を置いて撮影が可能になってからの時間です。指の置き方によっては認証時間が長くなる場合があります。)

3 撮影終了から認証終了までの時間は1秒以下です。

(バックグラウンドの処理によっては時間が掛かる場合があります。)

4 USB1.1 では一部のパソコンで動作しない場合があります。

USB1.1 は USB2.0 と比べて転送速度が遅いため、認証時間が遅くなります。

パソコンの USB2.0 のポートに USB1.1 のハブを経由して使用しないでください。

5 OS が要求するシステム要件がこれを上回る場合はそちらが優先されます。

13 トラブルを解決するには

この章では本装置のトラブルに対する対処方法を紹介しています。

トラブルが発生したら、まず本章をお読みください。

明らかにハードウェア障害と思われる場合は、ご購入先にご連絡ください。

■ 認証装置に USB ケーブルを繋いだが、状態表示 LED が緑点灯しない

USB ケーブルを繋いだが、状態表示 LED が点灯しない場合は、次の原因が考えられます。

- ・ 認証装置用のドライバが正しく組み込まれていない
 - 「2.4 ドライバインストールの確認」を参照して、お使いのパソコンに正しくドライバが組み込まれているかを確認してください。
- ・ お使いのパソコンの USB ポートが誤動作した
 - お使いのパソコンを再起動してください。
- ・ ハードウェアの故障が考えられます
 - ご購入先、または本書「1.1 お問い合わせ先」の日立コールセンタにご連絡ください。

■ 認証開始時や認証完了時にピープ音が鳴らない

- ・ ピープ音の設定が OFF になっていないかを確認してください
 - ピープ音の設定方法については、本書「6.8 ピープ音の ON/OFF」を参照してください。
- ・ ハードウェアの故障が考えられます
 - ご購入先、または本書「1.1 お問い合わせ先」の日立コールセンタにご連絡ください。

■ 指情報の登録に失敗する

「タイムアウトしました。」のダイアログが表示される場合

本製品での撮影時間は 1 回につき最大 10 秒となっています。10 秒で撮影できなかった場合は該当のダイアログが表示されます。

制限時間内に撮影が終わらないのは次の原因が考えられます。

・撮影中に指が動いている

→ 撮影中は指を認証ゾーンに正しく置き、撮影が終了するまで動かさないでください。

・指の表面が汚れている (荒れている)

指をけがした状態、手荒れした状態、土ぼこり等で汚れている状態で撮影を行おうとした場合、正しい画像が得られないために撮影が終わらない場合があります。

→ けが、手荒れのない手で撮影を行うか、手を綺麗にしてから再度撮影をしてください。

・指が太すぎる (細すぎる)

指が細すぎたり太すぎたりする場合 (指の幅が10mm 未満もしくは25mm 以上の場合)、正しい画像が得られないために撮影が終わらない場合があります。

→ 「指を伸ばしてみる」「指を深く入れる」「指を浅く入れる」等の指の置き方を試してください。一般的には指先をくぼみの部分に当てて、真っ直ぐにした状態で撮影を行ってください。

・認証装置の認証ゾーン部が汚れている

認証装置の認証ゾーン部に、指紋の跡や汚れがある状態で撮影を行おうとした場合、正しい画像が得られないために撮影が終わらない場合があります。

→ 「取扱説明書 ハードウェア編」の「4 認証装置のお手入れ」をお読みいただき、認証ゾーン部の汚れを取り除いてから再度撮影をしてください。

「指の撮影に失敗しました。操作をやり直してください。」のダイアログが表示される場合

本製品の指情報の登録は同じ部位を 3 回撮影し、それぞれの情報を比較することで行っています。該当のダイアログが表示されるのは次の原因が考えられます。

・撮影中に指が動いている

→ 撮影中は指を認証ゾーンに正しく置き、撮影が終了するまで動かさないでください。

・3 回の撮影を通して認証装置への指の置き方が一定していない

→ できるだけ一定の置き方で3回の撮影を行ってください。

「フィルタ条件に該当したため登録を中止しました。別の指を登録することをお奨めします。」のダイアログが表示される場合

本製品では、撮影したデータをフィルタリングすることで、認証に適さないデータが登録されないようにしています。このダイアログが表示された場合は、以下の対処法を実施してください。

- ・ 指の置き方を変えてみる

製品に添付の「登録・認証の仕方」をお読みいただき、正しい置き方を確認した上で撮影を行ってください。

- ・ 別の指を登録してみる

登録する指を変えて撮影を行ってください。

- ・ フィルタオプションを無効にする

上記の対処法によっても登録ができない場合は、フィルタオプションを無効にしてください。フィルタオプションを無効にする方法は[6.12 フィルタオプションの設定]を参照してください。

■ 認証に失敗する

「タイムアウトしました。」のダイアログが表示される場合

本製品での認証時間は1回の認証につき最大10秒となっています。10秒で認証できなかった場合は該当のダイアログが表示されます。

制限時間内に認証が終わらないのは次の原因が考えられます。

- ・ 認証中に指が動いている

→ 認証中は指を認証ゾーンに正しく置き、認証が終了するまで動かさないでください。

- ・ 指の表面が汚れている (荒れている)

指をけがした状態、手荒れした状態、土ぼこり等で汚れている状態で認証を行おうとした場合、正しい画像が得られないために認証が終わらない場合があります。

→ けが、手荒れのない手で認証を行うか、手を綺麗にしてから再度認証をしてください。

- ・指が太すぎる (細すぎる)

指が細すぎたり太すぎたりする場合 (指の幅が10mm未満もしくは25mm以上の場合)、正しい画像が得られないために認証が終わらない場合があります。

→「指を伸ばしてみる」「指を深く入れる」「指を浅く入れる」等の指の置き方を試してください。一般的には指先をくぼみの部分に当てて、真っ直ぐにした状態で認証を行ってください。

- ・認証装置の認証ゾーン部が汚れている

認証装置の認証ゾーン部に、指紋の跡や汚れがある状態で撮影を行おうとした場合、正しい画像が得られないために撮影が終わらない場合があります。

→「ハードウェア編」の「4 認証装置のお手入れ」をお読みいただき、認証ゾーン部の汚れを取り除いてから再度撮影をしてください。

「認証に失敗しました。」のダイアログが表示される場合
認証に失敗するのは次の原因が考えられます。

- ・指情報の登録を行っていない

→管理者権限を持つユーザーで登録の確認を行ってください。登録されていなければ、認証に必要な指情報の登録を行ってください。

- ・指を正しく置いていない

→登録時と同様の置き方で指を認証ゾーンに正しく置いてください。
登録が正しく行われていないと認証できないことがありますので、指情報を再登録してください。再登録は、該当の指情報を削除し、再度「指情報の追加」を行ってください。なお、指情報の削除は本書 [6.4 指情報の削除] を、指情報の追加は本書 [6.2 指情報の追加] をそれぞれ参照してください。また、初回登録時などは、認証の練習機能を使用して、認証の練習を行うことをお勧めします。(本書[6.10 認証の練習]参照)

- ・指の状態が登録時と異なる

→認証ができにくくなった場合(成長期の子供で指の状態が変わる場合等)は、指情報を再度登録してください。再登録は、該当の指情報を削除し、再度「指情報の追加」を行ってください。
なお、指情報の削除は本書「6.4 指情報の削除」を、指情報の追加は本書「6.2 指情報の追加」をそれぞれ参照してください。

「ログオンできません。」のダイアログが表示される場合

コントロールパネルから Windows のパスワードを変更した場合、本製品で管理している Windows のパスワードと整合性が取れなくなりエラーダイアログが表示されます。

正しくログオンできない場合は、緊急用パスワードを用いて認証を行ってください。緊急用パスワードに関しては本書「8 緊急用パスワードの利用」をお読みください。

「フィルタ条件に該当しました。」のダイアログが表示される場合

本製品では、撮影したデータおよび登録済みのデータをフィルタリングすることで、認証に適さないデータでは認証できないようにしています。このダイアログが表示された場合は、以下の対処法を実施してください。

- ・ 指の置き方を変えてみる

製品に添付の「登録・認証の仕方」をお読みいただき、正しい置き方を確認した上で撮影を行ってください。

- ・ 別の指で認証してみる

複数の指を登録している場合は、別の指で認証を行ってください。

- ・ 指を登録し直す

上記の対処法を実施しても認証できない場合は、認証できない指の指静脈データを削除し、新たに登録し直してください。指静脈データの削除については[6.4 指情報の削除]を、指の登録については[6.2 指情報の追加]を参照してください。

- ・ フィルタオプションを無効にする

指を登録し直せない場合は、フィルタオプションを無効にしてください。フィルタオプションを無効にする方法は[6.12 フィルタオプションの設定]を参照してください。

■ 認証が開始されない

認証装置を接続しているのに「使用可能な認証デバイスがありません。」のダイアログが表示される場合

- ・ 認証開始状態になっていない

→ 認証装置を接続すると状態表示 LED は点灯しますが、すぐに認証を開始す

ることができません。接続後5秒ほどお待ちください。

- エラーコード:02xxxxxx(x は任意の数字)が表示された場合は、USB コネクタの抜き差し、あるいは別のUSB ポートへの接続をお試しください。
上記をお試しいただいても認証できない場合は、ハードウェアの故障が考えられます。

お手数ですが、ご購入先もしくは日立コールセンタにご連絡ください。

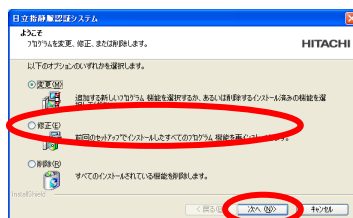
- ・認証装置用のドライバが正しく組み込まれていない

- 本書「2.4 ドライバインストールの確認」を参照して、お使いのパソコンに正しくドライバが組み込まれているかを確認してください。

- ・異なる認証装置が接続されている場合

認証装置を修理で交換した場合、複数の認証装置を使用している場合等で、ドライバをインストールしたときと異なる認証装置を接続すると、Windows ログオン時やユーザー管理機能の認証時に「使用可能な認証デバイスがありません。」と表示される場合がありますので、元の装置を接続するか、下記手順に従いソフトウェアの再インストールを行ってください。(Windows ログオン画面では、元の装置を接続するか緊急用パスワードでログオン後、ソフトウェアの再インストールを行ってください。)

1. 本製品に同梱されている「アプリケーション CD-ROM」をお使いのパソコンのCD-ROM ドライブに挿入します。
2. 「4 ソフトウェアのアンインストール」の ~ の手順に従い「プログラムの追加と削除」を起動してください。
3. の手順実行時に[変更]ボタンをクリックします。アンインストール用パスワードを設定している場合は、 の手順に従ってください。
4. 右の画面が表示されます。[修正(E)]を選択し、[次へ(N)] ボタンをクリックしてください。



5. 指静脈認証ソフトウェアのインストールの終了後、お使いのコンピュータの再起動を行います。

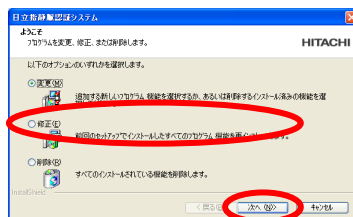
なお、インストール時と再インストール時の CD-ROM ドライブのドライブレターが異なる場合には、エラーダイアログが表示される場合があります。この場合は、現在の CD-ROM ドライブのドライブレターを入力してください

■ ユーザー管理機能が起動できない

ユーザー管理機能が起動できないのは次の原因が考えられます。

- ・ お使いのパソコンの Administrators グループに属しているユーザーでログオンしていない
→ Administrators グループに属しているユーザーでログオンしてください。
- ・ 認証に失敗する
→ 本書トラブルシューティングの「認証に失敗する」をご覧ください。
- ・ 「他のユーザーが実行中です。アプリケーションを終了します。」と表示される
→ お使いのパソコンにリモート接続して利用しているユーザーがユーザー管理機能を使用中である可能性があります。そのようなユーザーがないかどうか確認してください。
- ・ 「ワークステーション サービスが開始されていません」と表示される
→ お使いのパソコンで「Workstation」という名前の Windows サービスプログラムが停止している可能性があります。このサービスプログラムが動作していない場合、ユーザー管理機能を起動することはできません。システムの管理者に問い合わせ、「Workstation」サービスプログラムを開始してください。
- ・ 指静脈認証ソフトウェアが起動しない
→ なんらかの原因でユーザー管理機能が起動できなくなった場合は、指静脈認証ソフトウェアの再インストールを行うことにより正しく動作させることができる場合があります。下記手順に従い再インストールを行ってください。
 1. 本製品に同梱されている「アプリケーション CD-ROM」をお使いのパソコンの CD-ROM ドライブに挿入します。
 2. 「4.1 指静脈認証ソフトウェアのアンインストール」の ~ の手順に従い「プログラムの追加と削除」を起動してください。

3. の手順実行時に[変更]ボタンをクリックします。アンインストール用パスワードを設定している場合は、 の手順に従ってください。
4. 右の画面が表示されます。[修正(E)]を選択し、[次へ(N)] ボタンをクリックしてください。



5. 指静脈認証ソフトウェアのインストールの終了後、お使いのコンピュータの再起動を行います。

なお、インストール時と再インストール時の CD-ROM ドライブのドライブレターが異なる場合には、エラーダイアログが表示される場合があります。この場合は、現在の CD-ROM ドライブのドライブレターを入力してください。

それでも起動しない場合は本書「4 ソフトウェアのアンインストール」でソフトウェアを削除した後、再度「2 ソフトウェアのインストール」を参照してソフトウェアをインストールしてください

■ 認証装置を接続するとハードウェアインストールウィザードが起動する

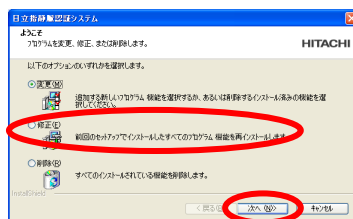
ドライバのインストールが完全に行われていない場合

ドライバのインストールが完了していない可能性があります。本書の「2 ソフトウェアのインストール」を参照して、正しくインストールを行ってください。

異なる認証装置が接続されている場合

認証装置を修理で交換した場合、複数の認証装置を使用している場合等で、ドライバをインストールしたときと異なる認証装置を接続した場合、ハードウェアインストールウィザードが起動する場合があります。その場合は、下記手順に従いソフトウェアの再インストールを行ってください。(Windows ログオン画面では「使用可能な認証デバイスがありません。」と表示されますので、元の装置を接続するが緊急用パスワードでログオン後、ソフトウェアの再インストールを行ってください。)

1. 本製品に同梱されている「アプリケーション CD-ROM」をお使いのパソコンのCD-ROM ドライブに挿入します。
2. 「4.1 指静脈認証ソフトウェアのアンインストール」の ~ の手順に従い「プログラムの追加と削除」を起動してください。
3. の手順実行時に[変更]ボタンをクリックします。アンインストール用パスワードを設定している場合は、 の手順に従ってください。
4. 右の画面が表示されます。[修正(E)]を選択し、[次へ(N)] ボタンをクリックしてください。



5. 指静脈認証ソフトウェアのインストールの終了後、お使いのコンピュータの再起動を行います。

なお、インストール時と再インストール時の CD-ROM ドライブのドライブレターが異なる場合には、エラーダイアログが表示される場合があります。この場合は、現在の CD-ROM ドライブのドライブレターを入力してください。

■ Windows をアップグレードインストールした場合

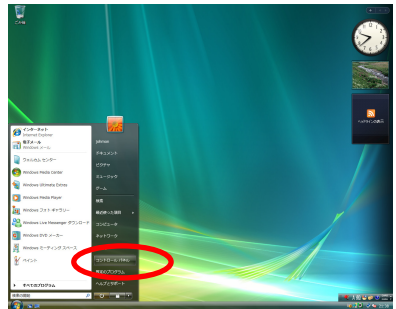
お使いの Windows XP を Windows Vista にアップグレードインストールした場合、もしくは Windows Server 2003 を Windows Server 2008 にアップグレードした場合は、指静脈認証ソフトウェアのアップデートインストールもしくは変更インストールが必要です。

- ・ アップデートインストール

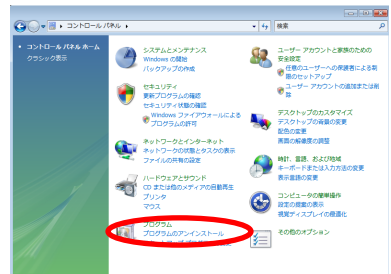
[2.3 以前のバージョンからのアップデートについて] を参照してアップデートインストールを行ってください。

- ・ 変更インストール

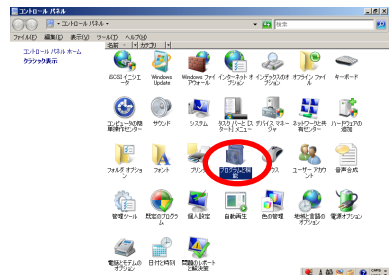
[スタート] → [コントロールパネル(C)] をクリックします。



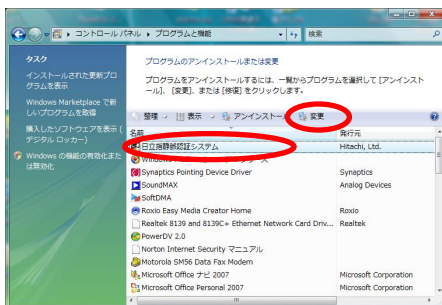
Windows Vista をお使いの場合は[プログラム]の[プログラムのアンインストール]をクリックします。



Windows Server 2008 をお使いの場合は [プログラムと機能]をダブルクリックします。



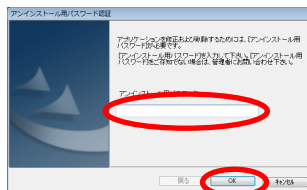
インストールされているプログラムが表示されます。
[日立指静脈認証システム]を選択し、
[変更]ボタンをクリックします。



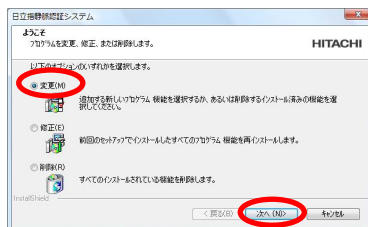
右の画面が表示されます。[続行(C)]ボタン
をクリックします。
表示されない場合は次の手順へ進みます。



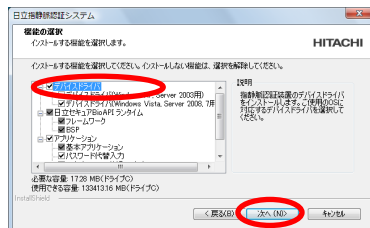
アンインストール用パスワードを設定
している場合にはパスワード入力ダイア
ログが表示されます。ユーザー管理機能か
ら設定したパスワードを入力し、[OK] を
クリックします。



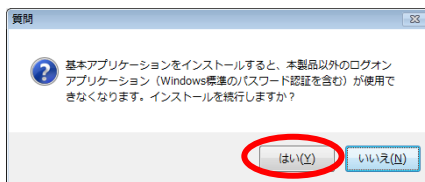
右の画面が表示されます。[変更(M)]を選
択して[次へ(N)]ボタンをクリックします。



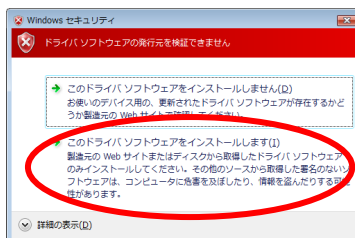
右の画面が表示されます。[デバイスドライバ]のツリーが閉じている場合は[+]マークをクリックします。[デバイスドライバ(Windows Vista, Server 2008, 7用)]のチェックボックスをクリックします。[デバイスドライバ(Windows XP, Server 2003用)]チェックボックスにチェックが入っている場合は、チェックを外します。



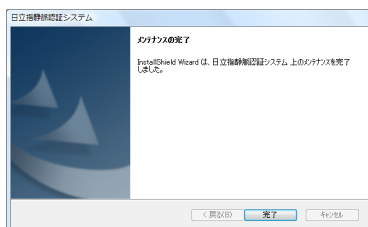
[基本アプリケーション]のチェックボックスにチェックが入っている場合は、右の画面が表示されます。警告をよく読み、問題ないことを確認した上で[はい(Y)]ボタンをクリックします。



お使いの環境によっては右の画面が表示されることがあります。警告をよく読み、問題ないことを確認した上で[このドライバソフトウェアをインストールします(I)]をクリックします。

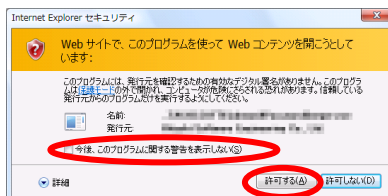


変更インストールが完了すると右の画面が表示されます。



■ Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 でアプリケーション起動時のセキュリティダイアログを表示しない方法

パスワード代替入力機能を使用する場合に、代替入力先のアプリケーション起動時に右の画面が表示されることがあります。以降、右の画面を表示しないように設定するには、[今後、このプログラムに関する警告を表示しない(S)]にチェックを入れ、[許可する(A)]ボタンをクリックしてください。

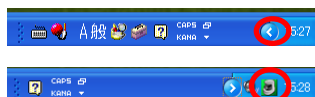


■ パスワード代替入力機能のアイコンが表示されてない場合

パスワード代替入力機能のアイコンがタスクトレイに表示されていない場合は、アイコンが隠されている可能性があります。そのような場合は、以下を確認してください。

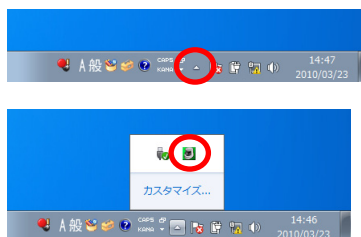
Windows XP / Server 2003 / Vista / Server 2008 をお使いの場合

画面右下にある左向きの矢印ボタン(右図参照)をクリックすると、隠れているアイコンが表示されます。



Windows 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合

画面右下にある上向きの矢印ボタン(右図参照)をクリックすると、隠れているアイコンが表示されます。

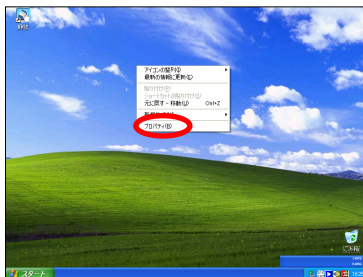


■ アプリケーションの画面レイアウトが崩れる場合

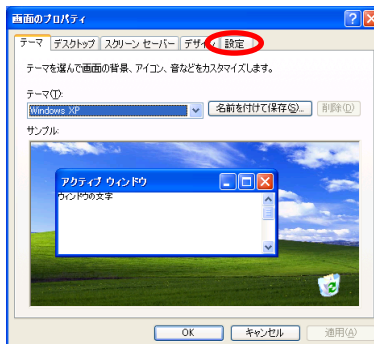
アプリケーションの画面のレイアウトが崩れている場合、お使いのパソコンの設定が原因である可能性があります。そのような場合は、以下を確認してください。

Windows XP / Server 2003 をお使いの場合

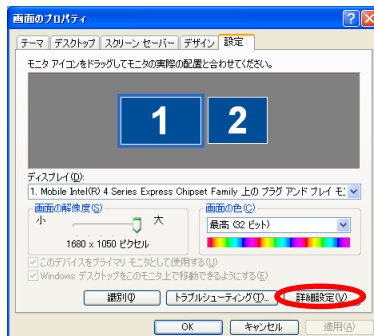
1. デスクトップ上で右クリックをし、表示されたメニューから[プロパティ(R)]を選択してクリックします。



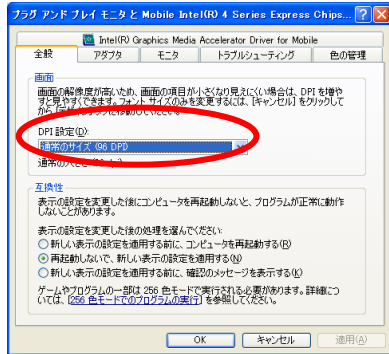
2. 画面のプロパティが表示されます。[設定]タブをクリックします。



3. [詳細設定(V)]ボタンをクリックします。

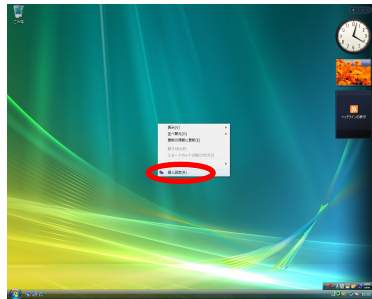


- 設定画面が表示されますので、**[DPI 設定(D)]**が**通常のサイズ(96 DPI)**になっていることを確認してください。
[DPI 設定(D)]が別の設定になっていた場合は、**[通常のサイズ(96 DPI)]**を選択し、**[OK]**ボタンをクリックします(設定変更後に再起動が必要です)。

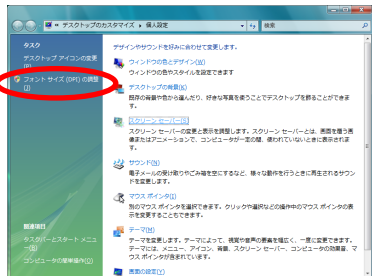


Windows Vista / Server 2008 をお使いの場合

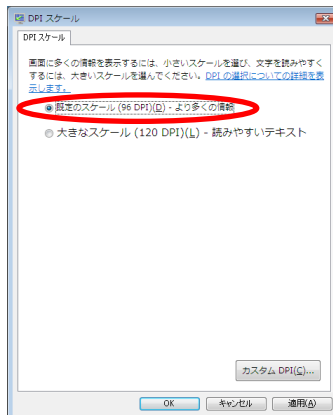
- デスクトップ上で右クリックをし、表示されたメニューから**[個人設定(R)]**を選択してクリックします。



- 個人設定画面が表示されます。画面左の**[フォントサイズ(DPI)の調整(J)]**を選択してクリックします。

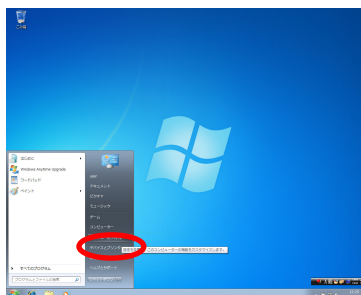


3. 設定画面が表示されますので、[既定のスケール(96 DPI)(D)]が選択されていることを確認してください。
[既定のスケール(96 DPI)(D)]が選択されていなかったら、そちらを選択して[OK]ボタンをクリックします(設定変更後に再起動が必要です)。

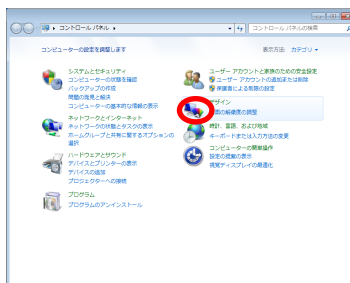


Windows 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合

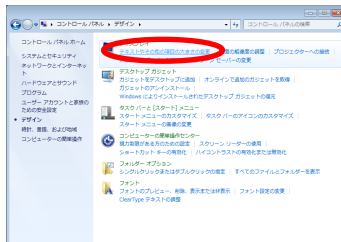
1. [スタート] → [コントロールパネル] をクリックします。



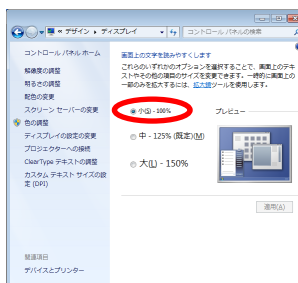
2. [画面の解像度の調整]の隣のアイコンをクリックします。



3. [テキストやその他の項目の大きさの変更]をクリックします。

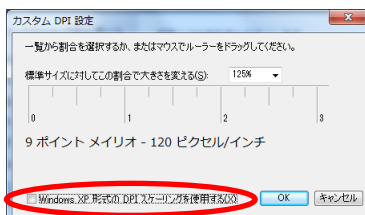


4. 設定画面が表示されますので、[小(S)-100%]が選択されていることを確認してください。
[小(S)-100%]が選択されていなかったら、そちらを選択して[OK]ボタンをクリックします(設定変更後にログオフが必要です)



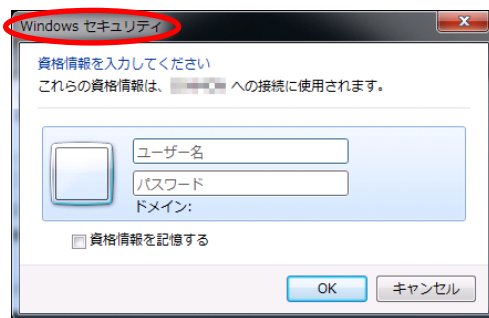
重要

Windows Vista / Server 2008 / 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合は、DPI 設定を変更する際に、[Windows XP 形式の DPI スケーリング]を使用する設定を無効にすることで、画面レイアウトが崩れないようになります。[Windows XP 形式の DPI スケーリング]を使用する設定は、Windows Aero を実行している場合にのみ変更可能です。



■ パスワード代替入力機能でベーシック認証画面を登録する際の注意

Windows 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合、Internet Explorer のベーシック認証画面と、エクスプローラーのベーシック認証画面は、それぞれ1つの接続先しか登録できません。これは、Windows 7 / Server 2008 R2 ではベーシック認証画面のウィンドウタイトルが接続先にかかわらず常に「Windows セキュリティ」という一定の表示となるために、パスワード代替入力機能がそれらの画面を区別できず、同一の画面として扱ってしまうことに起因します。



なお、Windows XP / Server 2003 / Vista / Server 2008 ではベーシック認証画面のウィンドウタイトルが接続先によって変化するので、パスワード代替入力機能はそれらの画面を区別し、別の画面として扱います。従って、Windows XP / Server 2003 / Vista / Server 2008 をお使いの場合は、Internet Explorer やエクスプローラーのベーシック認証画面をそれぞれ接続先ごとに複数登録することができます。

■ インストール時にエラーが発生する場合

「本製品と競合するソフトウェアがインストールされている可能性があります。」のダイアログが表示される場合

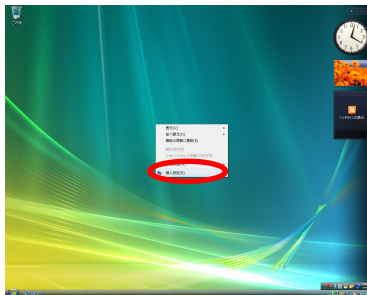
本製品と競合するソフトウェアがインストールされている場合、本製品をインストールすることができません。このダイアログが表示された場合は、競合するソフトウェア(AuthentiGate 等)がインストールされている可能性があります。そのような場合は、それらをアンインストールした上で再度本製品のインストールを実行してください。

14 付録

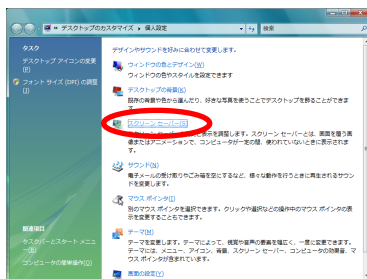
14.1 スクリーンセーバーの設定方法

14.1.1 Windows Vista / Server 2008 をお使いの場合

デスクトップ上で右クリックをし、表示されたメニューから [個人設定(R)] を選択してクリックします。



個人設定画面が表示されます。[スクリーンセーバー(S)]を選択してクリックします。



スクリーンセーバーの設定画面が表示されます。

設定後は [再開時にログオン画面に戻る(R)] にチェックが入っていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

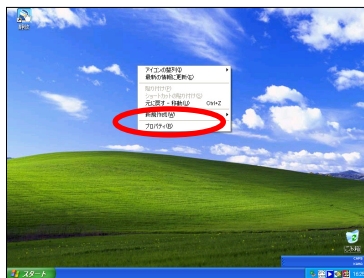


重要

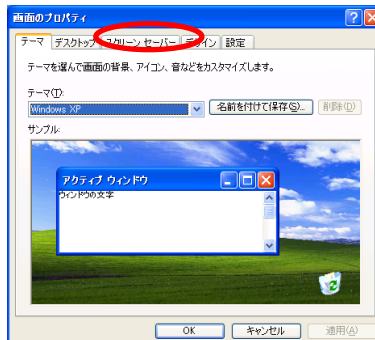
指静脈認証による保護を行う場合は [再開時にログオン画面に戻る(R)] をチェックしてください。

14.1.2 Windows XP / Server 2003 をお使いの場合

デスクトップ上で右クリックをし、表示されたメニューから [プロパティ(R)] を選択してクリックします。



画面のプロパティが表示されます。[スクリーンセーバー] タブをクリックします。



スクリーンセーバーの設定画面が表示されます。

設定後は [パスワードによる保護(P)] にチェックが入っていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

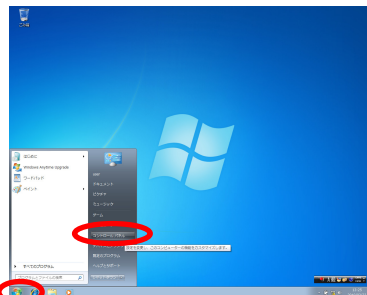


重要

指静脈認証による保護を行う場合は [パスワードによる保護(P)] をチェックしてください。

14.1.3 Windows 7 / Server 2008 R2 をお使いの場合

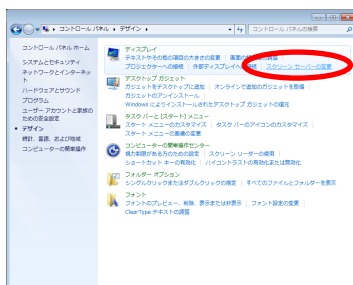
[スタート] → [コントロールパネル]
をクリックします。



[画面の解像度の調整]の隣のアイコンを
クリックします。

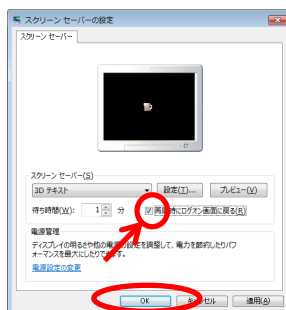


[スクリーンセーバーの変更]をクリック
します。



スクリーンセーバーの設定画面が表示されます。

設定後は [再開時にログオン画面に戻る(R)] にチェックが入っていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。



重要

指静脈認証による保護を行う場合は [再開時にログオン画面に戻る(R)] をチェックしてください。

14.2 指置き指示の画面について

指静脈認証ソフトウェアを新規にインストールした場合、または同ソフトウェアを以前のバージョンからアップデートした場合、指情報の登録時・認証時に表示される指置き指示の画面は下記(1)の画面が表示されます。

この指置き指示の画面を、下記(2)の従来バージョン画面でのご使用を希望される場合は、購入先へお問い合わせください。



(1) 現バージョンの画面



(2) 従来バージョンの画面

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。

それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

- Windows は米国 Microsoft Corporation の 米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の商標および製品名は、それぞれ保有している会社の商標および登録商標、あるいはそれらのいずれかです。

取扱説明書 ソフトウェア編

第 7 版 2011 年 5 月

無断転載を禁止します。

株式会社 日立製作所 セキュリティ・トレーサビリティ事業部

〒212-8567 神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地(日立システムプラザ新川崎)

お問い合わせ先: 日立コールセンタ 0120-921-789

© Hitachi, Ltd. 2006,2011. All rights reserved.

MN000S-007